

島原市全域の復興・振興
に関するアンケート調査報告書

1999(平成11)年 2 月

長崎大学工学部社会開発工学科
土木構造学研究室

高橋 和雄
塩津 雅子
西村 寛史

はじめに

この報告書は、雲仙普賢岳の噴火災害（平成2年－平成7年）によって直接的あるいは間接的に大きな影響を受けた島原市民を対象として平成9年9月に依頼したアンケート調査をまとめたものです。このアンケート調査は、島原地域の本復興計画がほぼ出揃い、いよいよ地域活性化のための復興事業が動きだそうとしたときに、実施しています。アンケートの依頼状によれば、次のように述べています。

「平成7年に雲仙普賢岳の噴火活動の停止が確認されてから、2年が経過しました。その後再噴火の兆候もなく、今日を迎えています。この間、水無川1号・2号砂防ダムの着工、治山ダムの建設、河川改修、島原深江道路の建設、島原鉄道の復旧、安中三角地帯の嵩上げ、農地の基盤整備などの各種の復興事業に加えて、がまだす計画などの島原半島全体の経済面の復興を目指した計画も策定されて、本復興計画も動きだしております。地域の活性化の柱となる火山観光化に向けて、火山科学博物館、土石流遺構の保存、砂防指定地の利活用などがこれから始まろうとしています。

噴火活動が停止し、本格復興が開始された現在、島原市全域のこれからのために、どのような対策が必要かを再度把握し、今後の計画づくりに反映させるために、島原市にお住まいの20歳以上の皆様の約3%の967人を無作為に抽出して、アンケート調査をお願いしました。」

この結果、408人から回答を頂きました。アンケート調査結果をすぐに報告書にまとめることができませんので、単純集計の結果とクロス集計結果を平成10年5月末に公表しました。しかし、分析やコメントが着いていませんでしたので、様々な解釈の新聞やテレビ報道がなされました。内容を分析したアンケート調査の報告書が必要と考えて、この報告書を刊行することにいたしました。この報告書では、噴火継続中に実施したアンケート調査とも比較しています。噴火災害を体験した島原市民の生活や災害対策、復旧・復興対策、防災などに対する考え方や認識がよく現われていると思っています。

現在、島原の復興事業は順調に進んでいますが、火山観光化に代表される地域活性化のための各種プロジェクトの実施や安中三角地帯のまちづくりはこれからです。今後とも皆様に島原の復興にご支援を頂きたいと願っています。なお、島原市の復興状況については、島原市ホームページ www.us1.nagasaki-noc.ne.jp/~simabara/を見て戴きたい。

最後に、報告書をまとめるにあたり、平成10年度教育改善推進費（学長裁量経費）

「雲仙普賢岳の噴火災害被災地の本復興の支援に関する調査研究」および河川環境監理財団の平成10年度河川整備基金助成金「雲仙普賢岳の火山災害おける砂防事業と地域復興の関わりに関する研究」の助成を得たことを付記する。

平成11年2月4日

高橋和雄

目 次

1. まえがき	1
2. アンケート調査の概要	1
3. 近隣の付き合い(コミュニティ)の変化	2
4. 島原市における生活環境について	
4.1 島原市での生活の現状	3
4.2 現在の生活の不便・不満	5
5. まちづくりについて	
5.1 島原市の人口予測	7
5.2 市街地の再整備について	7
5.3 市町村合併について	7
5.4 島原市のシンボルと将来の都市像	8
5.5 火山観光化について	9
6. 都市基盤の整備について	
6.1 公共下水道の整備について	11
6.2 島原市の地下水の安定確保について	12
6.3 各種整備に及ぼした噴火災害の影響	13
7. 島原市災害復興計画(改訂版)について	14
8. 本復興計画について	
8.1 がまだす計画について	15
8.2 砂防指定地利活用構想と緑のダイヤモンド計画について	19
9. 災害時の対応について	
9.1 避難計画の周知徹底について	20
9.2 避難訓練の実施について	21
9.3 今後の災害対策	22
10. 防災都市づくりについて	
10.1 今後心配される災害について	24
10.2 砂防ダム群の建設について	26
10.3 自主防災組織について	26
11. 地震防災計画について	27
12. まとめ	30
13. 参考文献	31
付録A：島原市全域の復興・振興に関するアンケート調査の依頼状	32
付録B：島原市全域の復興・振興に関するアンケート調査の集計結果	
B-1. 単純集計	33
B-2. クロス集計	57

1. まえがき

雲仙普賢岳の噴火災害(1990年～1995年)によって島原市では、水無川流域の安中地区および中尾川流域の杉谷地区の壊滅的な被害に加え、降灰や道路の寸断などにより市全域が大きな被害を受けた。噴火災害前の島原市は、水と緑に恵まれた観光保養都市を市勢振興計画¹⁾の目標として掲げ、自然と歴史を活かしまちづくりを行ってきた。その後、噴火災害にともない被災地を中心とした災害応急対策および復興対策が行われてきたが、全市的な復興計画については現市勢振興計画²⁾が平成7年に策定されていたものの、災害の長期化および被害の拡大への対策に追われたため、具体的な取り組みは行われていなかった。

島原市の災害復興計画(改訂版)³⁾では、復興の3本柱の1つとして「地域の活性化」が掲げられているが、生活再建や防災都市づくりが優先されるため、地域の活性化についてはやっと動き出した段階であり、まちづくりはこれから本格的に始まるという状況である。現在、砂防ダム、導流堤および道路の建設などのハードの基幹対策に加え、島原火山科学博物館(仮称)の整備、道の駅の建設、土石流遺構保存公園(仮称)の整備等の火山観光化を目指したソフト対策に向けての施設の整備が進められつつある。さらに、平成8年3月にがまだす計画(島原地域再生行動計画)⁴⁾が策定されるとともに、砂防指定地の利活用構想⁵⁾、国立公園雲仙の復興計画および島原都市計画マスタープラン⁶⁾の策定がなされた。

このような復興関連事業と連携を取りながら、市勢振興計画や都市計画マスタープランに基づいて市全域的なまちづくりを行う時期にきている。また、災害に伴う土地利用の変化および河川の拡幅や導流堤の建設による地域の分断などを考慮した上で、地域のコミュニティの再生を行う必要がある。

本研究では、島原市民を対象にして行った復興まちづくりに関するアンケート調査をもとに、地域のコミュニティの変化、現在の生活環境、まちづくり、都市基盤の整備、災害復興計画および本復興計画の市民の受け取り、災害時の対応および地震対策などにおける現状と課題を明らかにする。

2. アンケート調査の概要

「島原市全域の復興・振興に関するアンケート調査」は、平成9年9月に島原市全域の20歳以上の市民を選挙人名簿から無作為に約3%(967人)抽出し、郵送方式で行った。調査内容は表-2.1に示すよ

表-2.1 アンケートの質問項目と設問数

質問項目	設問数
住まい地区の現状について	6
島原での生活について	4
島原のまちづくりについて	9
災害復興計画について	5
がまだす計画について	5
災害時の避難対策について	6
防災都市づくりについて	6
地震防災計画について	6

表-2.2 地区別配布部数、回収部数および回収率

	配布部数	回収部数	回収率(%)
三会地区	127	44	34.6
杉谷地区	98	39	39.8
森岳地区	202	96	47.5
霊丘地区	176	86	48.9
白山地区	211	81	38.4
安中地区	153	56	36.6
計	967	408*	42.2

(* 無回答6部を含む)

表-2.3 回答者の年齢構成

N=408人		
年 齢	人数(人)	%
20歳代	32	7.8
30歳代	42	10.3
40歳代	88	21.6
50歳代	77	18.9
60歳代	79	19.4
70歳代以上	87	21.3
無回答	3	0.7

うに、多岐にわたっている。回収率は 42.2% (408人)であり(表-2.2), 噴火災害前からの島原市居住者が 93.0%を占めている。回答者の男女の割合はそれぞれ 46.3%, 52.0%(無回答 1.7%)となっており, 年齢別および職業別の回収数はそれぞれ表-2.3, 表-2.4に示すとおりとなっている。

集計における地区別分類は, 小学校区により分けられ比較的まとまったコミュニティで特徴ある性格を持つ三会, 杉谷, 森岳, 霊丘, 白山および安中の6地区(図-2.1)を基礎としている。またこの他, 職業別および年齢別分類においても分析を行う。

なお, アンケート依頼状を付録A, アンケート集計結果を付録B(単純集計をB-1, クロス集計をB-2)として記載した。

表-2.4 回答者の職業

N=408人		
項 目	人数(人)	%
農林業	21	5.1
漁業	6	1.5
自営工業	6	1.5
自営商業	46	11.3
公務員	33	8.1
会社員	101	24.8
専門職・自由業	23	5.6
家庭婦人	68	16.7
学生	0	0.0
無職	92	22.5
その他, 無回答	12	2.9

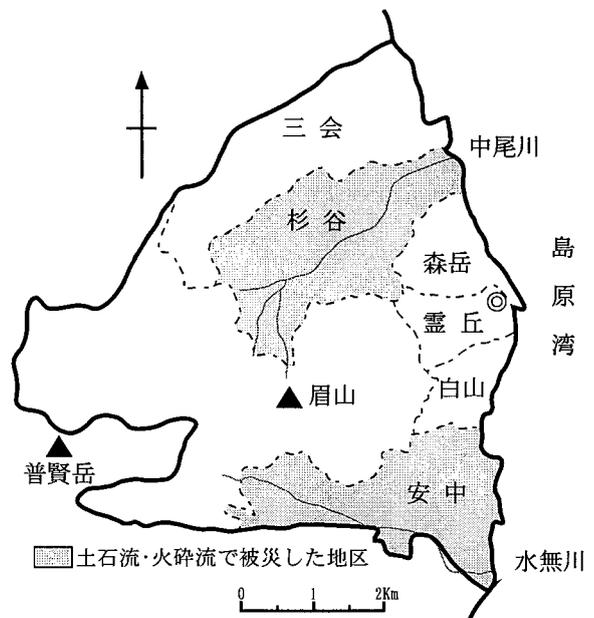


図-2.1 島原市の地域区分

3. 近隣の付き合い(コミュニティ)の変化

町内会行事への参加状況を聞いたところ, 「毎回参加する」および「よく参加する」が「めったに参加しない」を大きく上回っている(図-3.1)。長崎市で平成7年10月に行ったアンケート調査⁷⁾では自治会行事への積極的な参加は 37.7%となっており, これに比べ, 島原市民の町内会活動への自主的な参加の割合は高いということがいえる。

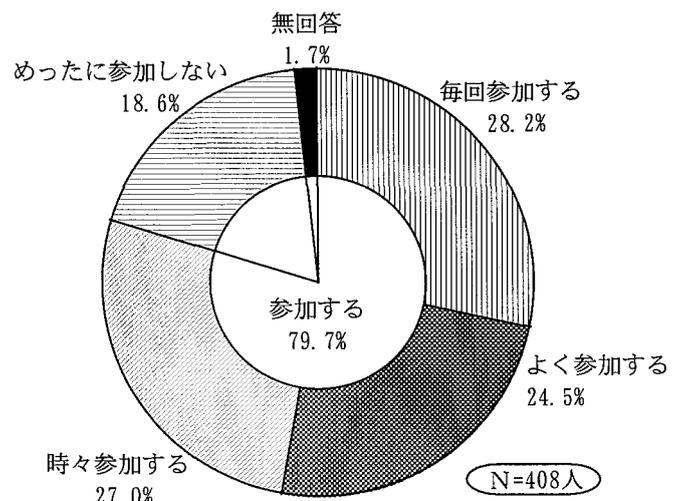


図-3.1 町内会行事への参加状況

実際に町内会で行われている活動としては、「清掃」、「スポーツ大会」、「資源物回収」、「敬老会」および「子供会(児童会)」が多くあげられている(表-3.1)。

表-3.1 町内会行事の内容

項目	N=408人(複数回答)	
	人数(人)	(%)
清掃	373	91.4
スポーツ大会	209	51.2
資源物回収	209	51.2
敬老会	197	48.3
子供会(児童会)	183	44.9
お祭り	88	21.6
公民館活動	67	16.4
旅行	48	11.8
盆踊り	34	8.3
カラオケ, ゲートボール大会	27	6.6
お茶, お花, 民謡などのお稽古ごと	26	6.4
防犯パトロール	19	4.7
見学会	10	2.6
その他, 無回答	12	3.0

災害前後の近隣の付き合いの変化については、多数の人が「ほとんど変わらない」としており、全体では「悪化した」に比べると「親密になった」という回答が多くなっている(図-3.2)。これは、降灰の除去や災害対策のための会合などにおいて地区内の人たちが顔を合わせる機会が増えたことによるものであると思われる。また、火砕流や土石流で大きな被害を受け、住宅の移転問題などが深刻で住民意見の取りまとめも難航した安中地区では、「多少悪化した」という回答が他の地区よりやや多くなっている。しかし、安中地区と同様な被害を受けた杉谷地区においては、「悪化した」という回答は見受けられない。これは、安中地区での災害対策の教訓が後で被災した杉谷地区での対応に生かされた結果といえる。

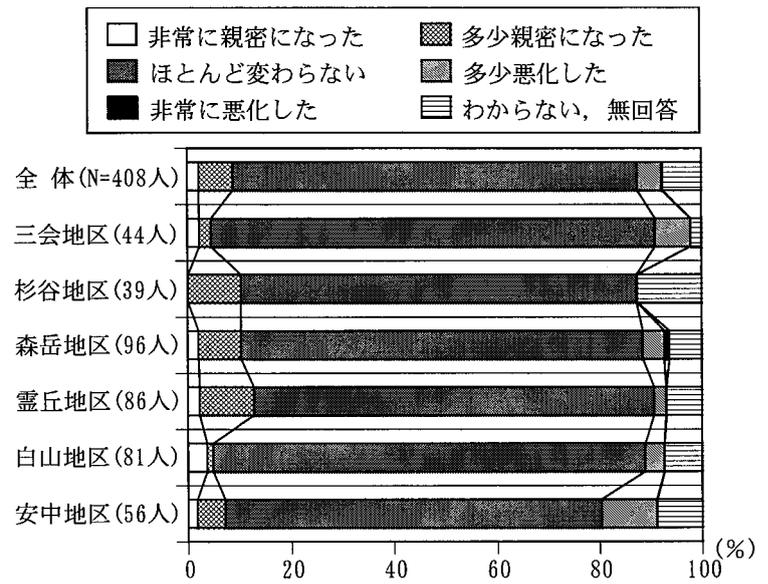


図-3.2 災害前後の近隣の付き合いの変化

4. 島原市における生活環境について

4.1 島原市での生活の現状

「今後も島原市に住み続けたいかどうか」という問いに対して、「住み続けたい」という回答が全体で88.7%となっている。これは、噴火活動継続中の平成6年12月に行ったアンケートの結果⁸⁾と同程度である。今回の調査結果を年齢別に見ると、「住み続けたい」とする割合は若年層ほど低く、20歳代では28.1%が「他の都市に移りたい」と答えている(図-4.1)。島原市に住み続けたい理由としては、「島原に愛着がある」、「家屋や畑が島原にある」および「身内が島原に住んでいる」という回答がそれぞれ

50%以上あり(図-4.2), 地域社会での生活をあげている人が多く見受けられる。一方, 他の都市に移りたい理由として, 平成6年12月の調査⁸⁾では, 「噴火の終息の見込みが立たず, 被害がどこまで広がるかわからないから」(84.6%)や「降灰やストレスなどで健康に不安がある」(57.7%)といった噴火活動に関連することがらが多くあげられていたが, 今回は, 「人口, 商工業の流出で市がさびれる」や「収入が少なく生活できない」といった島原市の活力の無さが多くあげられている(図-4.3)。また, 「眉山の崩壊の危険がある」という回答も20.6%あり, 住民の眉山崩壊へのおそれも見逃せない。「その他」の回答の中では, 特に20歳代で「もっと大きな都市に出てみたい」や「親元を離れてみたい」といった若者特有の理由が目立つ。

「災害前と比べた災害中の生活の変化」を聞いたところ, 全体の約30%が災害中に「生活が苦しくなった」と回答している。特に, アーケード商店街があり商業施設の多い霊丘地区で, 「かなり苦しくなった」および「非常に苦しくなった」という回答が多い(図-4.4)。職業別では, 漁業, 自営工業および自営商業で「少し苦しくなった」, 「かなり苦しくなった」および「非常に苦しくなった」を合わせると50%を超えている(図-4.5)。さらに, それぞれの75.0%, 100%, 89.7%が現在でも「災害前の状態に戻っていない」, 「回復していない」あるいは「かえって苦しくなっている」と回答しており, 現在でも生活の苦しい状況が続いていることが明らかになっている。これは, 今後の復興対策において配慮すべき重要事項である。

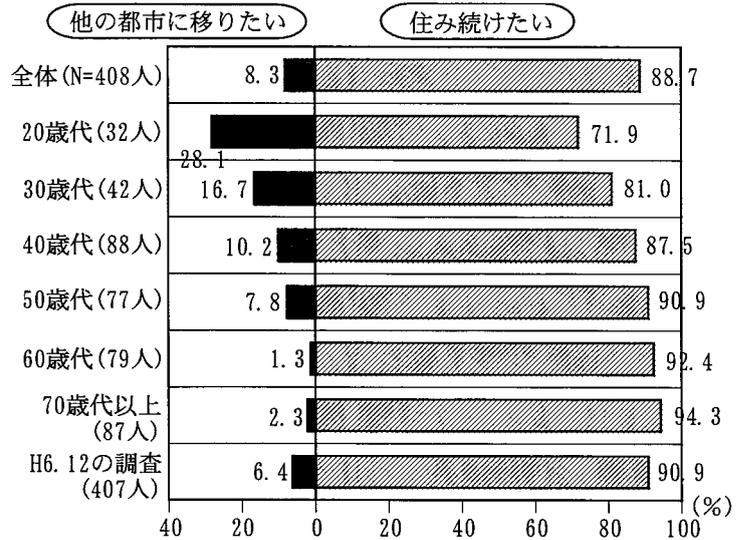


図-4.1 今後も島原市に住み続けたいかどうか (無回答を除く)

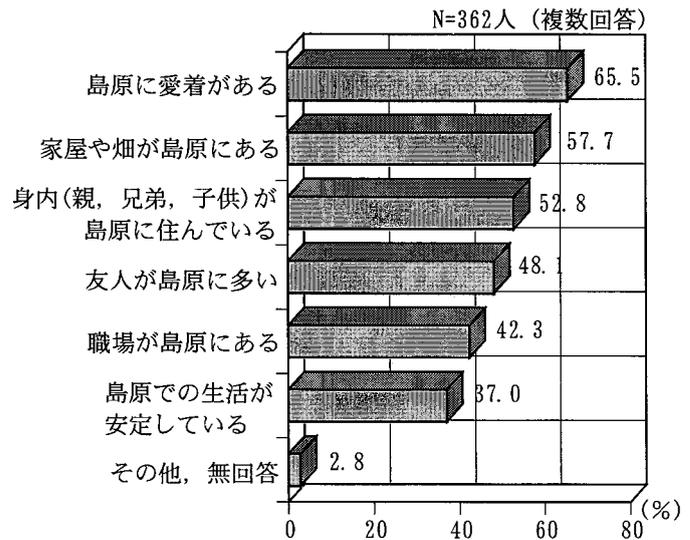


図-4.2 島原市に住み続けたい理由

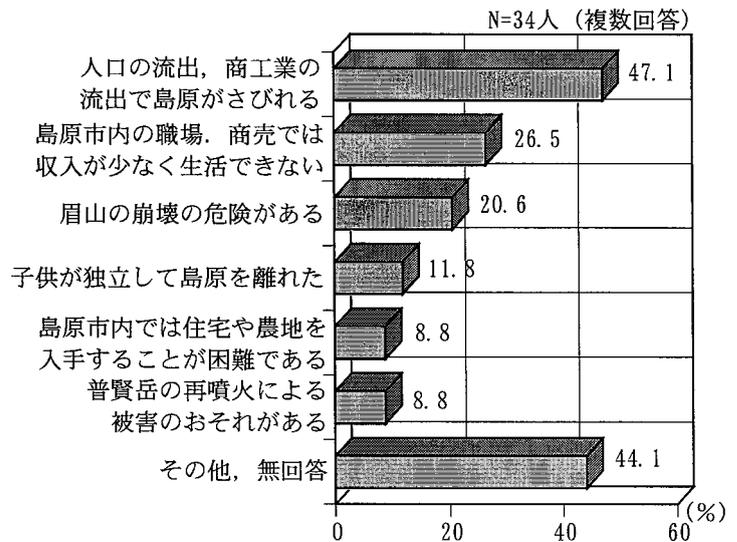


図-4.3 他の都市に移りたい理由

4. 2 現在の生活の不便・不満

現在の生活の不便・不満として、全体では「交通の便」、「収入」、「都市下水・廃水処理」、「仕事」および「健康・医療」が上位5位を占めている(表-4.1)。島原市内の幹線道路は国道251号の一路線だけであり、高速道路や空港へのアクセスが整備されていないため、観光ルートから取り残された状態であるとともに、災害時の避難道の確保の面においても「交通の便」は重要な課題となっている。また、島原市では公共下水道の基本計画は策定されているが、具体化への動きはなされておらず、市内の河川の汚濁が進み、湧水のまちのイメージ低下につながっている。また、平成6年12月のアンケート結果⁸⁾と比較すると、「降灰の除去」がなくなり「仕事」が増加している。上位5位の中に「収入」および「仕事」といった経済的問題が含まれていることから見ても、島原市の経済の落ち込みは深刻であるということがいえる。地区別に見ると、全体と同様な項目が上位を占めているが、杉谷地区では「買物」が他地区の約2倍、森岳地区では「高齢者福祉」が同1.7倍である。職業別では、農業で「健康・医療」、漁業で「収入」、自営工業で「仕事」、無職で「高齢者福祉」が目立っており、それぞれの職業において特色が見られる。また、「災害(土石流、浸水、眉山など)」は全体の7位となっているが、これは地区ごとに大きな差があり、水無川流域の安中地区、中尾川流域の杉谷地区および眉山が背後に迫る霊丘地区では20%を超える回答があるが、三会および森岳地区では約9%と他地区の半分以下となっている。

今後、島原市でも高齢化社会が進むことが考えられるが、これへの対策としては、「訪問介護事業の充実」、「老人保健施設の整備」および「デイサービスの充実」等が多くあげられている(表-4.2)。

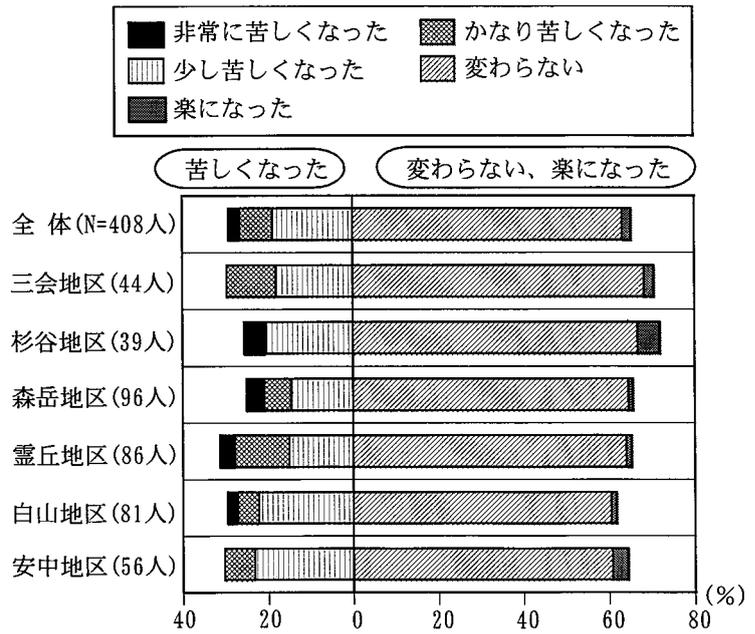


図-4.4 災害前後の生活の変化(地区別)
(無回答を除く)

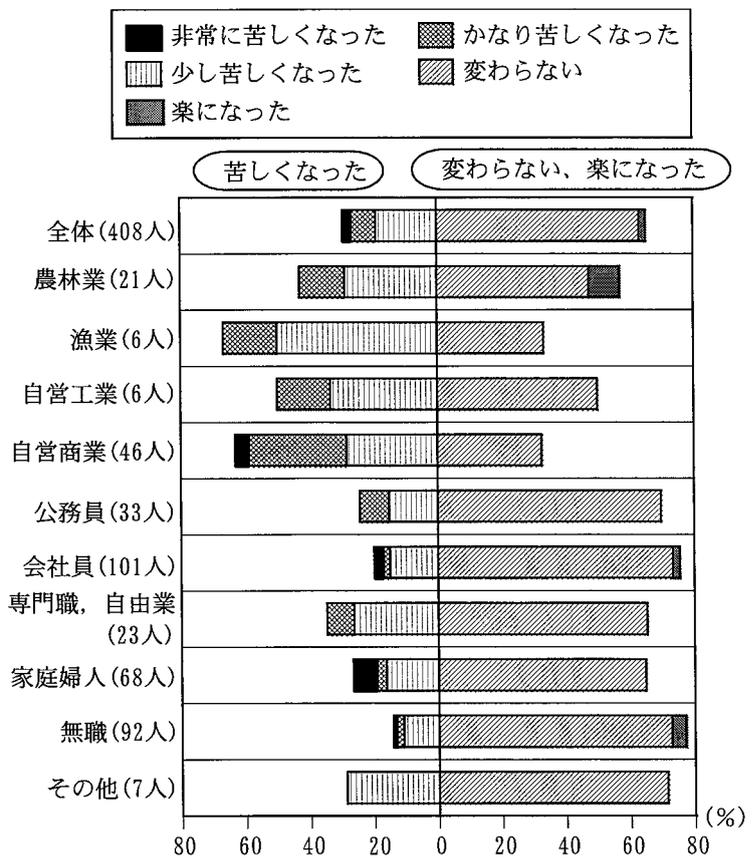


図-4.5 災害前後の生活の変化(職業別)
(無回答を除く)

表-4.1 現在の生活の不便・不満

(複数回答)

項 目	今回の結果 (N=408人)		H6.12の結果 (N=384人)	
	人数(人)	(%)	人数(人)	(%)
交通の便	166	40.7	158	48.2
降灰の除去	—	—	171	44.5
収入	124	30.4	114	29.7
都市下水・廃水処理	117	28.7	152	39.6
仕事	110	27.0	73	19.0
健康・医療	110	27.0	92	24.0
高齢者福祉	87	21.3	67	17.4
災害(土石流, 浸水, 眉山など)	66	16.2	—	—
駐車場	59	14.5	68	17.7
買物	54	13.2	19	4.9
情報の入手	46	11.3	32	8.3
交通安全	39	9.6	—	—
文化活動	35	8.6	27	7.0
住宅	34	8.3	51	13.3
子供の教育	31	7.6	36	9.4
人間関係	31	7.6	18	4.7
騒音	29	7.1	18	4.7
スポーツ・レクリエーション	27	6.6	28	7.3
衛生	23	5.6	15	3.9
プライバシー	17	4.2	7	1.8
生活学習	13	3.2	12	3.1
その他・無回答	55	13.5	—	—

表-4.2 今後必要な高齢化対策

N=408(複数回答)

項 目	人数(人)	(%)
訪問看護事業の充実	179	43.9
老人保健施設の整備	172	42.2
ホームヘルプサービスの充実	158	38.7
デイサービスの充実	154	37.7
通院に対するバス回数券やタクシーチケットなどの支給	145	35.5
特別養護老人ホームの整備	144	35.3
買物などの生活支援サービス	118	28.9
社会参加の機会の提供 (シルバー人材センターの充実)	116	28.4
歩道にベンチの設置	91	22.3
ショートステイの充実	69	16.9
バス路線の新設	64	15.7
その他, 無回答	39	9.6

5. まちづくりについて

5.1 島原市の人口予測

島原市の人口は、昭和 60 年の 46,061 人をピークに平成 2 年の 44,828 人とゆるやかに減少を続けていたが、平成 7 年には 40,778 人と噴火災害の影響を受けて大幅に減少した。今後の島原市の人口がどのようになると思うか質問したところ、「昭和 60 年や平成 2 年の人口まで回復する」という見方は少数で、「現在の状態が続く」や「このまま減少し続ける」という回答が多数を占める(図-5.1)。多くの市民は、今後の人口増加は難しいという見方をしていることがわかる。

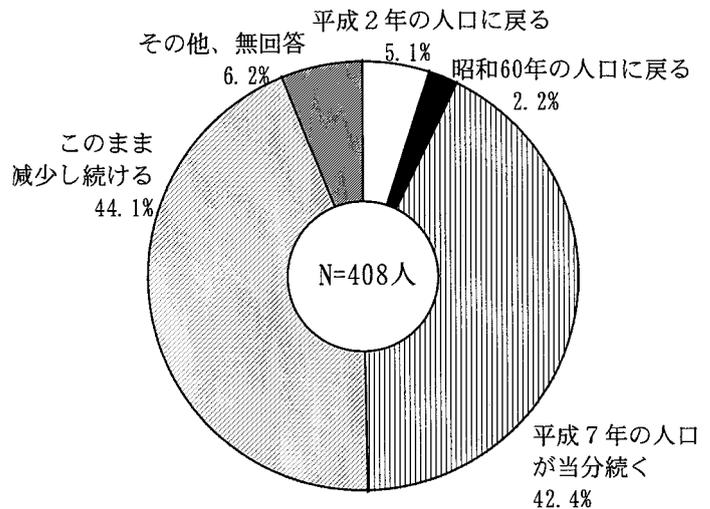


図-5.1 今後の人口変化の予測

5.2 市街地の再整備について

今後新しく市街地化する場合にどこを中心にして行うべきかという問に対しては、「島原外港」という回答が半数近く、次いで「三会地区(国道251号沿い)」、「杉谷地区(島原道路沿い)」となっている(図-5.2)。

また、現在の島原市役所を移転・建直する場合には、「現在位置」を希望する人が最も多く、次いで「大手浜埋立地」が多くあげられている(図-5.3)。この回答から見ると、市民の多くは、現在の市役所の位置に満足しており、現在位置から離れた場所への移転は特に望んでいないことがわかる。

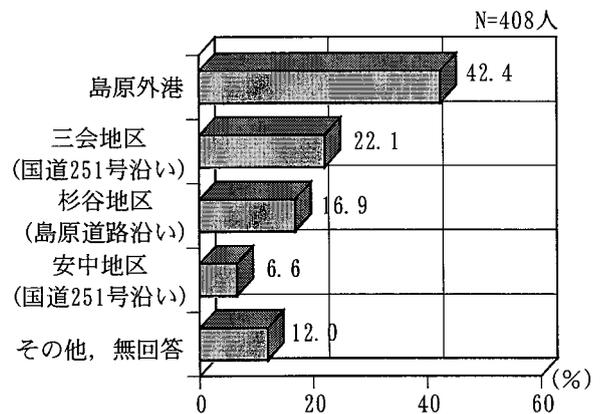


図-5.2 今後の市街地化を行う場合の候補地

5.3 市町村合併について

島原半島では半島の活性化のために市町村合併を行うべきという声もあり、がまだす計画⁴⁾でも「島原半島市町村合併調査検討事業」は重点プロジェクトの1つとなっている。そこで、市町村合併について住民の賛否を聞いたところ、「賛成」が「反対」を上回っているが「どちらともいえない」という回答も3分の1程度見られる(図-5.4)。平成6年12月の調査⁸⁾と比較す

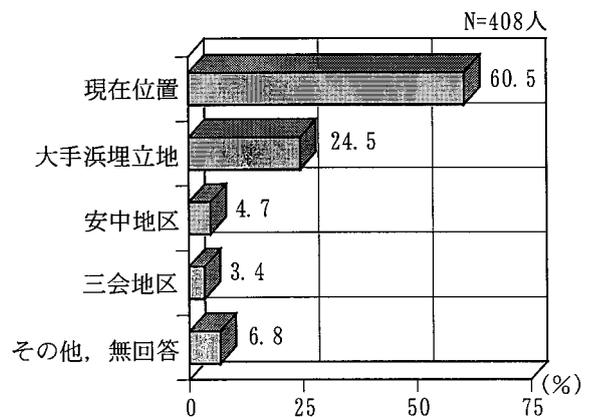


図-5.3 市役所の移転先の希望

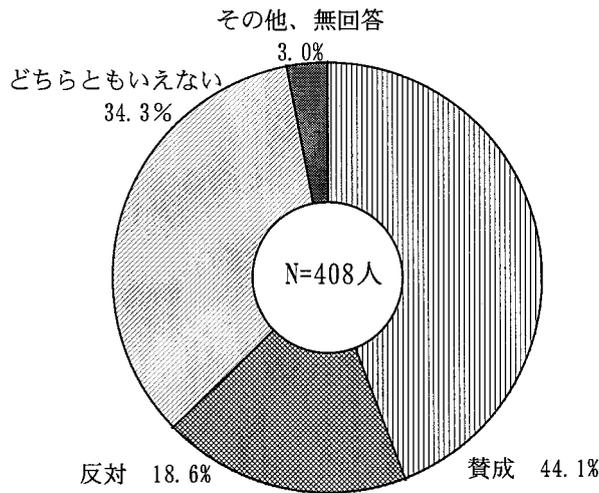


図-5.4 市町村合併への賛否

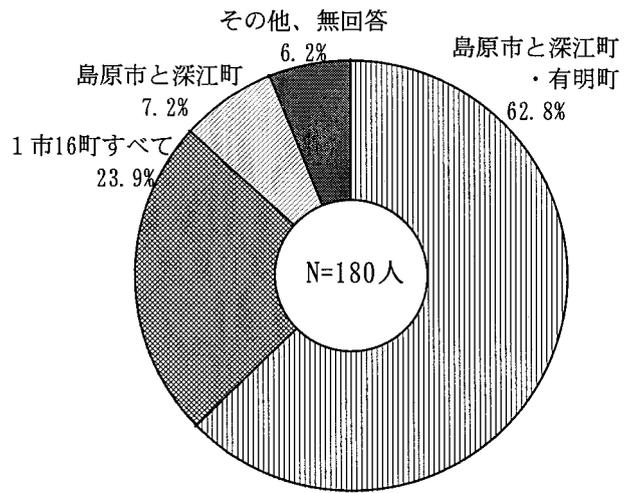


図-5.5 合併する場合の市町の組み合わせ

ると、「賛成」が約6%減少し、「どちらともいえない」が約4%増えている。合併する場合の市町の組み合わせとしては、「島原市と深江町・有明町」が半数を超え、次いで「1市16町すべて」となっている(図-5.5)。合併に賛成する理由としては、「広域行政を行うことによって行政改革ができる」が最も多く(図-5.6)、がまだ計画での施策テーマである「広域行政の推進」と一致している。また、「行政区画の区分による災害対策などの差が無くなる」という回答も見られ、雲仙普賢岳噴火災害時における行政の対応への不満が伺える。一方、反対の理由としては、「合併するメリットがはっきりしない」が圧倒的に多い(図-5.7)。

5.4 島原市のシンボルと将来の都市像

市民が考える島原市のシンボルとしては、「島原城」が圧倒的に多く、次いで「湧水」があげられ、噴火災害後の新しいシンボルである「普賢岳(平成新山)」は3位になっている(図-5.8)。噴火災害前、島原市は「美しさと豊かさで整備された観光保養都市」を目指し、国土庁の「水緑都市モデル地区」整備事業を行うなど「湧水」と「緑」の整備を続けてきたが、火砕流や土石流でこれらが大きな被害を受け、市民の中でもこれらの貴重な資源、特に「緑」が重要視されなくなってきた

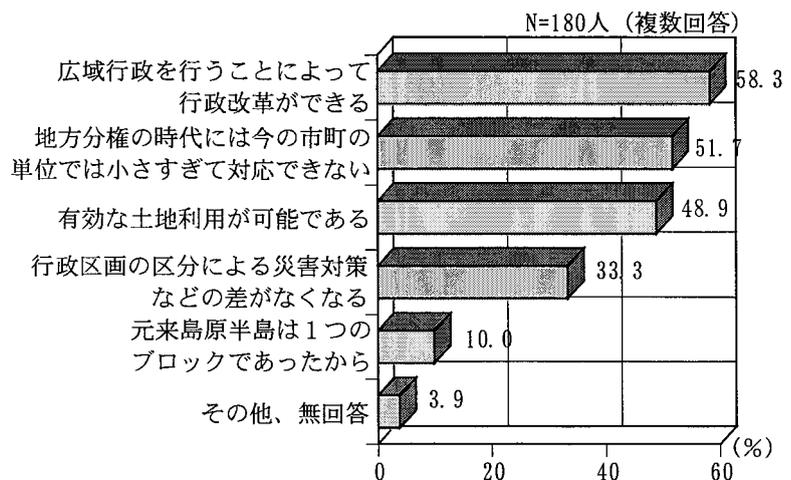


図-5.6 合併に賛成する理由

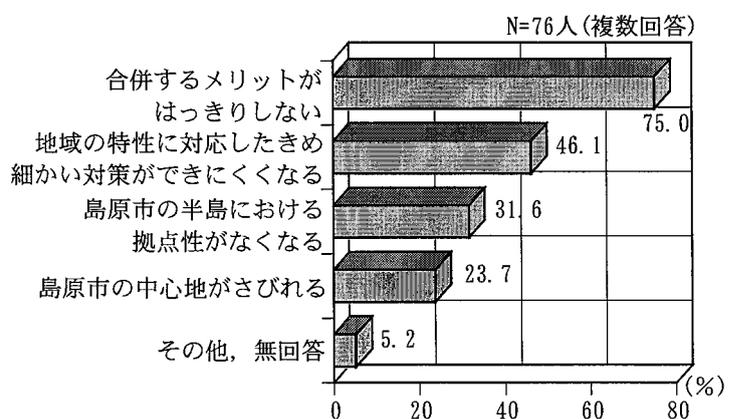


図-5.7 合併に反対する理由

ているようである。

また、島原市全体の将来の都市像を選んでもらったところ、前市勢振興計画¹⁾で目指していた「観光保養都市」が最も多く、次いで現市勢振興計画²⁾で目指している「国民公園都市」となっている(図-5.9)。これは、「国民公園都市」に比べ「観光保養都市」の方が、具体的な内容を知らなくても全体のイメージが作りやすいということも一因と考えられる。しかし、噴火災害前の観光資源に噴火災害に伴う新しい資源を加えた個性的な都市空間づくりを目指すという「観光保養都市」の発展形である「国民公園都市」の在り方が市民全体に浸透していないことも事実である。コンセプトの明確化および住民にわかりやすい説明の工夫などが望まれる。一方、農業地域が多く残っている郊外の三会、杉谷地区で

は「田園都市」という回答がそれぞれ18.2%、12.8%と他地区より多い。これは、現在のそれぞれの地区の環境を維持していきたいという住民の意志の現われかと思われる。しかし、全体では「観光保養都市」や「国民公園都市」という観光を主体とした都市像が多くあげられており、観光資源のない三会、杉谷および白山地区においても観光を期待せざるをえない状況が伺える。観光は、農業、漁業および商工業といった各種消費を促す裾野が広いものであるため、今後の雇用・消費に結びつく可能性が高く、市の活性化に役立つことが期待される。しかし、それぞれの地区が元来持っている個性を失わないまちづくりも重要であり、

今後は、この緑や湧水といった島原市固有の資源の回復に加え、火山観光化の核となる安中地区における諸計画の実現が求められる。

5.5 火山観光化について

島原地域では、雲仙普賢岳の噴火災害の長期化で広範囲に広がった間接被害の回復を目指しているが、現在の経済状況においては企業誘致策による地域の活性化は望めない。このため、がまだす計画(地域再生行動計画)⁴⁾の重点プロジェクトにおいて島原火山科学博物館(仮称)の建設、道の駅および土流災害遺構保存公園(仮称)の整備等の火山観光化の推進があげられており、事業化が進められている。この火山観光化については「期待できる」という回答が58.6%あるものの、このうちの半数以上が「やや

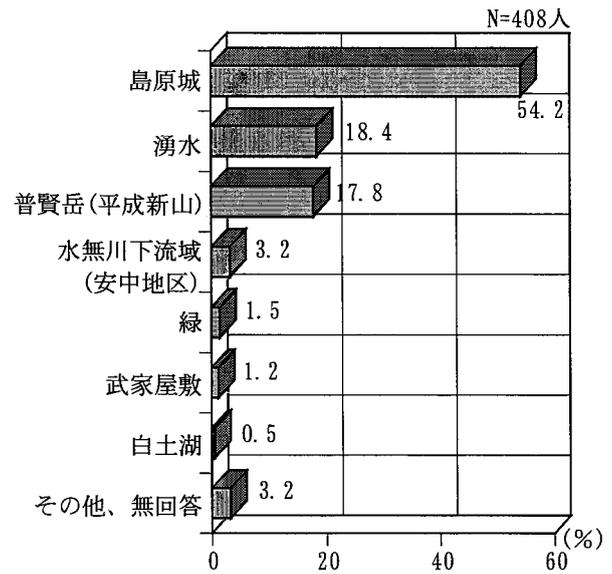


図-5.8 島原市のシンボル

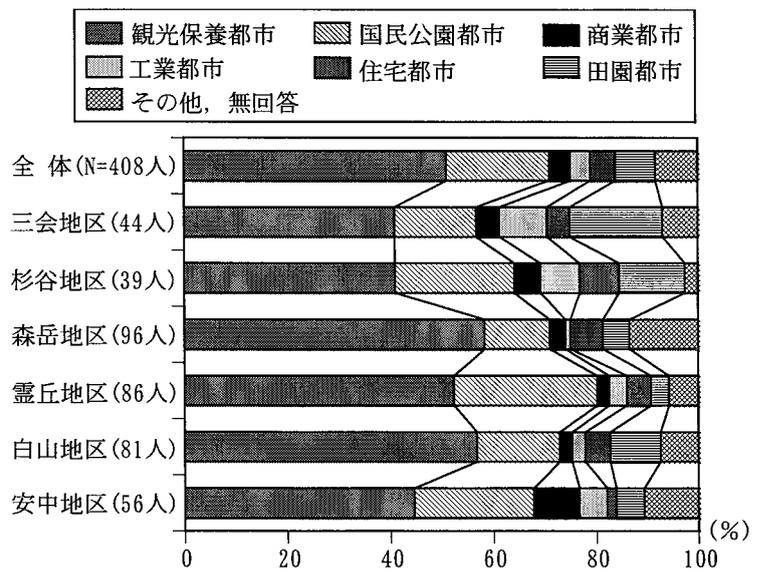


図-5.9 島原市の将来の都市像

期待できる」というものである(図-5.10)。また、「期待できない」という回答も38.5%あり、-火山観光化への市民の期待は高いとはいえないという結果が出ている。期待できる理由としては、「平成新山のイメージが全国に知られている」が58.6%で最も多くなっており、次いで「地域の活性化には火山観光化しか残されていない」となっている(図-5.11)。一方、期待できない理由としては、「地域住民と行政の間に意識のずれがあり、まだ定着していない」、「火山観光化を受け入れる宿泊施設、道路、下水道およびまち並みの整備が遅れている」がそれぞれ40%を超える回答になっている(図-5.12)。前章で述べた「現在の生活の不便・不満」においても「交通の便、都市下水・廃水処理および駐車場」が多くあげられている。火山観光化を行い、観光客を受け入れる場合においてもこの各種整備の遅れが課題となることは当然であり、観光化のためにもこれらの整備は不可欠であるといえる。

職業別では、農林業および漁業で「おおいに期待できる」、「かなり期待できる」という回答が半数を超えている(図-5.13)。しかし、自由業・専門職、自営商業、自営工業、公務員および家庭婦人の回

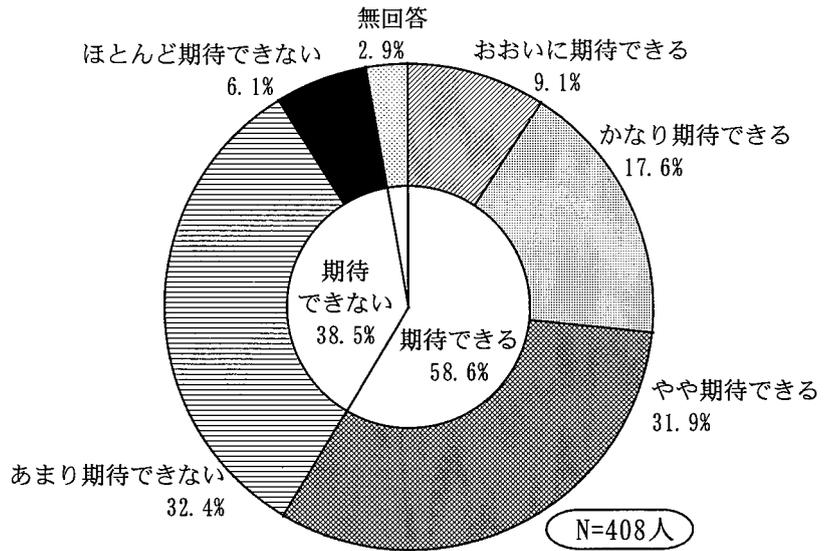


図-5.10 火山観光化に期待できるかどうか

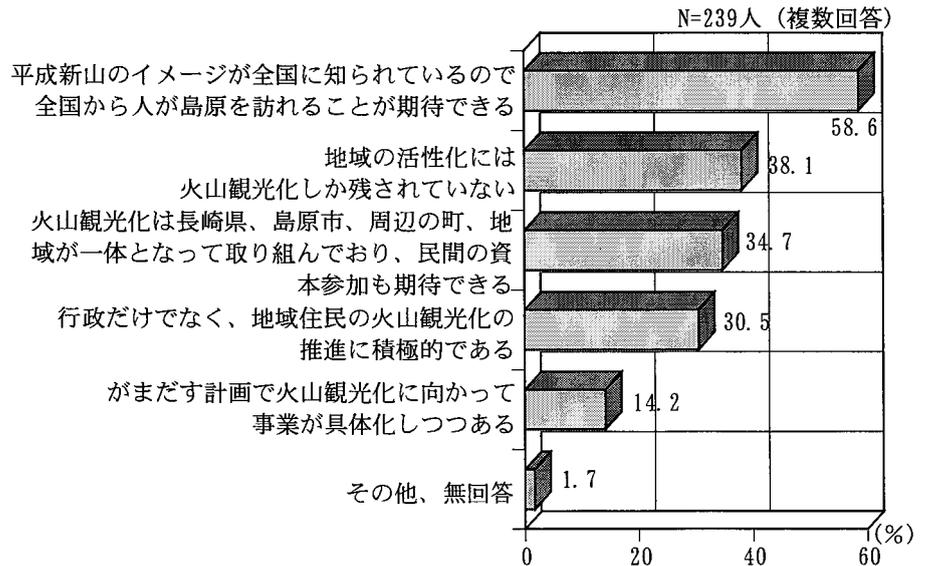


図-5.11 火山観光化に期待できる理由

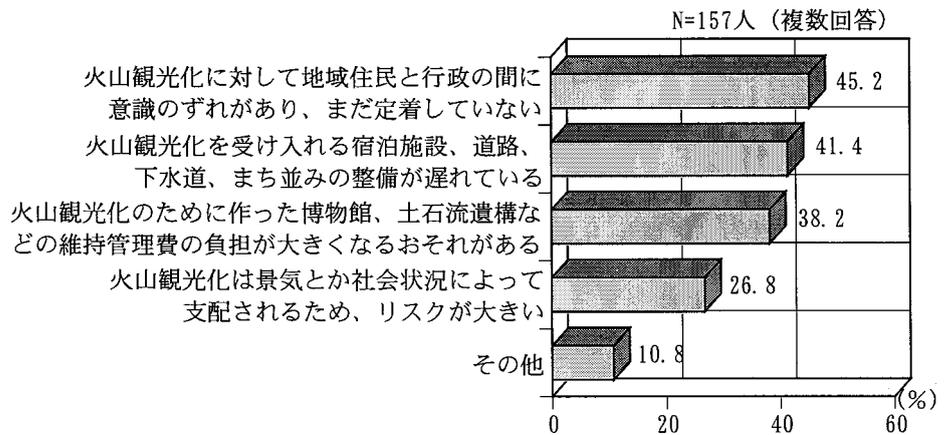


図-5.12 火山観光化に期待できない理由

答では「あまり期待できない」という回答の割合が多い。火山観光化は地域の活性化を目的としており、特に自営商工業において大きな効果が見込まれるものの、現時点ではこれらの職業における期待は低い。今後は、行政が住民に対して、火山観光化によって地域にもたらされる効果や個々の役割などをはっきり示すことで、火山観光化の重要性を訴えることが必要と考えられる。

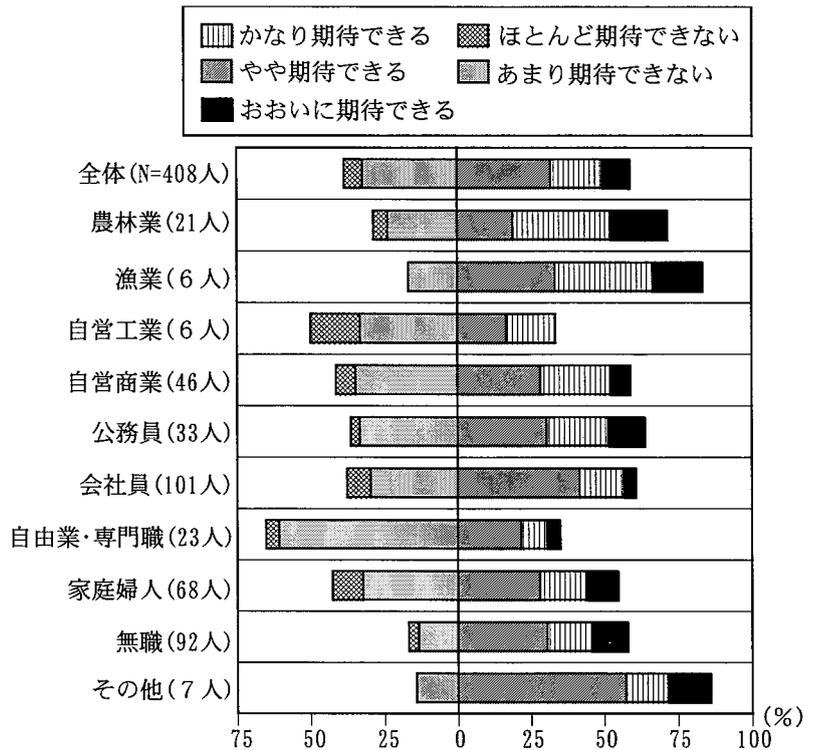


図-5.13 火山観光化に期待できるかどうか(職業別)
(無回答を除く)

6. 都市基盤の整備について

6.1 公共下水道の整備について

島原市では、公共下水道事業基本計画が昭和55年に策定されているものの、未だ実施計画は策定されていない。下水道整備についての意見を聞いたところ、「下水道は必要である」という回答がほとんどで(図-6.1)、市民の間でも十分に必要性は感じられている。平成6年12月の調査⁸⁾においても、「必要である」という回答が圧倒的に多くなっており、必要な理由も今回の調査と同様なものが多くあげられていた。しかし、今回の結果では「自己負担が多いから無理」という項目で約2倍の回答がある。これは、現在の経済状況の悪化が一因かと考えられる。復興計画や振興計画に置いても公共下水道の

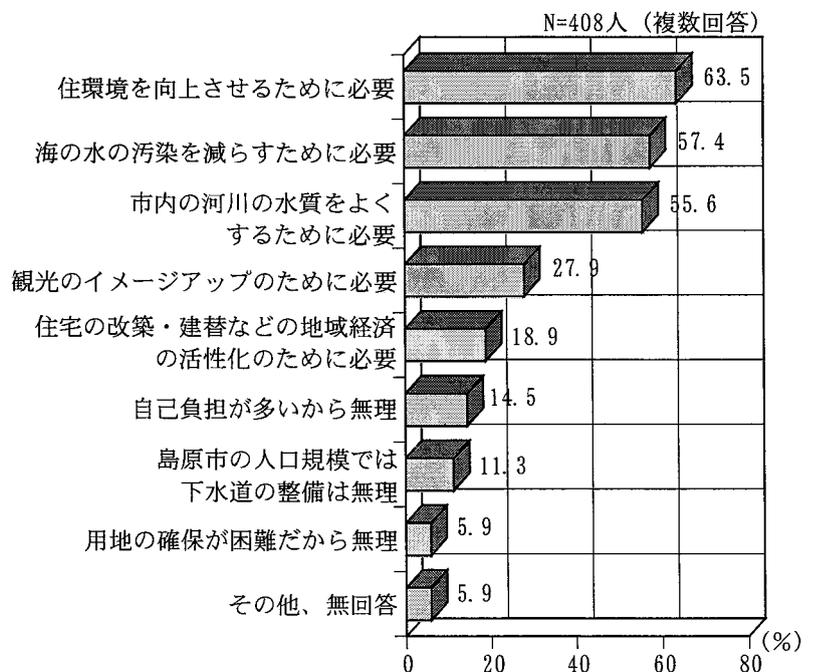


図-6.1 公共下水道の整備について

整備の必要性は指摘されているが、現在でも具体的な動きがなされていない。公共下水道の整備は、家屋の改修などによる経済効果も考えられるとともに、火山観光化を進める場合においても必要とされる。問題を先送りするだけでなく、具体化の可能性をきちんと検討すべきである。

6.2 島原市の地下水の安定確保について

島原市は、豊富な地下水源を持っており、その湧水群は「名水百選」の1つで「水の郷」にも選ばれている。島原市では、上水道はもとより農業用水等の産業用水を含め、水源のほとんどを地下水源に頼っている。しかし、雲仙普賢岳の噴火活動開始後、いくつかの湧水地で枯渇や水量の変化が見られ、湧水の減少が心配されている。そこで、将来の地下水源の確保について質問したところ、全体の70%弱が「将来の地下水源の確保について心配である」と回答しており、平成6年12月の結果⁸⁾と比較すると約6.5%増加している(図-6.2)。島原市の湧水量の約3分の1を占め、火

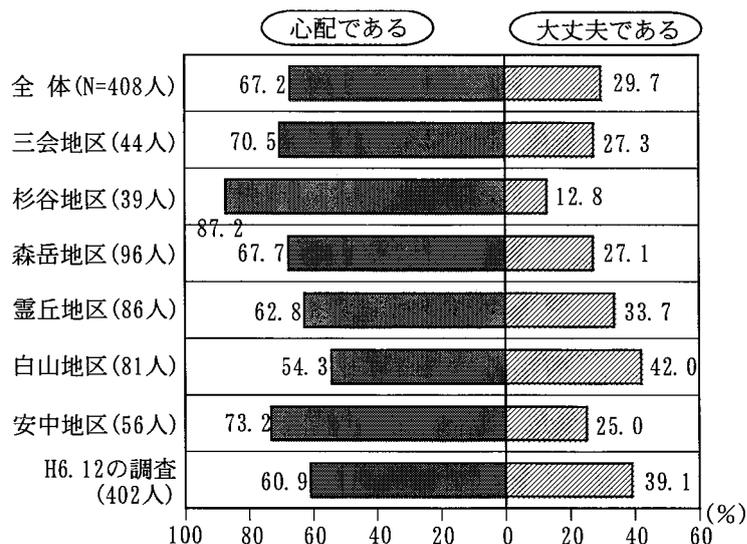


図-6.2 地下水の将来の確保について (無回答を除く)

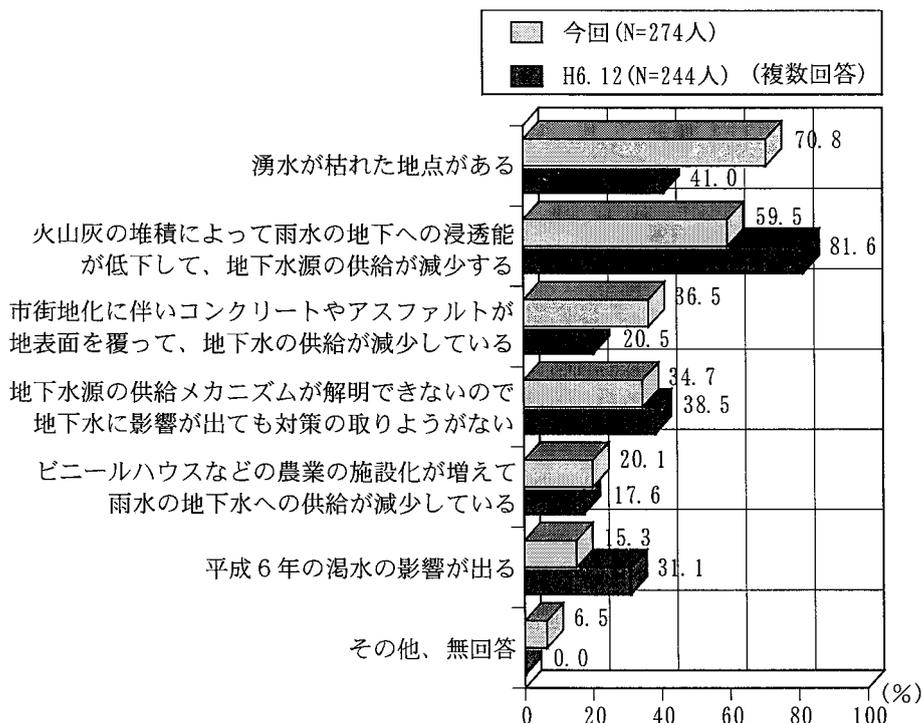


図-6.3 将来の地下水源について心配な理由

砕流や土石流の大きな被害を受けた中尾川流域の杉谷地区では、「心配である」という回答が他の地区より特に多くなっている。心配な理由としては、「湧水が枯れた地点がある」が、平成6年12月に比べ約30%増加して最も多くなっており、地下水の減少を身近に感じている人が増えていることがわかる。また、平成6年12月に最も多かった「火山灰による浸透能の低下」という回答は、噴火が終息し約20%減少しているものの59.5の回答があり、依然として噴火活動の影響を感じている人が多いようである。今後必要とされる対策としては、「地下水の実態調査を行う」という回答が69.0%で最も多く(図-6.4)、市民は現在の湧水の状況を把握すべきと感じているのがわかる。また、「浸透ますや浸水舗装を導入す

る」という回答もあり、実際に何らかの手だてを考えるべきであるとする人も多い。

6.3 各種整備に及ぼした噴火災害の影響

島原市内における各種事業や施設整備など18項目において、噴火災害によって①進んだ、②無関係および③停滞したの3段階によって評価してもらった。「進んだ」とする回答が最も多くなっているのは、「大手川の改修」で83.1%である(図-6.5)。この事業は、昭和63年5月の島原水害後から進められていたが、平成5年8月の眉山第六溪で発生した土石流により、大手川上流域の住宅が被害を受けたため、当初の予定を早め平成9年3月に完成した。この改修により、大手川は流下能力が向上し防災機能が高められた。その他では、「眉山の治山対策」、「公営住宅の整備」、「広域高規格道路の整備」、「自主防災組織の育成」および「都市計画道路の整備」が災害対策と絡んで「進んだ」と評価されている。一方、「停滞した」とする回答は、「企業の誘致」、「中心市街地の再開発」および「観光資源の開拓」で多くなっている。これは、噴火災害に伴う復旧および復興事業が先行して策定されているために、島原市本来の事業が遅れていることが示された結果となっている。

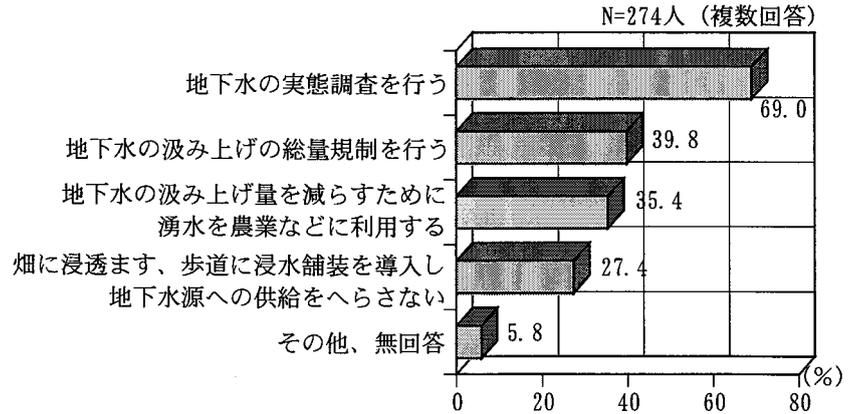


図-6.4 今後必要とされる地下水対策

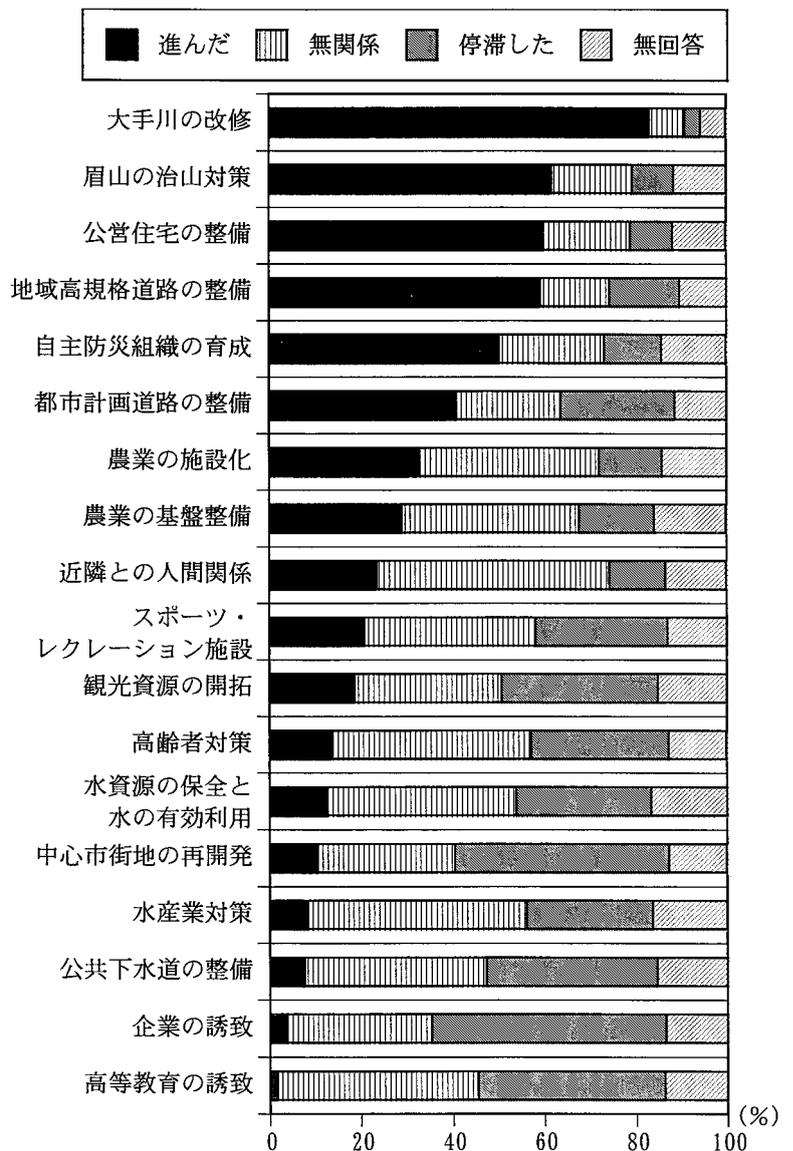


図-6.5 各種整備に及ぼした噴火災害の影響

7. 島原市災害復興計画(改訂版)について

島原市災害復興計画(改訂版)³⁾は、噴火活動の終息の見込みがない平成7年3月に、被害の拡大と災害の長期化に備えて策定された。しかし、噴火活動の停止を受け復興事業が進んでいる現在では、この災害復興計画を「見直すべき」とする回答が43.7%を占めている(図-7.1)。「見直すべき」と回答した人に、島原市独自の事業を中心に見直すべき事業を選んでもらったところ、「三会海岸埋立てと住宅団地建設」および「安中三角地帯の嵩上げと住宅整備」が上位1,2位を占め、それぞれ59.1%, 34.2%の回答がある(図-7.2)。「三重海岸埋立てと住宅団地建設」は島原市の単独事業で、中尾川流域の千本木地区の被災者および眉山第六溪や湯江川方面の土石流被害に備えた集団移転先として三会海岸の地先42haを埋立て、住宅団地500戸を建設することを目的としている。しかし、千本木地区の被災者が海岸部移転に同意せず、被災地近くの宇土山団地に移転先を確保した。また、心配されたような眉山第六溪および湯江川流域の土石流被害の拡大はなか

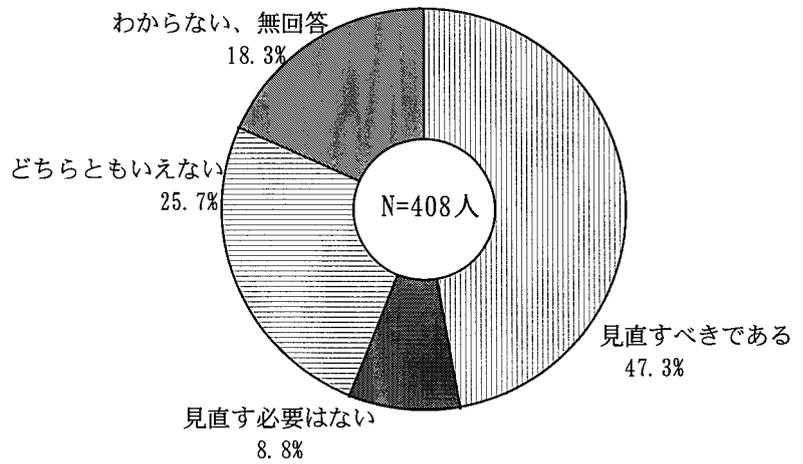


図-7.1 災害復興計画を見直すべきかどうか

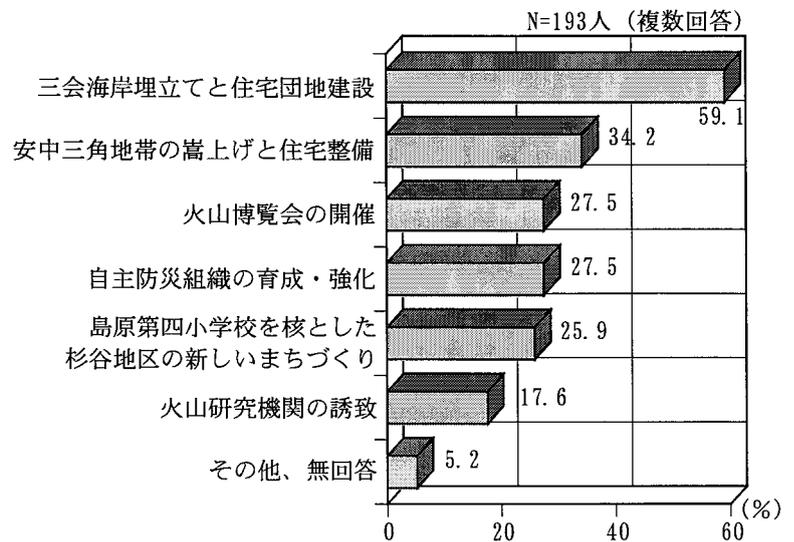


図-7.2 災害復興計画の見直すべき事業名

ったため当初の目的による用地確保の必要はほとんどなくなった。さらに、護岸工事に必要な島原市の年間予算にも匹敵する100億円近くの財源の目途もついていない。このような理由から「見直すべき」とする回答が多くなったものと考えられる。しかし、三会地区に隣接する杉谷地区では、これから砂防工事や導流工などの防災工事が始まるとともに、安中三角地帯の嵩上げが終了した後は建設残土の処分地も必要とされるため、そのための受け皿としてこの計画は住宅団地建設とは切り離して残すべきである。また、噴火災害に伴った砂防事業や河川改修によって、住宅や農地の減少した島原市にとって、埋立てによる土地の確保は必要であり、島原都市計画マスタープラン⁶⁾のような位置付けが妥当と判断される。

「安中三角地帯の嵩上げと住宅整備」は既に着工されているが、土石流の発生による流出土砂量が見込みより少なかったため嵩上げ期間が予定より1年間延長されている。嵩上げ後には土地区画整備事

表-7.1 災害復興計画の見直すべき事業名(地区別)

項目	単位：%					
	三会地区 (N=20人)	杉谷地区 (N=21人)	森岳地区 (N=47人)	霊丘地区 (N=41人)	白山地区 (N=39人)	安中地区 (N=22人)
三会海岸埋立てと住宅団地建設	85.0	71.4	55.3	53.7	53.8	59.1
安中三角地帯の嵩上げと住宅整備	15.0	23.8	42.6	31.7	43.6	36.4
火山博覧会の開催	15.0	19.0	29.8	26.8	38.5	18.2
自主防災組織の育成・強化	20.0	14.3	27.7	36.6	30.8	27.3
島原第四小学校を核とした杉谷地区の新しいまちづくり	15.0	66.7	23.4	19.5	28.2	9.1
火山研究機関の誘致	5.0	9.5	17.0	22.0	23.1	18.2
その他、無回答	0.0	14.3	6.4	7.3	0.0	4.5

業や農地災害関連整備事業により住宅や農地の復旧が行われる予定である。

「見直すべき」と考えられる事業を地区別にまとめたものが表-7.1である。「三会海岸埋立てと住宅団地建設」および「島原第四小学校

を核とした杉谷地区の新しいまちづくり」については、それぞれの地元である三会および杉谷地区において回答の割合が高く、「安中三角地帯の嵩上げと住宅整備」については地元の安中地区以外の森岳および白山地区において回答の割合が高いという特徴がある。

一方、災害復興計画(改訂版)を見直す必要がないとする理由としては、「すでに柔軟に見直されている」および「がまだす計画が策定されたことにより、災害復興計画は見直されている」が半数以上となっている(図-7.3)。

噴火活動が終息した現在、市民の間に噴火継続中に策定されたこれらの計画を再検討すべきという考えがある。防災施設や嵩上げなどの整備は、今回の災害の復興だけでなく、将来の噴火災害に備えた対策であることを市民にアピールする必要があるのではないだろうか。

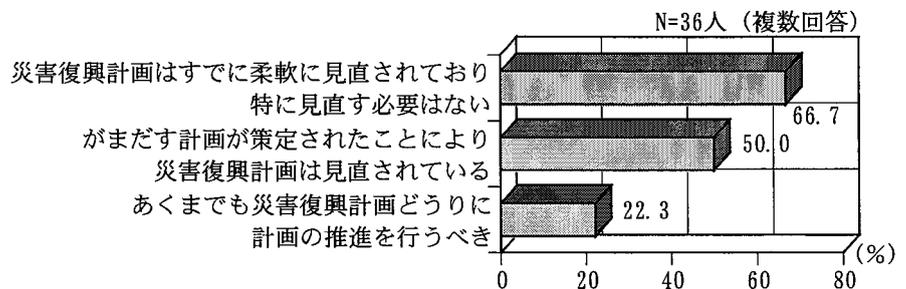


図-7.3 災害復興計画を見直す必要がない理由

8. 本復興計画について

8.1 がまだす計画について

平成9年3月に長崎県は「がまだす計画(島原地域再生行動計画)⁴⁾」を策定した。この計画は、噴火災害で大きな被害を受けた島原半島の活性化や産業・経済の浮上を図り、島原地域の本格的な復興の推進を目指すものである。この計画については、全体の88.2%が「知っている」としており(図-8.1)、この内で内容も「よく知っている」および「だいたい知っている」としているのは合わせて43.2%を占める(図-8.2)。この数字は、同時期に策定あるいは策定中であった「雲仙普賢岳砂防指定地利活用構想⁵⁾」(建設省)の31.3%や国立公園雲仙の「緑のダイヤモンド計画」(環境庁、長崎県)の20.3%よりもか

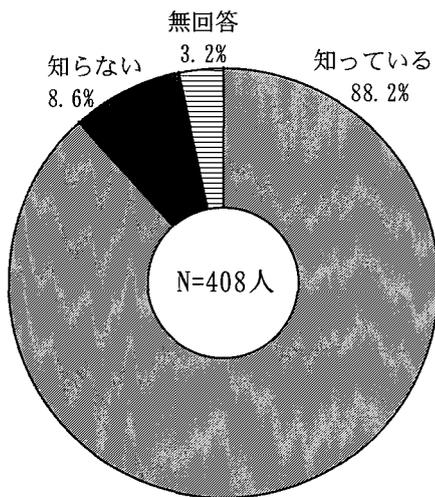


図-8.1 がまだす計画の策定を知っているかどうか

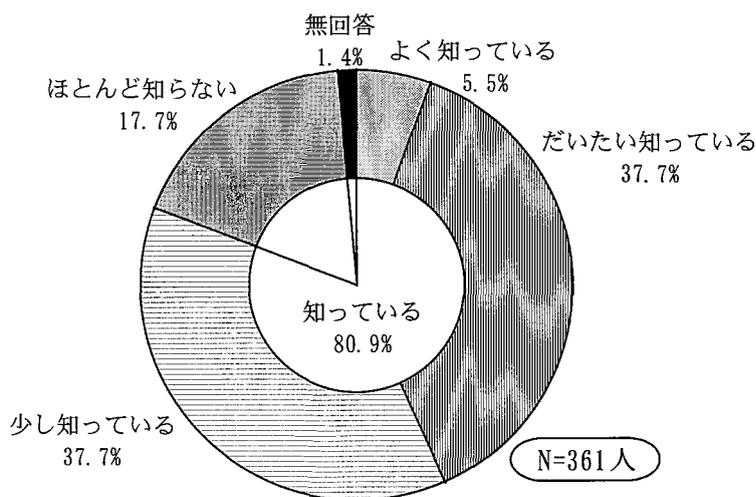


図-8.2 がまだす計画の内容を知っているかどうか

なり高くなっており、周知の割合は高いと言える。また、「がまだす計画には地域住民の意向が反映されていると思うかどうか」という問いに対しては、「十分に反映されている」、「かなり反映されている」および「少し反映されている」を合わせて 62.3% の回答がある(図-8.3)。これは、この計画の策定時において長崎県が行ったテレビ、ラジオ、新聞などを通じた積極的なPR活動、地域住民主体の策定体制、策定委員会および専門部会の地元開催などといった努力の結果といえる。

がまだす計画の重点プロジェクト 27 のうち重要と思われる事業を5個回答してもらったところ

表-8.1 重点プロジェクト 27 のうちで期待される事業

項 目	N=292人(5つ回答)	
	人数(人)	(%)
復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え)	161	55.1
地域高規格道路の建設	145	49.7
水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業	135	46.2
島原半島広域観光ルート形成事業	87	29.8
島原火山科学博物館(仮称)建設事業	76	26.0
砂防指定地利活用推進事業	62	21.2
街なみ環境整備事業	60	20.5
島原半島商工業振興支援事業	58	19.9
道の駅整備事業	47	16.1
島原半島市町村合併調査検討事業	45	15.4
地域・生活情報通信基盤の整備事業	43	14.7
高等看護学校設置事業	43	14.7
国立緑のダイヤモンド計画「ルネッサンス計画(仮称)」事業	35	12.0
島原・深江地区農地区画整備事業	33	11.3
ボランティア団体のネットワーク化推進事業	32	11.0
土石流災害遺構保存公園(仮称)整備事業	30	10.3
がまだす計画推進のための基金設置事業	28	9.6
島原復興アリーナ(仮称)整備事業	24	8.2
担い手育成畑地帯総合整備事業	23	7.9
雲仙岳災害復興種苗放流事業	22	7.5
あすを築く漁協合併総合対策事業	19	6.5
島原半島農林業立国宣言事業	14	4.8
観光系学科(高等学校)の設置調査事業	11	3.8
小浜温泉リフレッシュセンター建設事業	7	2.4
原城資料館整備事業	6	2.1
広域型増殖場造成事業	6	2.1
漁業加工推進圏形成事業	3	1.0
無回答	41	10.7

表-8.1の結果となっている。1位は復興事業との直接的な関係は少ないが噴火前からの課題である「復興記念病院(仮称)の建設事業(島原温泉病院の建て替え)」, 2位は「地域高規格道路(島原道路)の整

備事業」，3位は「水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業」となっている。火山観光化のための諸事業は4，5，6および8位となっており，農業，漁業，商工業などに対する個別の復興事業よりも重要視されている。

これを地区別に見ると(表-8.2)，霊丘地区以外の全ての地区において，上位3位は全体の結果と同様の事業があげられており，4位以下に地区の特性が表れている。農地が多い三会地区では「担い手育成畑地帯総合整備事業」，中尾川流域で土石流被害を受けた杉谷地区では「島原半島市町村合併調査検討事業」，武家屋敷や島原城などの観光施設を持つ森岳地区では「火山科学博物館(仮称)」がそれぞれの地区の4位にあげられている。また，アーケード商店街がある霊丘地区では，「島原半島広域観光ルート形成事業」が3位となっており，周遊型観光を目指す観光ルートづくりによる旅行客の増加を期待している状況が伺える。さらに霊丘地区では，「街並み環境整備事業」および「国立公園緑のダイヤモンド計画事業」が5位にあげられている。島原市の中心商店街では，人口や観光客の減少などにより経済的落ち込みが著しいため，買物客を増やすためには交流人口を増やす他はないことがこのような事業が重要視されている一因と考えられる。土石流や火砕流で大きな被害を受けた安中地区では，「火山科学博物館(仮称)建設事業」，「砂防指定地利活用推進事業」といづれも地区内行われる事業が多くあげられている。また，上位5位には含まれていないものの，「土石流災害遺構保存公園整備事業」が他地区と比べて3倍近くの回答となっている。

一方，これを職業別に見ると(表-8.2)，農林業で「担い手育成畑地帯総合整備事業」，漁業で「明日

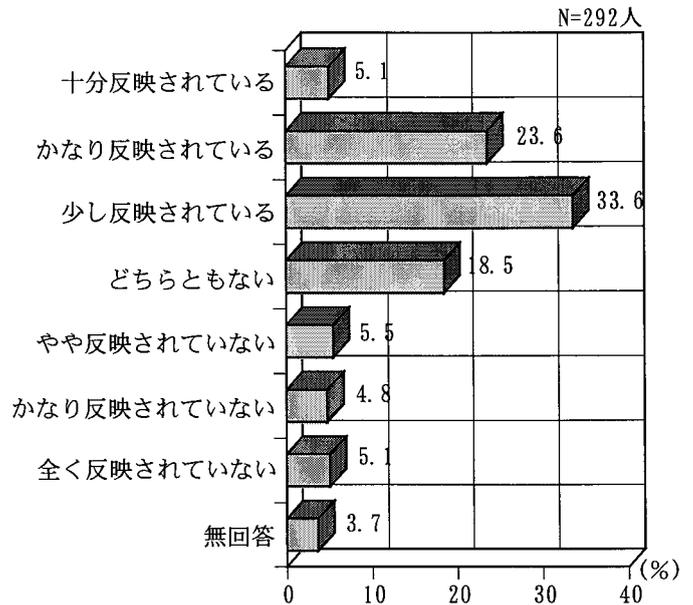


図-8.3 地域住民の意向が反映されているかどうか

表-8.2 重点プロジェクト27のうちで期待される事業(地区別)

	1位	2位	3位	4位	5位
三会地区	・復興記念病院(仮称)建設事業	・水無川・中尾川・湯江川の防災対策事業	・地域高規格道路の整備事業	・担い手育成畑地帯総合整備事業 ・島原半島商工業振興支援事業	
杉谷地区	・地域高規格道路の整備事業	・復興記念病院(仮称)建設事業	・水無川・中尾川・湯江川の防災対策事業	・島原半島広域観光ルート形成事業 ・島原半島市町村合併調査検討委員会	
森岳地区	・復興記念病院(仮称)建設事業	・水無川・中尾川・湯江川の防災対策事業	・地域高規格道路の整備事業	・島原半島広域観光ルート形成事業 ・島原火山科学博物館(仮称)建設事業	
霊丘地区	・地域高規格道路の整備事業	・復興記念病院(仮称)建設事業	・島原半島広域観光ルート形成事業	・水無川・中尾川・湯江川の防災対策事業	・街なみ環境整備事業 ・国立公園緑のダイヤモンド計画事業
白山地区	・復興記念病院(仮称)建設事業	・地域高規格道路の整備事業	・水無川・中尾川・湯江川の防災対策事業	・島原半島広域観光ルート形成事業	・島原火山科学博物館(仮称)建設事業
安中地区	・水無川・中尾川・湯江川の防災対策事業	・地域高規格道路の整備事業	・復興記念病院(仮称)建設事業	・島原火山科学博物館(仮称)建設事業	・砂防指定地利活用推進事業

表-8.3 重点プロジェクト27のうちで期待される事業(職業別)

	1位	2位	3位	4位	5位
農林業	・地域高規格道路の整備事業	・水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業 ・復興記念病院(仮称)建設事業		・島原・深江地区農地区画整備事業	・担い手育成畑地帯総合整備事業
漁業	・あすを築く漁業合併総合対策事業 ・漁村加工推進圏形成事業		・復興記念病院(仮称)建設事業 ・島原復興アリーナ(仮称)建設事業 ・島原半島市町村合併調査検討事業 ・観光系学科(高等学校)の設置調査事業	・地域高規格道路の整備事業	・高等看護学校の設置事業
自営工業	・復興記念病院(仮称)建設事業 ・島原半島広域観光ルート形成事業 ・水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業		・地域高規格道路の整備事業 ・島原半島商工業振興支援事業	・道の駅の整備事業	
自営商業	・復興記念病院(仮称)建設事業	・地域高規格道路の整備事業	・水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業	・島原火山科学博物館(仮称)建設事業	・島原半島広域観光ルート形成事業
公務員	・水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業	・地域高規格道路の整備事業	・砂防指定地利活用推進事業	・復興記念病院(仮称)建設事業 ・島原火山科学博物館(仮称)建設事業	
会社員	・復興記念病院(仮称)建設事業	・地域高規格道路の整備事業	・水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業	・島原半島広域観光ルート形成事業	・街なみ環境整備事業 ・地域・生活情報通信基盤の整備事業
専門職自由業	・水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業	・地域高規格道路の整備事業	・復興記念病院(仮称)建設事業	・高等看護学校の設置事業	・ボランティア団体のネットワーク化推進事業
家庭婦人	・地域高規格道路の整備事業	・復興記念病院(仮称)建設事業	・水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業	・街なみ環境整備事業 ・砂防指定地利活用推進事業 ・島原火山科学博物館(仮称)建設事業	
無職	・復興記念病院(仮称)建設事業	・水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業	・地域高規格道路の整備事業	・島原半島広域観光ルート形成事業	・島原半島市町村合併調査検討事業
その他	・復興記念病院(仮称)建設事業 ・地域高規格道路の整備事業 ・水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業			・雲仙岳災害復興種苗放流事業 ・島原半島商工業振興支援事業	

を築く漁業合併総合整備事業」および「漁村加工推進圏形成事業」、自営工業で「島原半島商工業振興支援事業」というように各々の職業に関連するプロジェクトを期待する回答が多い。これに対し、自営商業では「復興記念病院(仮称)建設事業」が最も多く、商工業対策である「島原半島商工業振興支援事業」は6位と期待はあまり高くないようである。

また、がまだす計画が島原地域の復興・活性化に役立つかどうかという問に対しては、「かなり期待できる」という回答が半数を超えている(図-8.4)。

期待できる理由としては、「平成新山のイメージが全国的に知られているので、全国から人が島原を訪れることが期待できる」が最も多い(図-8.5)。一方、期

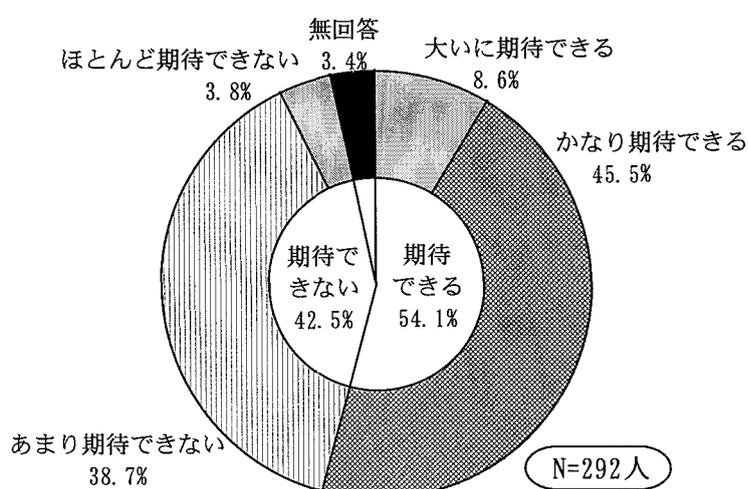


図-8.4 島原地域の復興・活性化に役立つかどうか

待できない理由としては、「火山観光化に対して地域住民と行政の間に意識のずれがあり、まだ定着していない」や「火山観光化を受け入れる宿泊施設、道路、下水道、まち並み整備が遅れている」という回答が多い(図-8.6)。職業別では、公務員による期待が高く、逆に活性化を必要としている自営工業、自営商業および専門職・自由業では期待が低い。

8.2 砂防指定地利活用構想と緑のダイヤモンド計画について

建設省は、平成7年、8年の2ヶ年にわたって委員会を設け、中尾川・水無川流域の砂防指定地利活用構想⁵⁾を策定した。この策定においては、公聴会の開催や意見募集および意見発表を市民に周知しながら行い、その結果は新聞報道でも取り上げられている。しかし、図-8.7のようにこの構想を「よく知っている」、「だいたい知っている」と答えているのは合わせて約30%である。

また、平成8年、9年にわたって環境庁と長崎県によって策定された国立公園雲仙「緑のダイヤモンド計画」(ルネッサンス計画(仮称))についても、「よく知っている」、「だいたい知っている」と答えているのは合わせて約20%となっている(図-8.8)。これらの計画は、がまだす計

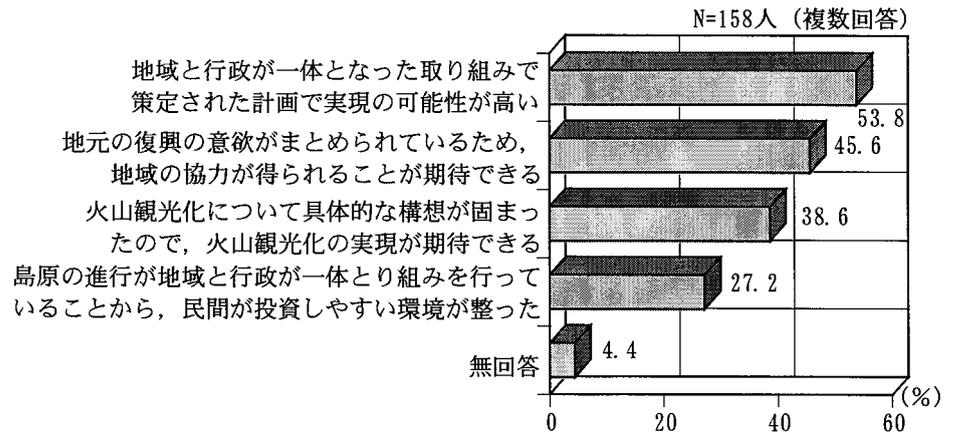


図-8.5 がまだす計画に期待できる理由

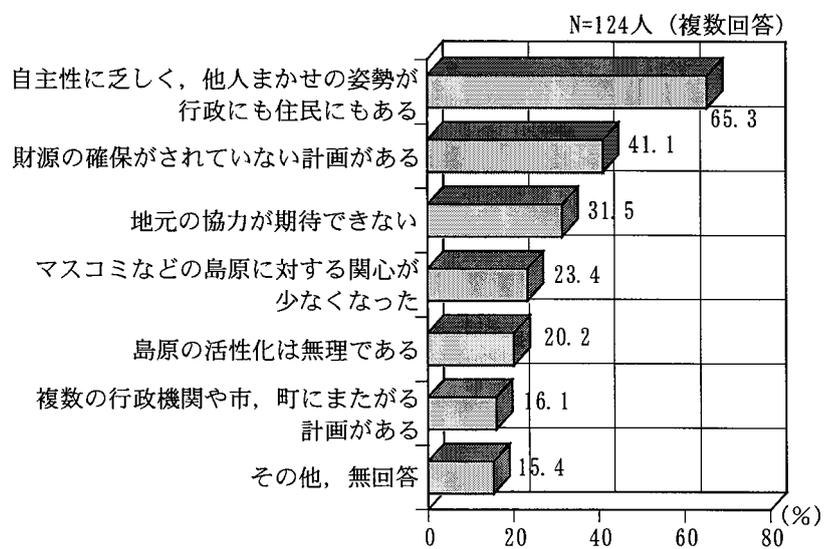


図-8.6 がまだす計画に期待できない理由

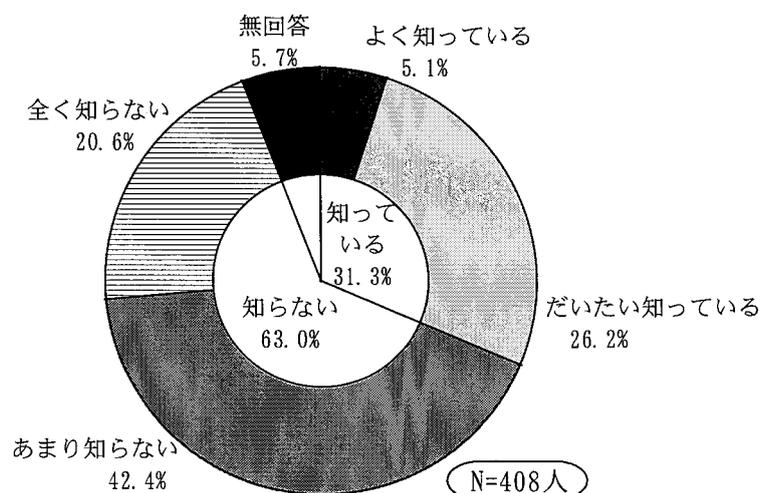


図-8.7 砂防指定地利活用構想の策定を知っているかどうか

画の重点プロジェクトに含まれているが、策定は市民に詳しく知られていないようである。

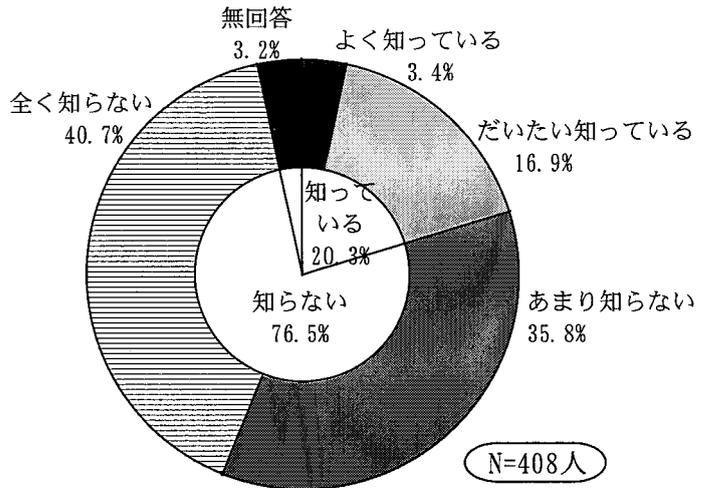


図-8.8 緑のダイヤモンド計画の策定を知っているかどうか

9. 災害時の対応について

9.1 避難計画の周知状況について

島原市は、平成6年6月に土石流、火砕流、都市火災および眉山崩壊に対する避難対象地域、避難場所、避難方法などを示した防災マップおよび防災ガイドブックを作成し市内全戸に配布した。この防災マップや防災ガイドブックは全体の84.3%の人が「見たことがある」と回答しているものの、災害中に避難生活を送っている人が多かった杉谷および安中地区では、「見たことがない」という回答がそれぞれ15.4%、19.6%と多い(図-9.1)。一方、現在のこれらの取り扱いは、「家の中に貼っている」と答えているのは17.2%にとど

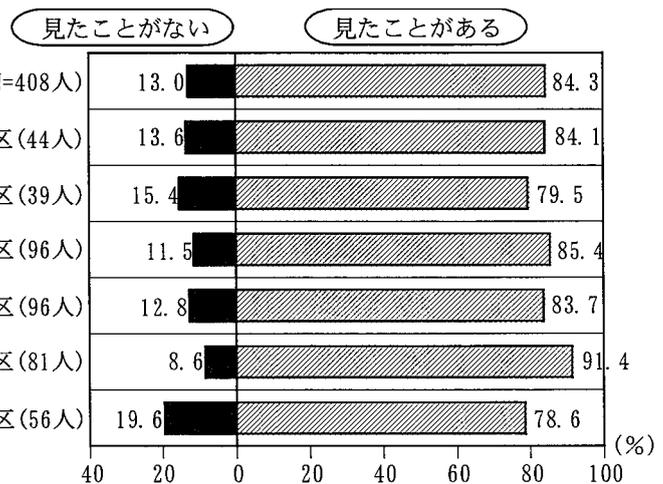


図-9.1 防災マップおよび防災ガイドブックを見たことがあるかどうか(無回答を除く)

まり、「どこにあるかわからない」とする回答が43.0%と圧倒的に多くなっている(図-9.2)。雲仙普賢岳の噴火活動が終息した現在では、防災マップや防災ガイドブックは重要視されていないようである。

また、「居住地区が土石流の避難対象地区に含まれているかどうか」を聞いたところ、中尾川流域の杉谷地区と水無川流域の安中地区で40%以上の人が「含まれている」としている(図-9.3)。しかし、「わからない」という回答が各地区で10%前後あり、安中地区では21.4%と特に多い。

一方、島原市では眉山に異常が認められた場合には三会地区以外の全ての地区を避難対象地区とし

ている。「居住地区が眉山に異常が認められた際の避難対象地区に含まれているかどうか」という問に対しては、三会地区では「含まれていない」ことを知っている人が77.3%であったが、全体(三会地区を除く)では、「含まれている」という回答が半数以下の48.1%にとどまっている(図-9.4)。特に、安中および杉谷地区では、「含まれていない」とする人がそれぞれ58.9%、57.1%と多い。再度、防災マップを配布し、自分の住んでいる地区が土石流や眉山崩壊に備えた避難対象地区に含まれているかどうか、また、避難対象地区に含まれているのならば避難場所がどこであるかについて、市民に周知することが求められる。

9.2 避難訓練の実施について

居住地区での避難訓練の実施状況と参加状況を尋ねたところ、31.1%の人が「行われている」と回答しており(図-9.5)、これに「参加したことがある」としているのはこの中の半数程度となっている。地区別に見ると、杉谷地区で64.1%、森岳地区で56.3%が「行われている」と回答しているが、安中地区では「行われていない」という回答が73.2%と多い。島原市では、毎年1回地区ごとに避難訓練が行われており、平成9年の段階では杉谷地区と森岳地区で実施されている。噴火災害による長期の避難や住宅の移転で町内会活動が災害前の状況に戻っていない安中地区は、早急に避難訓練を行う必要があると考えられる。

「今後、土石流や眉山崩壊の備えて避難することがあると思うかどうか」という問

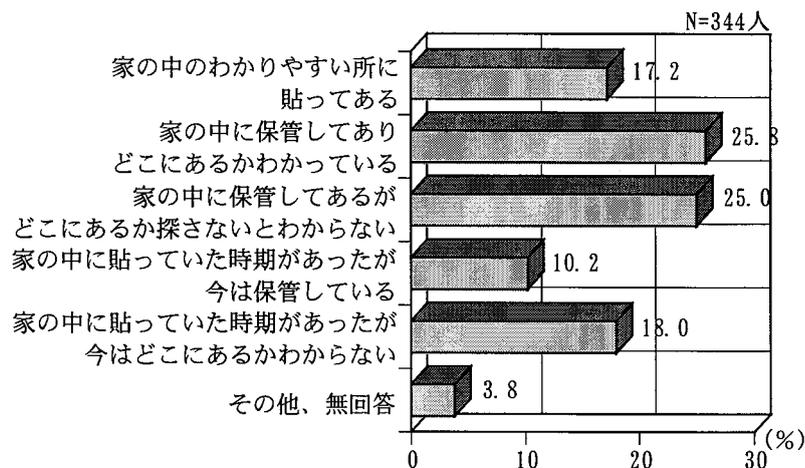


図-9.2 防災マップおよび防災ガイドブックを現在どのようにしているか

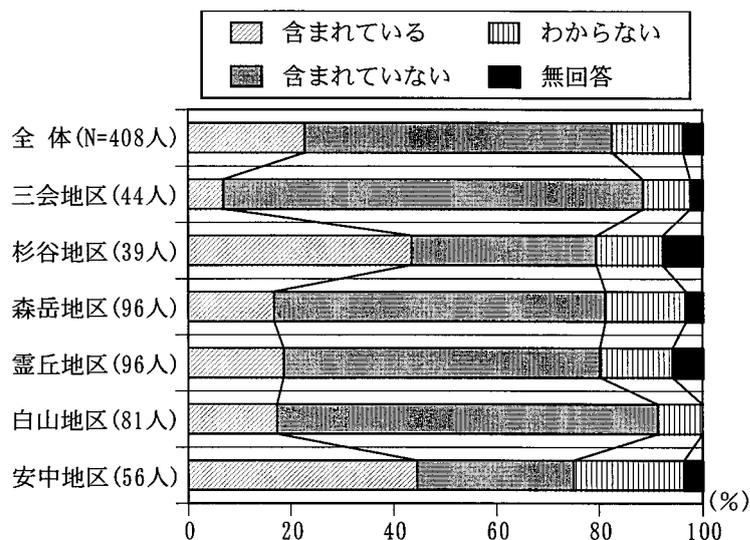


図-9.3 居住地区が土石流の避難対象地区に含まれているかどうか

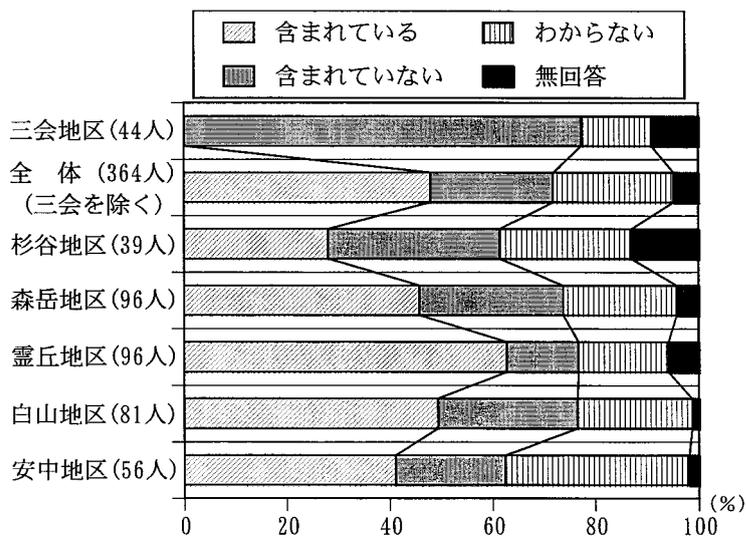


図-9.4 居住地区が眉山に異常が認められた際の避難対象地区に含まれているかどうか

には、「ある」という回答が 41.4%であるのに対し、「ない」が 54.9%で上回っている(図-9.6)。特に、眉山が背後に迫る霊丘地区では 50.0%、噴火による火砕流や土石流で市内で最も大きな被害を受け、広い範囲が土石流の避難対象地区に含まれている安中地区では 58.9%の人が「ある」と回答しているが、他の地区では 30%前後である。

また、「同居している家族の中に災害時に自力で避難できない人がいるかどうか」という問いでは、「いる」と回答している人が 47.8%と半数近い(図-9.7)。このような災害弱者は高齢者が大半である。今後、高齢化社会が進むにつれて、このことは災害時の避難対策において重要な問題となるものだと考えられる。

9.3 今後の災害対策

雲仙普賢岳の噴火災害を経験して今後の災害対策として必要と思われるものを選んでもらったところ、「火山保険制度(損害保険)」、「九州大学島原地震火山観測所の充実」および「道路・鉄道などの迂回路やネットワーク化による代替性の確保」が上位3位を占めている(表-9.1)。土石流や火砕流による家屋の被害は個人の備えだけでは防ぐことができないことから、「火山保険制度(損害保険)」が重要と考えられているようである。また、「九州大学島原地震火山観測所の充実」は、正確な情報の受け取りによる迅速な避難のために多くあげられている。上位1, 2位を見ると、噴火災害のような日頃の個人の備えだけでは減災につながらない災害においてはソフト対策が重要とされていることがわかる。3位の「道路・鉄道などの迂回路やネットワーク化による代替性の確保」は、災害により水無川流域の道路および鉄道が

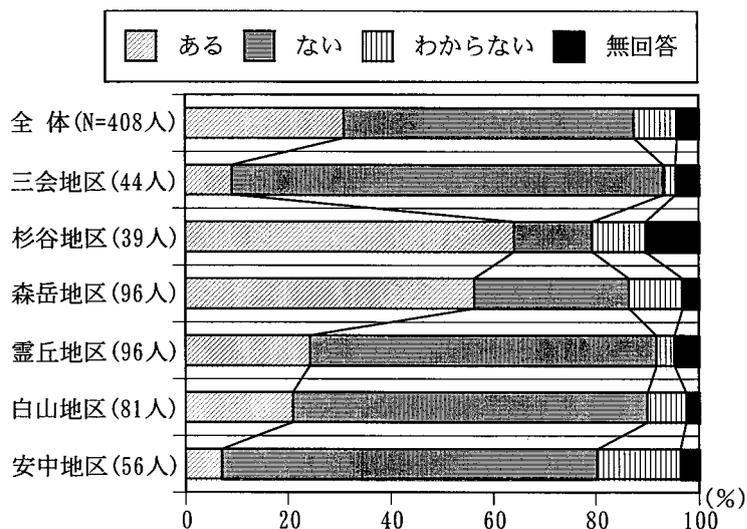


図-9.5 居住地区での避難訓練の実施状況

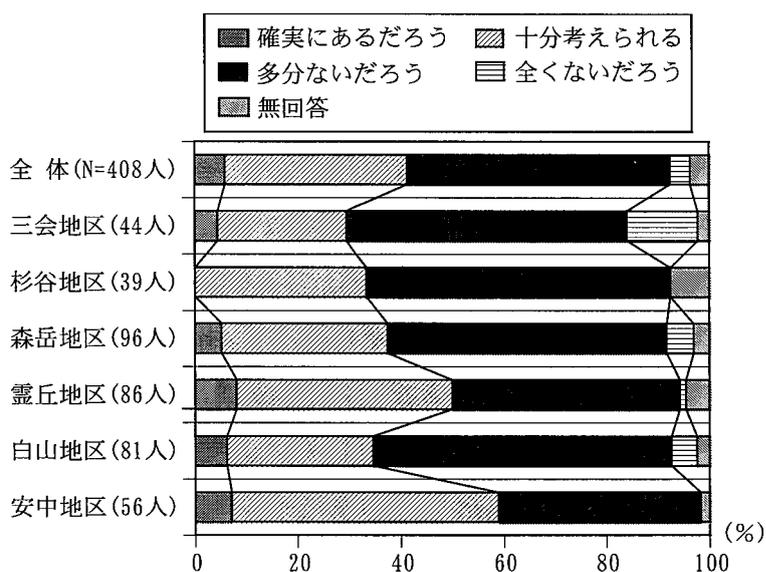


図-9.6 今後、土石流や眉山崩壊に備えて避難することがあると思うかどうか

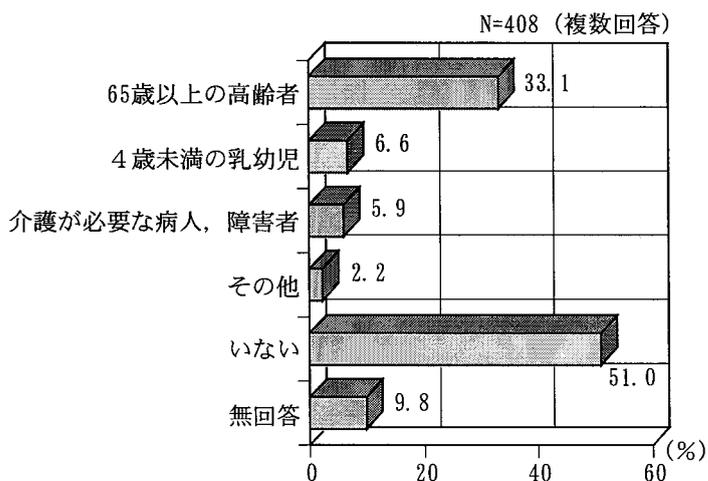


図-9.7 家族の中に災害弱者がいるかどうか

不通になったことにより、通勤・通学に大きな支障を与えたとともに、経済被害の拡大の原因ともなった島原地域の基盤整備における最大の課題である。

これを、被災地区(杉谷, 安中地区)と非被災地区(三会, 森岳, 霊丘, 白山地区)に分けて見ると、各対策の評価に差が出ている(表-9.2)。警戒区域の設定による損失補償が問題となった「災害対策基本法の改正」と阪神・淡路大震災でも大きな課題となった「応急仮設住宅の環境改善(広さ, 防音, 温度)」については、被災地区での回答の割合が非被災地区での割合をそれぞれ 11.3%, 7.3%上回っている。また、「海上輸送路の確保」および「商工業などの間接被害に対する救済対策」について

は、非被災地区が被災地区をそれぞれ 10.1%, 8.0%上回っている。

表-9.1 今後の災害対策として必要なこと

項目	N=408人(複数回答)	
	人数(人)	(%)
火山保険制度(損害保険)	204	50.0
九州大学島原地震火山観測所の充実	200	49.0
道路・鉄道などの迂回路やネットワーク化による代替性の確保	193	47.3
災害ボランティアの活動	163	40.0
応急仮設住宅の住環境改善(広さ, 防音, 温度)	152	37.3
商工業などの間接被害に対する救済対策	146	35.8
災害対策基本法の改正	145	35.5
災害危険地の土地の買い上げ制度	132	32.4
無人化施工などによる危険地区における防災工事を行う技術開発	127	31.1
海上輸送路の確保	127	31.1
雲仙岳災害対策基金のような基金創設	116	28.4
積極的な応急・緊急対策(仮設導流堤, 矢板工など)の導入	100	24.5
復興・復旧に対する情報提供システム	97	23.8
安中三角地帯などの復興まちづくりに対する支援体制	94	18.1
地域住民の復興・復旧に関する合意形成の行い方	68	16.7
その他, 無回答	25	6.1

表-9.2 今後の災害対策として必要なこと(被災地区, 非被災地区)

	(複数回答)			
	被災地区(N=95人)		非被災地区(N=307人)	
	人数(人)	(%)	人数(人)	(%)
火山保険制度(損害保険)	50	52.6	152	49.5
道路・鉄道などの迂回路やネットワーク化による代替性の確保	48	50.5	143	46.6
九州大学島原地震火山観測所の充実	42	44.2	156	50.8
災害対策基本法の改正	42	44.2	101	32.9
応急仮設住宅の住環境改善(広さ, 防音, 温度)	41	43.2	110	35.8
災害ボランティアの活動	34	35.8	126	41.0
災害危険地の土地の買い上げ制度	32	33.7	96	31.3
雲仙岳災害対策基金のような基金創設	32	33.7	88	28.7
商工業などの間接被害に対する救済対策	28	29.5	115	37.5
無人化施工などによる危険地区における防災工事を行う技術開発	26	27.4	100	32.6
積極的な応急・緊急対策(仮設導流堤, 矢板工など)の導入	24	25.3	76	24.8
復興・復旧に対する情報提供システム	23	24.2	72	23.5
海上輸送路の確保	22	23.2	102	33.2
安中三角地帯などの復興まちづくりに対する支援体制	20	21.1	52	16.9
地域住民の復興・復旧に関する合意形成の行い方	18	18.9	49	16.0
その他, 無回答	3	3.2	18	5.9

10. 防災都市づくりについて

10.1 今後心配される災害について

雲仙普賢岳の噴火活動は、平成7年3月に停止状態であることが九州大学島原地震火山観測所の太田教授によって確認され、平成7年5月には火山噴火予知連絡会によって追認されている。今後の噴火活動の見通しとしては、「終息したと思うが、もう1、2年様子を見ないとわからない」という回答が最も多い(図-10.1)。また、「終息したと思う」という回答は、平成7年12月の調査⁹⁾の2倍以上に増えている。しかし、依然として、「終息したとは思わない」という回答も15.0%残っており、未だ噴火災害への不安が残っている人もあるようである。

今後、島原市において心配される災害をあげてもらったところ、図-10.2のように「特に心配なことはない」は4.0%で、市民のほとんどがいずれかの災害への不安を抱いていることがわかる。上位には、「眉山の山体崩壊」、「眉山第六溪の土石流」、「水無川・中尾川の土石流」があげられている。平成7年12月⁹⁾に行ったアンケート調査の回答では、「水無川・中尾川の土石流」が68.3%で最も多くなっていたが、今回の調査では26%以上も減り、代わって「眉山の山体崩壊」が最も多くなっている。これは、火砕流が最近発生していないことおよび防災事業で対応する目処がついた雲仙普賢岳の土石流対策よりも、噴火以前からの不安材料であった眉山の災害を心配する人が増えてきていることの表れと考えられる。地区別に見ても、どの地区においても上位3位内に「眉山の山体崩壊」があげられており、特に霊丘地

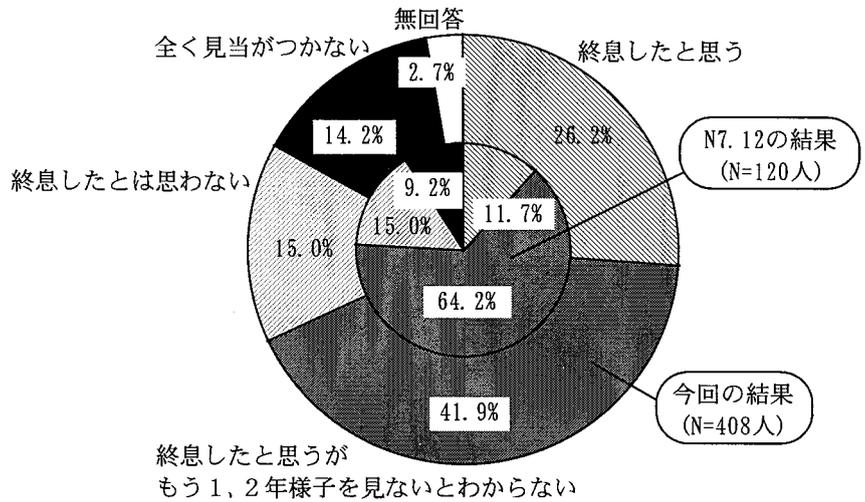


図-10.1 雲仙普賢岳の今後の噴火活動の見通し

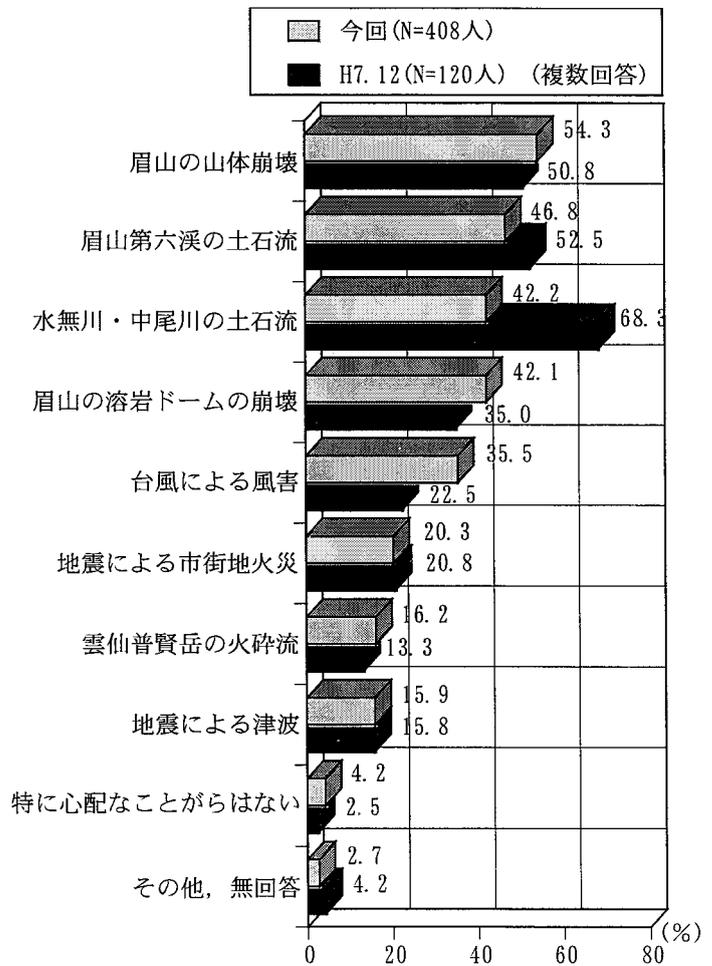


図-10.2 島原市で今後心配される災害

区では 70%を超え、安中地区でも「水無川・中尾川の土石流」より多い回答になっている。この理由としては、水無川流域の拡幅工事や堤防の建設工事などの防災工事が着々と進んでいることが考えられる。

さらに、今回大きな被害を出した「雲仙普賢岳の火砕流と水無川・中尾川の土石流が今後も発生すると思うかどうか」という質問に対しては、火砕流については、「多分発生しないだろう」という回答が半数以上であるが、土石流については、「十分考えられる」が 61.3%、「確実に発生するだろう」が 17.2%となっており(図-10.3)、火砕流に比べ土石流の発生が危惧されていることがわかる。平成7年12月の調査結果⁹⁾と比較すると火砕流については大きな差は見られないが、土石流については、「確実に発生しないだろう」が8%減少し、「多分発生しないだろう」が増えている。

土石流が発生した場合の規模としては、「導流堤、遊砂地、砂防ダムおよび水無川などに納まる程度」および「上流域の遊砂地などに補足される程度」が合わせて 79.7%を占めている(図-10.4)。一方、土石流の発生のおそれが少ない理由を見ると、「遊砂地、導流堤、河川改修、砂防ダムの着工(水無川1号、2

号砂防ダム)などの防災工事が進んで、安全が確保されたから」および「火砕流が発生せず、火山灰が地表面に少なくなり、流出の割合が減ったから」というものが多い(図-10.5)。

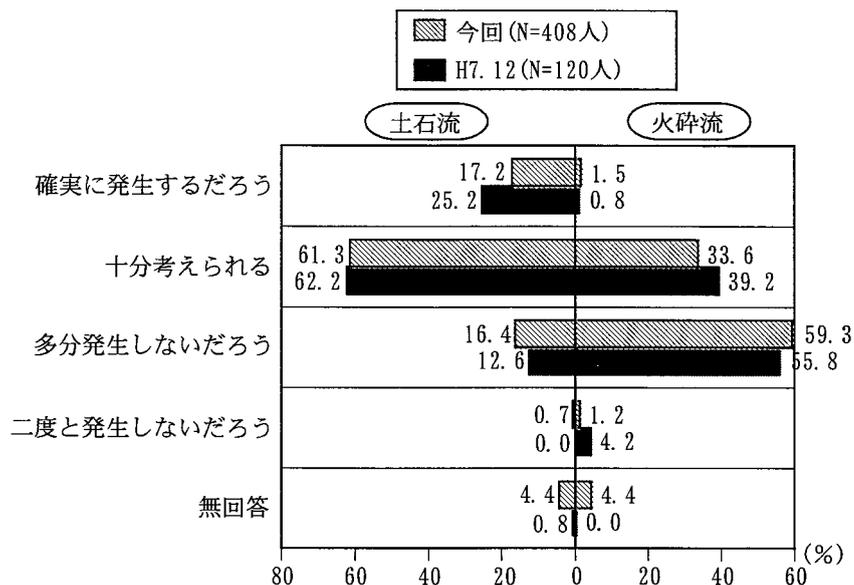


図-10.3 普賢岳の火砕流と水無川・中尾川の土石流は今後も発生するかどうか

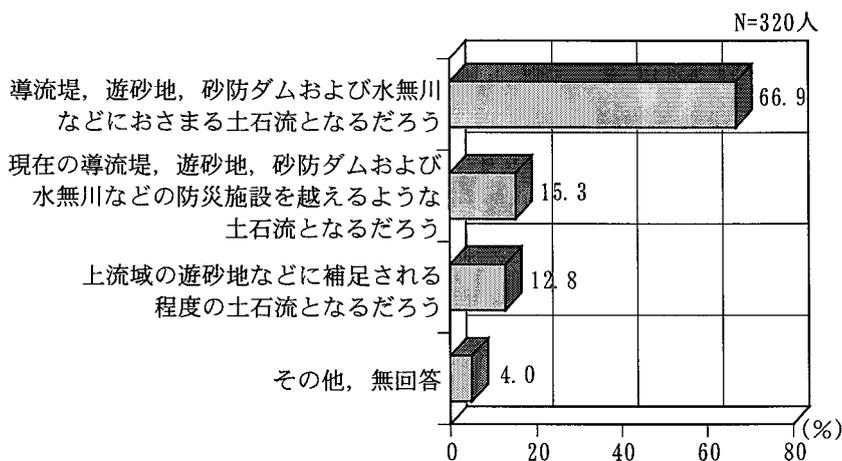


図-10.4 土石流が発生した場合の規模

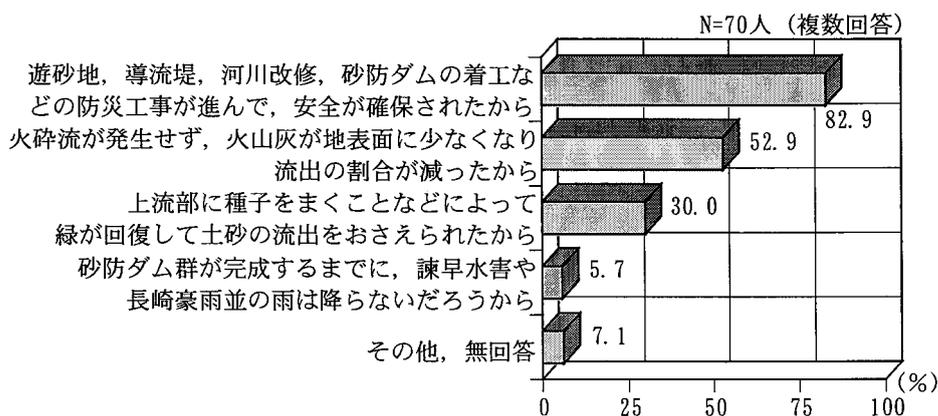


図-10.5 土石流の発生のおそれが少ない理由

10.2 砂防ダム群の建設について

「砂防ダム群の建設についてどのようにすべきか」という問に対する回答を、過去の調査(平成7年12月⁹⁾、平成6年12月⁸⁾、平成5年8月¹⁰⁾と比べたものを図-10.6に示す。今回の調査では、「基本構想どおりに建設する」が43.6%で最も多い。また、「規模をさらに大きくする」は、平成5年8月に39.6%、平成6年12月に25.7%、平成7年12月に29.2%の回答があったが、今回は13.5%に減少している。一方、「基本構想を見直す」という回答は、平成5年8月には30.6%あったが、平成6年12月と平成7年12月ではそれぞれ16.4%、3.3%と減少していた。しかし、今回の調査では26.3%と増加している。林野庁は治山ダムの建設にあたって、噴火の終息に伴って基本構想を見直すことを決めているが、建設省は砂防ダムの建設においては、測量や地質調査を実施しながら設計変更で対応していると説明している。

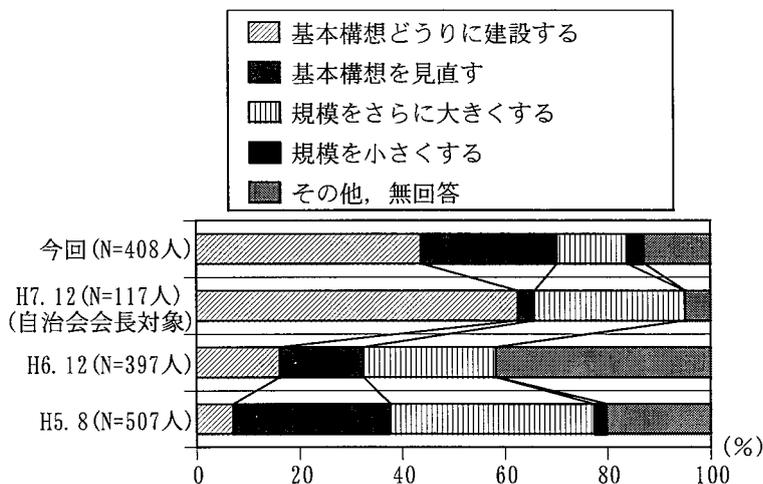


図-10.6 砂防ダム群の建設について

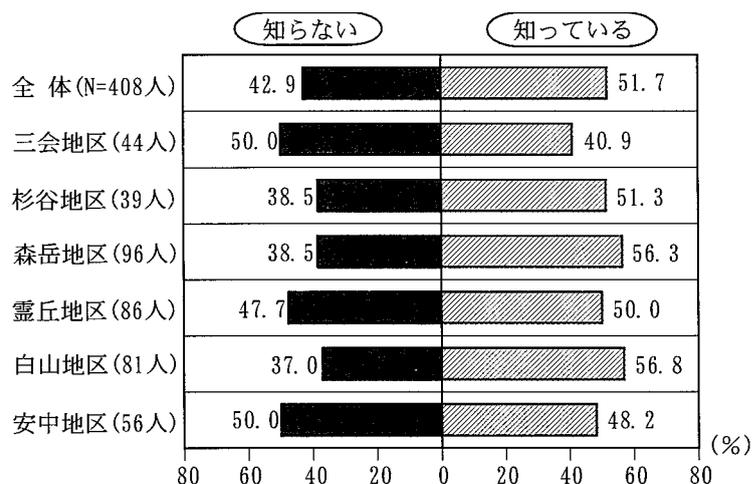


図-10.7 居住地区に自主防災組織が結成されていることを知っているかどうか(無回答を除く)

10.3 自主防災組織について

島原市では、災害時に近隣の協力を行うために、平成4年度に自主防災組織が全町内会に結成されたものの、噴火災害継続中には消防団員、警察官、市職員などが避難誘導や応急活動にあたったため、組織としての具体的な活動は行われなかった。しかし、島原市災害対策本部が平成8年6月に解散した現在では、土石流や眉山崩壊に備えた避難などには自主防災組織の活動が必要である。自主防災組織が市民にどの程度知られているかどうかを調べたところ、「知っている」と答えたのは全体の51.7%にとどまり(図-10.

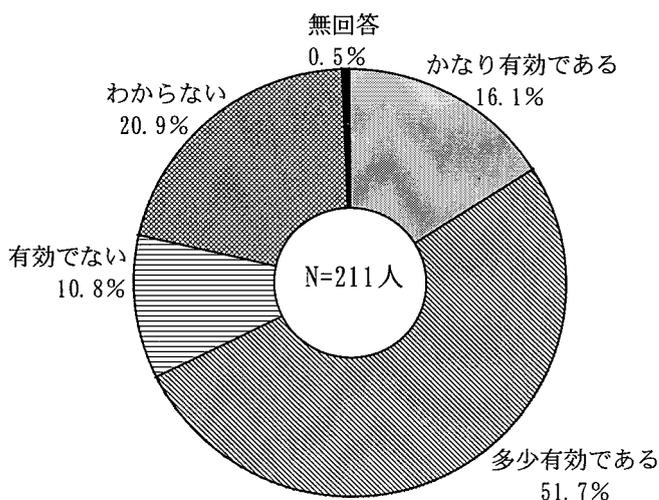


図-10.8 自主防災組織は災害時に有効であるかどうか

7), 自主防災組織が市民に浸透していないことがわかる。特に, 三会および安中地区においては, 「知らない」という回答が半数になっている。

自主防災組織の結成を知っている人のうち, この組織が「災害時に有効である」としているのは 67.8% で必要性は認められているようである(図-10.8)。

一方, 「有効でない」という回答は 10.9% あり, その理由としては, 「組織の結成

が形式的で活動計画がない」が 69.6% で圧倒的に多い(図-10.9)。早期に組織の具体的な活動計画をまとめ, 避難訓練や勉強会など日頃からの活動を積極的に市民に呼びかけるとともに, 組織の在り方を含めた見直しが必要である。これには, 自主防災組織が実質的な活動ができるような支援を行政が行うべきであり, 自主防災組織のマニュアルの作成や, モデル自主防災組織への指導および先進地域への視察などを企画すべきである。また, 前述のように, 災害時に自力で避難できない人のいる家庭は全体の半数近くある。しかし, 平成7年12月の調査⁹⁾によると, 高齢者や病人のいる家庭の避難対策を立てている自主防災組織は 30% に満たない。今後, 災害弱者の避難対策も地域の組織である自主防災組織が行うべきと考えられる。

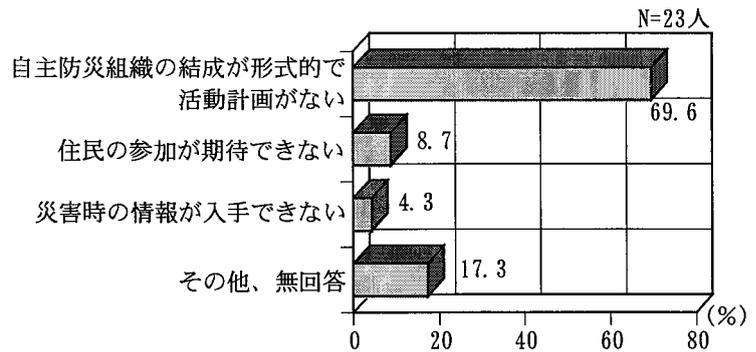


図-10.9 自主防災組織が災害時に有効でない理由

11. 地震防災計画について

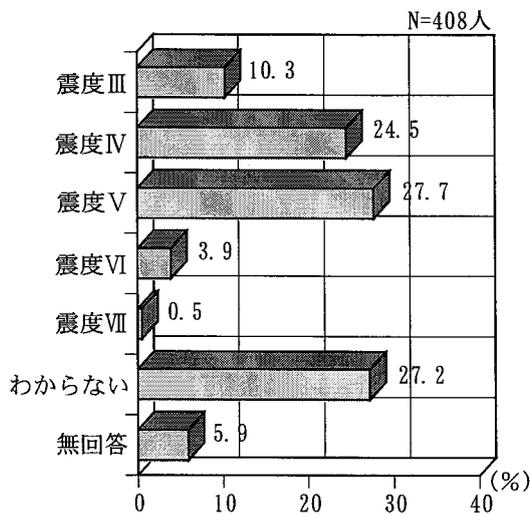


図-11.1 島原市で発生が予想される震度

表-11.1 島原市で地震が起きた場合の被害内容

項目	N=408人(複数回答)	
	人数(人)	%
眉山の崩壊	290	71.1
普賢岳の溶岩ドームの崩壊	258	63.2
水道, ガス, 電力などの停止	249	61.0
電話の不通	237	58.1
建物の崩壊	210	51.4
火災	191	46.8
道路の寸断	174	42.6
斜面の崩壊, 石垣の崩壊	173	42.4
津波の発生	126	30.9
地盤の液状化	54	13.2
その他, 無回答	16	3.9

長崎県の地域防災計画「地震対策編」において, 島原市では震度Ⅵが想定されており, これを前提に公共施設の耐震補強が行われている。また, 島原市地域防災計画においても震度Ⅵが想定されているが, 実際の被害想定は行われていない。島原市では, 被害想定を行ってもそれが眉山崩壊に対して実行可能な地震対策につながらないという困難さを抱えている。「島原市で地震が発生するとしたらどの程度になる

と思うか」を聞いたところ、図-11.1のように「震度V」、「震度IV」の順で回答が多い。市民は、地域防災計画で設定されている震度VIの地震が起こるとは認識していないか、または地域防災計画の想定震度VIの設定を知らないことが考えられる。

次に、島原市で地震が発生した場合の市民が想定する被害としては、「眉山の崩壊」と「普賢岳の溶岩ドームの崩壊」が1, 2位となっている(表-11.1)。これらは、他の都市には見られない島原市独自の課題である。現在の眉山崩壊に対する特別避難計画は前兆現象が認められた場合の計画であり、突発的な地震に対し

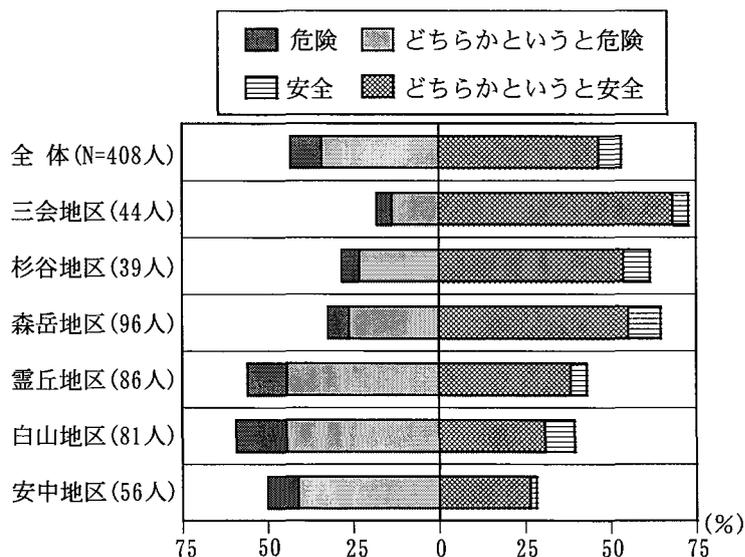


図-11.2 居住地区が地震に対して安全かどうか

表-11.2 地震が起きた場合の危険な点

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (176人)	・眉山が崩壊した場合に被害が及ぶ	・木造住宅が密集している	・道路が狭く複雑に入り組んでいる	・火災の時延焼を防ぐ緑地帯や広場が少ない	・近くに消防用水として利用できる川やプールがない
三会地区 (8人)	・地盤が弱い	・眉山が崩壊した場合に被害が及ぶ ・普賢岳の溶岩ドームが崩壊した場合に被害が及ぶ ・道路が狭く複雑に入り組んでいる ・窓ガラスや看板などの落下の危険性がある ・近くに消防用水として利用できる川やプールがない			・木造住宅が密集している
杉谷地区 (11人)	・眉山が崩壊した場合に被害が及ぶ	・普賢岳の溶岩ドームが崩壊した場合に被害が及ぶ	・道路が狭く複雑に入り組んでいる	・地盤が弱い ・河川の氾濫や高潮、津波の危険性がある ・火災の時延焼を防ぐ緑地帯や広場が少ない ・近くに消防用水として利用できる川やプールがない	
森岳地区 (31人)	・眉山が崩壊した場合に被害が及ぶ	・木造住宅が密集している	・普賢岳の溶岩ドームが崩壊した場合に被害が及ぶ ・道路が狭く複雑に入り組んでいる		・近くに消防用水として利用できる川やプールがない
霊丘地区 (48人)	・眉山が崩壊した場合に被害が及ぶ	・木造住宅が密集している ・火災の時延焼を防ぐ緑地帯や広場が少ない		・地盤が弱い	・道路が狭く複雑に入り組んでいる
白山地区 (48人)	・眉山が崩壊した場合に被害が及ぶ	・火災の時延焼を防ぐ緑地帯や広場が少ない	・道路が狭く複雑に入り組んでいる	・木造住宅が密集している	・河川の氾濫や高潮、津波の危険性がある
安中地区 (28人)	・眉山が崩壊した場合に被害が及ぶ	・普賢岳の溶岩ドームが崩壊した場合に被害が及ぶ	・近くに消防用水として利用できる川やプールがない		・木造住宅が密集している ・道路が狭く複雑に入り組んでいる

ては対応できない。また、施設の耐震性の強化では被害を防ぐことができない。したがって、個人の資産は守り得ないというシナリオと解釈される。さらに、眉山や溶岩ドームが崩壊した場合の危険区域を明示しても市街地を非居住区に指定することは不可能である。このように、島原市では、地震対策の具体的検討が行いにくい状況である。

「居住地区が地震に対して安全かどうか」を聞いたところ、「安全」および「どちらかといえば安全」が 53.2%で、「危険」お

よび「どちらかといえば危険」の 43.2%を上回っている(図-11.2)。地区別では、霊丘、白山および安中地区で「危険」とする割合が高く、三会、杉谷および森岳地区で「安全」とする割合が高い。また、地震が起こった場合の危険な点としては、「眉山が崩壊した場合の被害」が三会地区以外の全ての地区で最も多くなっており、そのほかにも表-11.2のように各地区固有の問題があげられている。

また、地震に備えて個人で用意しているものとしては、「懐中電灯」、「携帯ラジオ」、「非常持ち出し品」などが多くあげられている(表-11.3)。しかし、「家具類の固定」、「棚の上の物の落下防止」、「家屋やブロック塀などの補強・改築」などの地震時の被害を軽減させるための事前対策はあまり行われていない。一方、「地震保険への加入」は全体の 28.9%で災害前の 7%を大きく上回っており、特に安中および霊丘地区ではそれぞれ 37.5%、33.7%と極めて高い割合になっている。前述したように、島原市では地震が発生した場合には眉山の崩壊による大災害を伴うおそれがあり、日頃からの備えは被害の減少には結びつかないとも考えられるため、多くの人は情報の早い入手により避難を行い、家屋の被害等は損害保険で補おうと考えていることが想像できる結果となっている。しかし、地震により必ずしも眉山が崩壊するとは限らないため、地震が起きた場合の被害を最小限にするための日頃からの備えも必要と考えられる。

表-11.3 地震に備えて個人で用意しているもの

項 目	N=408人(複数回答)	
	人数(人)	(%)
懐中電灯の用意	332	81.4
携帯ラジオの用意	243	59.6
貴重品などの非常持ち出し品の整理	181	44.4
消火器などの消防用品の用意	138	33.8
避難所の確認	137	33.6
地震保険への加入	118	28.9
緊急医療品の用意	101	24.8
非常の際の家族との連絡方法の確認	80	19.6
棚の上の物が落ちないように整理	55	13.5
家具類の固定	54	13.2
非常食料や飲料水の準備	53	13.0
簡易ガスコンロの用意	51	12.5
地域で行われた消防訓練や防災講演会への参加	34	8.3
梯子やロープの準備	31	7.6
家屋やブロック塀などの補強・改築	19	4.7
地震についての本やパンフレットの入手	7	1.7
その他、無回答	30	7.4

12. まとめ

本報告において、アンケートの集計結果を分析し得られたことを以下にまとめる。

- (1) 島原市に住み続けたいとする人が全体の 90%近くで、その割合は若年層ほど低くなっている。他の都市に移りたい主な理由としては、人口および商工業の流出や収入が多くあげられている。
- (2) 島原市における生活の中での不便・不満として、「交通の便」、「収入」、「都市下水・廃水処理」、「仕事」および「健康・医療」が上位 5 位を占めている。災害中と比べると、「仕事」および「収入」の割合が高くなっている。
- (3) 漁業、自営商業、自営工業で災害中に災害前と比べ生活が苦しくなったとする人が多く、その多くが現在でも災害前の状況に戻っていないとしている。しかし、被災地区と非被災地区を比べると特に差は見られない。
- (4) 市民が選ぶ島原市のシンボルとして、「島原城」が最も多く、「普賢岳(平成新山)」が 3 位となっている。これに対し、水と緑の島原を代表する貴重な資源である「緑」が重要視されなくなっている。
- (5) 島原市全体の将来の都市像として、元来ある地域特性とは無関係に観光を主体とする「観光保養都市」および「国民公園都市」が多数を占めている。
- (6) 火山観光化については、「期待できる」とする人が多いもののその内訳を見ると「やや期待できる」という回答が目立つ。期待できる理由としては、火山観光化に官民一体となって取り組んでいることが評価されている。一方、期待できない理由としては、火山観光化を進める上でクリアすべき受け入れ体制、施設の維持管理費などの課題があげられている。
- (7) 噴火活動の終息の見込みがない時期に被害の拡大と長期化に備えて策定された島原市災害復興計画(改訂版)は、噴火活動の停止した現時点では、「見直すべき」とする回答が半数近くを占めている。島原市独自の主要復興計画について聞いたところ、見直すべき事業として「三会海岸埋立と住宅団地建設」および「安中三角地帯の嵩上げと住宅整備」が上位 2 位を占める。
- (8) 島原市民は、がまだす計画(島原地域再生行動計画)⁴⁾は策定されたことおよびその内容についてよく知っている。また、がまだす計画には地域住民の意見が反映されているとする人が多い。さらに、がまだす計画が地域の活性化に役立つと期待している人も多く、その主な理由としては、計画が地域と行政が一体となって策定されており、地元の復興の意欲がまとめられているからとなっている。
- (9) 平成 6 年に島原市が作成し各家庭に配布した防災マップおよび防災ガイドブックは、現在では多くの家庭で利用されていない。また、住んでいる地区が眉山崩壊に備えた避難対象地区に含まれていることを知らない人が多く、避難訓練が行われている町内会も少ない。これらの市民への周知徹底の必要が明らかである。
- (10) 長期間噴火災害を経験した市民は、火山保険制度や噴火活動を監視し的確な情報を送った火山観測所および道路の代替性を重要視している。噴火継続中はハード対策が行えないことからソフト対策として人命を守り、財産の損失を補償するシステムが必要なことを示しているといえる。地区別では、被災地区では、「災害対策基本法の改正」および「応急仮設住宅の住環境改善」などの具体的な対策が重要視されている。一方、非被災地区では「海上輸送路の確保」および「商工業などの間接被害に対する救済対策」などが重要視されている。被災地区と非被災地区で災害対策に差が見られる。
- (11) 雲仙普賢岳の噴火は終息したとする判断する回答が前回のアンケートの結果と比較して増えている。島原市で今後心配される災害としては、「水無川・中尾川の土石流」という回答は減り、眉山の崩

壊や眉山第六溪の土石流とする回答が増えている。

(12) 今後、水無川および中尾川の土石流が発生した場合にも、防災施設を越えることはないと推測されている。砂防ダムなどの防災施設の建設は基本構想どおりでよいとする回答が半数以上となっている。

(13) 島原市には、災害時に近隣の協力を行うために、自主防災組織が全町内会に結成されているが、組織の活動はあまり行われていないようで地域住民に浸透していない。

(14) 市民は、島原地域で地震が発生した場合に眉山の崩壊を最も危惧している。地震に対する個人の備えとしては、懐中電灯や携帯ラジオの用意、地震保険の加入などが目立っており、家具類の固定や家屋の補強などといった被害を軽減させるための事前対策はあまり行われていない。

(15) 噴火災害で火砕流や土石流の大きな被害を受けた安中地区では、「防災マップ、防災ガイドブックを見たことがない」、「避難訓練が行われていない」、「自主防災組織の結成を知らない」などの割合が他地区に比べ高くなっている。災害によって影響を受けた公民館活動や町内会の再編を行うなどしてコミュニティの回復に努めるとともに、自主防災組織の活動をスムーズに行うことができるようにすべきである。

最後に、本アンケート調査を行うにあたり、快くご協力くださいました島原市民の方々に、深くお礼申し上げます。

13. 参考文献

- 1) 島原市企画課：島原市市勢振興計画，全 154 頁，1985. 5
- 2) 島原市企画課：第 5 次島原市市勢振興計画「火山とともに生きる湧水と歴史の国民公園都市」，全 140 頁，1995. 4
- 3) 島原市災害復興課：島原市災害復興計画 改訂版，全 161 頁，1995. 3
- 4) 島原地域再生行動計画策定委員会事務局：島原地域再生行動計画，全 133 頁，1997. 3
- 5) 雲仙普賢岳砂防指定地利活用方策検討委員会：雲仙普賢岳砂防指定地利活用構想報告，全 39 頁，1997. 5
- 6) 島原市都市整備課：島原都市計画マスタープラン，全 95 頁，1998. 3
- 7) 高橋 和雄，阿比留 勝吾，福島 武志：長崎県における地震防災計画の策定に関する調査・研究，長崎大学工学部社会開発工学科土木構造学研究室，全 133 頁，1996. 3
- 8) 高橋 和雄，藤井 真：火山災害下における島原市の復興・振興計画に関する調査報告書，長崎大学工学部社会開発工学科土木構造学研究室，全 108 頁，1995. 4
- 9) 高橋 和雄，藤井 真，伊藤 雅尚：島原市の自主防災組織の現状と課題に関するアンケート調査報告書，長崎大学工学部社会開発工学科土木構造学研究室，全 90 頁，1996. 3
- 10) 高橋 和雄，藤井 真：長期化・大規模化した雲仙普賢岳の火山災害を教訓とした防災施設および都市基盤の整備に関する研究，土木学会論文集，No. 567/IV-35，pp19～32，1997. 6

付録A：島原市全域の復興・振興に関するアンケート調査依頼状

平成9年9月16日

各位

長崎大学工学部
高橋 和雄

アンケート調査のお願い

拝啓 初秋の候、皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成7年に雲仙普賢岳の噴火活動の停止が確認されてから、2年が経過しました。その後再噴火の兆候もなく、今日を迎えています。この間、1,2号砂防ダムの着工、島原深江道路の建設、農地の基盤整備など各種の復興事業に加え、がまだす計画などの半島全体の経済面の復興を目指した計画も策定され、本復興計画も動き出しております。また、地域の活性化の柱となる火山観光化に向けて、火山科学博物館、土石流遺構の保存、砂防指定地の利活用などもこれから始まろうとしています。

私は、昭和63年5月の島原水害の調査から、今回の噴火災害の調査を通じて、島原に度々おじゃましています。この間、地域の皆様には、何度かアンケート調査やヒヤリング調査をお願いしてきました。災害中のご多忙な折の皆様のご協力に感謝申し上げます。これらの調査をもとに、雲仙普賢岳火山対策委員会、土石流の応急・緊急対策検討委員会などを通じて、数々の施設計画の作成の助言をしてきました。

また、復興計画では、島原市復興計画(平成5年、7年、島原市)、がまだす計画(平成9年、長崎県)、砂防指定地利活用構想(平成9年、建設省)などの作成を支援してきました。現在では、深江町の大野木場小学校被災校舎の現地保存、島原都市計画マスタープランなどの策定にかかわっています。また、国レベルの消防庁、建設省、損害保険関係の火山対策の見直しにも参加しています。

噴火活動が停止し、本格復興が開始された現在、島原市全域のこれからのために、どのような対策が必要かを再度把握し、今後の計画づくりに反映させるために、島原市にお住いの20歳以上の皆様の約3%の方々を無作為に抽出して、アンケート調査をお願いすることにいたしました。

つきましては、大変申し訳ありませんが、同封のアンケートの回答をよろしくお願い申し上げます。本調査は目的外に利用することは絶対にございませぬ。また、結果は統計的な処理を行うため、個人にご迷惑をおかけする事もございませぬので、よろしくご協力下さるよう重ねてお願い申し上げます。

大変申し訳ございませぬが、10日以内に、同封の封筒に入れてご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬具

連絡先：〒852 長崎市文教町1-14
長崎大学工学部社会開発工学科
高橋 和雄

Tel (095)847-1111 (内 2710)

Fax (095)848-3624 Tel・Fax (095)848-9639

上記不在の場合：長崎大学工学部社会開発工学科
西村 寛史(大学院学生)・塩津 雅子(4年生)

Tel・Fax (095)848-9639

付録 B : 島原市全域の復興・振興に関するアンケート調査 集計結果

B-1. 単純集計

1. 住いの地区の状況をお伺いします.

問1 あなたの現在のお住いの住宅はどれにあたりますか.

N=408 人

項 目	人数(人)	(%)
(1)古くからの集落	295	72.3
(2)新興住宅地	85	20.8
(3)噴火災害後の住宅地	20	4.9
(4)不明	4	1.0
(5)N. A.	2	0.5
(6)D. K.	2	0.5

問2 あなたがお住いの住宅地はどのような位置にあるとお考えですか.

N=408 人

項 目	人数(人)	(%)
(1)山間部	30	7.4
(2)斜面地	55	13.5
(3)平地	238	58.3
(4)埋立地	10	2.5
(5)海岸部	34	8.3
(6)造成地	31	7.6
(7)その他	3	0.7
(8)N. A.	4	1.0
(9)D. K.	3	0.7

問3 あなたのお住いの地域はどのような地域にあたると思われるか.

N=408 人

項 目	人数(人)	(%)
(1)住宅地域	275	67.4
(2)工場地域	3	0.7
(3)農業地域	79	19.4
(4)商業地域	44	10.8
(5)その他	2	0.5
(6)N. A.	3	0.7
(7)D. K.	2	0.5

問4 あなたは町内会(自治会)行事に参加しますか。

N=408人

項 目	人数(人)	(%)
(1)毎回参加する	115	28.2
(2)良く参加する	100	24.5
(3)時々参加する	110	27.0
(4)めったに参加しない	76	18.6
(5)D. K.	7	1.7

問5 あなたの住む町内会(自治会)ではどのような活動が行われていますか。

N=408人(複数回答)

項 目	人数(人)	(%)
(1)盆踊り	34	8.3
(2)清掃	373	91.4
(3)見学会	10	2.6
(4)スポーツ大会	209	51.2
(5)敬老会	197	48.3
(6)お祭り	88	21.6
(7)資源物回収活動	209	51.2
(8)旅行	48	11.8
(9)お茶, お花, 民謡などのお稽古ごと	26	6.4
(10)防犯パトロール	19	4.7
(11)カラオケ, ゲートボール大会	27	6.6
(12)公民館活動	67	16.4
(13)子供会(児童会)	183	44.9
(14)その他	6	1.5
(15)N. A.	6	1.5

問6 あなたの地区では、雲仙普賢岳の火山災害前と比較して近隣との付き合いはどう変化しましたか。

N=408人

項 目	人数(人)	(%)
(1)以前に比べて非常に親密になった	9	2.2
(2)以前に比べて多少親密になった	27	6.6
(3)以前とほとんど変わらない	321	78.7
(4)以前と比べて多少悪化した	19	4.7
(5)以前と比べて非常に悪化した	1	0.2
(6)わからない	21	5.2
(7)N. A.	9	2.2
(8)D. K.	1	0.2

2. 島原での生活についてお伺いします。

問1 あなたはこれからの島原に住み続けたいですか。

N=408人

項 目	人数(人)	(%)
(1)住み続けたい	362	88.7
(2)他の都市に移りたい	34	8.3
(3)N. A.	12	2.9

付問1.1 住み続けたい理由をお教え下さい。

N=362人(複数回答)

項 目	人数(人)	(%)
(1)島原に愛着がある	237	65.5
(2)家屋や畑が島原にある	209	57.7
(3)職場が島原にある	153	42.3
(4)島原での生活が安定している	134	37.0
(5)友人が島原に多い	174	48.1
(6)身内(親, 兄弟, 子供)が島原に住んでいる	191	52.8
(7)その他	9	2.5
(8)N. A.	1	0.3

付問1.2 住み続けたくない理由をお教え下さい。

N=34人(複数回答)

項 目	人数(人)	(%)
(1)島原市内出の職場・商売では収入が少なく, 生活できない	9	26.5
(2)島原市内では住宅や農地を入手することが困難である	3	8.8
(3)眉山の崩壊のおそれがある	7	20.6
(4)普賢岳の再噴火による被害のおそれがある	3	8.8
(5)人口の流出・商工業の流出でさびれる	16	47.1
(6)子供が独立して島原を離れた	4	11.8
(7)その他	15	44.1

付問1.3 移るとしたらどこを希望しますか。

N=34人

項 目	人数(人)	(%)
(1)島原市周辺の町	4	11.8
(2)諫早市	4	11.8
(3)長崎市	5	14.7
(4)その他の長崎県内の町	7	20.6
(5)長崎県を除く九州内の市町村	4	11.8
(6)九州外の市町村	2	5.9
(7)どこでもよい	6	17.6
(8)D. K.	2	5.9

問2 島原市も高齢化社会になることが考えられますが、どのような対策が必要と考えられますか。

N=408人(複数回答)

項 目	人数(人)	(%)
(1)歩道にベンチの設置	91	22.3
(2)デイサービスの充実	154	37.7
(3)通院に対するバス回数券やタクシーチケットなどの支給	145	35.5
(4)バス路線の新設	64	15.7
(5)買い物などの生活支援サービス	118	28.9
(6)社会参加の機会の提供(シルバー人材センターの充実)	116	28.4
(7)ホームヘルプサービスの充実	158	38.7
(8)ショートステイの充実	69	16.9
(9)訪問看護事業の充実	179	43.9
(10)特別養護老人ホームの整備	144	35.3
(11)老人保健施設の整備	172	42.2
(12)その他	15	3.7
(13)N. A.	24	5.9

問3 あなたのお宅では生活は災害前と比べて災害中にどう変わりましたか。

N=408人

項 目	人数(人)	(%)
(1)楽になった	8	2.0
(2)変わらない	258	63.2
(3)少し苦しくなった	77	18.9
(4)かなり苦しくなった	31	7.6
(5)非常に苦しくなった	11	2.7
(6)N. A.	23	5.6

付問3.1 噴火が終息して2年経過しましたが、現在はどうですか。

N=119人

項 目	人数(人)	(%)
(1)回復して噴火前に戻った	26	21.8
(2)回復して噴火前より楽になった	2	1.7
(3)回復したが前に戻るまでにはなっていない	53	44.5
(4)回復していない(そのままである)	13	10.9
(5)回復するどころかかえって苦しくなっている	22	18.5
(6)D. K.	3	2.5

問4 現在の島原市における生活についてお伺いします。現在の生活で不便や不満に思っていることは何ですか。

N=408人(複数回答)

項 目	人数(人)	(%)
(1)住宅	34	8.3
(2)仕事	110	27.0

(3)収入	124	30.4
(4)子供の教育	31	7.6
(5)健康・医療	110	27.0
(6)情報の入手	46	11.3
(7)交通の便	166	40.7
(8)都市下水・廃水処理	117	28.7
(9)人間関係	31	7.6
(10)衛生	23	5.6
(11)騒音	29	7.1
(12)生活学習	13	3.2
(13)スポーツ・レクリエーション	27	6.6
(14)文化活動	35	8.6
(15)プライバシー	17	4.2
(16)買物	54	13.2
(17)駐車場	59	14.5
(18)高齢者福祉	87	21.3
(19)交通安全	39	9.6
(20)災害（土石流，浸水，眉山など）	66	16.2
(21)その他	19	4.7
(22)N. A.	36	8.8

3. まちづくりについてお伺いします。

問1 島原市役所を移転・建て直すとしたら，どの場所が最も適当と考えますか。

N=408人

項 目	人数(人)	(%)
(1)現在位置	247	60.5
(2)大手浜埋立地	100	24.5
(3)三会地区	14	3.4
(4)安中地区	19	4.7
(5)その他	14	3.4
(6)N. A.	13	3.2
(7)D. K.	1	0.2

問2 これから新しく市街地化するとしたらどこを中心に行なうべきとお考えですか。

N=408人

項 目	人数(人)	(%)
(1)三会地区(国道251号沿い)	90	22.1
(2)杉谷地区(諫早道路沿い)	69	16.9
(3)島原外港	173	42.4
(4)安中地区(国道251号沿い)	27	6.6
(5)その他	24	5.9
(6)N. A.	24	5.9
(7)D. K.	1	0.2

問3 島原市のシンボルとして何が最もふさわしいと思いますか。

N=408人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	島原城	221	54.2
(2)	普賢岳(平成新山)	73	17.9
(3)	湧水	75	18.4
(4)	緑	6	1.5
(5)	白土湖	2	0.5
(6)	武家屋敷	5	1.2
(7)	水無川下流域(安中地区)	13	3.2
(8)	その他	2	0.5
(9)	N. A.	7	1.7
(10)	D. K.	4	1.0

問4 島原半島を活性化するために、市町村合併を行なうべきとする意見があります。がまだ
す計画でも検討することになっています。あなたはこの意見をどう思いますか。

N=408人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	賛成	180	44.1
(2)	反対	76	18.6
(3)	どちらともいえない	140	34.3
(4)	N. A.	12	2.9

付問4.1 合併するとしたらどのようにすべきと考えますか。

N=180人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	1市16町すべて	43	23.9
(2)	島原市と深江町	13	7.2
(3)	島原市と深江町・有明町	113	62.8
(4)	その他	9	5.0
(5)	N. A.	1	0.6
(6)	D. K.	1	0.6

付問4.2 合併に賛成する理由は何ですか。

N=180人(複数回答)

項	目	人数(人)	(%)
(1)	有効な土地利用が可能である	88	48.9
(2)	行政区画の区分による災害対策などの差がなくなる	60	33.3
(3)	元来島原半島1つのブロックであったから	18	10.0
(4)	地方分権の時代には今の市町の単位では小さすぎて対応できない	93	51.7
(5)	広域行政を行なうことによって行政改革ができる	105	58.3
(6)	その他	5	2.8
(7)	N. A.	2	1.1

付問 4.3 合併に反対する理由は何ですか。

N=76 人(複数回答)

項	目	人数(人)	(%)
(1)	島原市の半島における拠点性がなくなる	24	31.6
(2)	島原市の中心地がさびれる	18	23.7
(3)	地域の特性に対応したきめ細かい対策ができにくくなる	35	46.1
(4)	合併するメリットがはっきりしない	57	75.0
(5)	その他	3	3.9
(6)	N. A.	1	1.3

問 5 島原市では、公共下水道の建設計画が昭和 55 年に策定されています。まだ実施計画は策定されていません。今後、下水道の整備についてどのように考えますか。

N=408 人(複数回答)

項	目	人数(人)	(%)
(1)	住環境を向上させるために必要	259	63.5
(2)	市内の河川の水質をよくするために必要	227	55.6
(3)	海の水の汚染を減らすために必要	234	57.4
(4)	観光のイメージアップのために必要	114	27.9
(5)	住宅の改築・建替などの地域経済の活性化のために必要	77	18.9
(6)	島原市の人口規模では下水道の整備は無理	46	11.3
(7)	自己負担が多いから無理	59	14.5
(8)	用地の確保が困難だから無理	24	5.9
(9)	その他	5	1.2
(10)	N. A.	19	4.7

問 6 島原市の水源は地下水に依存しています。地下水源の将来の確保についてお伺いします。水源の確保についてあなたはどのように思いますか。

N=408 人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	大丈夫である	121	29.7
(2)	心配である	274	67.2
(3)	N. A.	13	3.2

付問 6.1 心配な理由は何ですか

N=274 人(複数回答)

項	目	人数(人)	(%)
(1)	湧水が枯れた地点がある	194	70.8
(2)	平成 6 年の渇水の影響が出る	42	15.3
(3)	火山灰の堆積によって雨水の地下への浸透能が低下して、地下水源の供給が減少する	163	59.5
(4)	市街地化に伴いコンクリートやアスファルトが地表面を覆って、地下水の供給が減少している	100	36.5
(5)	ビニールハウスなどの農業の施設化が増えて、雨水の地下水の供給が減少している	55	20.1
(6)	地下水源の供給メカニズムが明確でないので、地下水に影響	95	34.7

が出て対策の取りようがない		
(7)その他	16	5.8
(8)N. A.	2	0.7

付問 6.2 どのような対策が必要と考えますか。

N=274 人(複数回答)

項	目	人数(人)	(%)
(1)	地下水の実態調査を行なう	189	69.0
(2)	地下水の汲み上げの総量規制を行なう	109	39.8
(3)	畑に浸透ます, 歩道に浸水舗装を導入し, 地下水源への供給を減らさない	75	27.4
(4)	地下水の汲み上げ量を減らすために湧水を農業などに利用する	97	35.4
(5)	その他	8	2.9
(6)	N. A.	8	2.9

問 7 島原市の人口は, 昭和 60 年の 46,061 人から平成 2 年の 44,828 人とゆるやかに減少していたが, 平成 7 年には 40,778 人と噴火災害の影響を受けて大幅に減少しました。島原市の人口は今後どうなると思いますか。

N=408 人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	平成 2 年の人口に戻る	21	5.1
(2)	昭和 60 年の人口に戻る	9	2.2
(3)	平成 7 年の人口が当分続く	173	42.4
(4)	人口はこのまま減少し続ける	180	44.1
(5)	N. A.	24	5.9
(6)	D. K.	1	0.2

問 8 島原市全域の将来のイメージとしてどのようなものが最もふさわしいと思いますか。

N=408 人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	商業都市	17	4.2
(2)	工業都市	16	3.9
(3)	住宅都市	20	4.9
(4)	田園都市	32	7.8
(5)	観光保養都市	208	51.0
(6)	国民公園都市 (市勢振興計画の目指す都市像)	81	19.9
(7)	その他	3	0.7
(8)	N. A.	25	6.1
(9)	D. K.	6	1.5

問9 島原市は地域の活性化の大きな柱として火山観光の推進を目指しており、がまだず計画でも各種の計画(道の駅, 土石流災害遺構保存公園, 島原火山科学博物館, 国立公園の整備)が進められようとしています。火山観光化をどう思いますか。

N=408人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	おおいに期待できる	37	9.1
(2)	かなり期待できる	72	17.6
(3)	やや期待できる	130	31.9
(4)	あまり期待できない	132	32.4
(5)	ほとんど期待できない	25	6.1
(6)	N. A.	12	2.9

付問9.1 期待できる理由は何ですか。

N=239人(複数回答)

項	目	人数(人)	(%)
(1)	平成新山のイメージが全国に知られているので、全国から人が島原を訪れることが期待できる	140	58.6
(2)	がまだず計画で火山観光化に向かって事業が具体化しつつある	73	30.5
(3)	火山観光化は長崎県, 島原市, 周辺の町, 地域が一体となって取り組んでおり, 民間の資本参加も期待できる	83	34.7
(4)	行政だけでなく, 地域住民も火山観光化の推進に積極的である	34	14.2
(5)	地域の活性化には火山観光化しか残されていない	91	38.1
(6)	その他	1	0.4
(7)	N. A.	3	1.3

付問9.2 期待できない理由は何ですか

N=157人(複数回答)

項	目	人数(人)	(%)
(1)	火山観光化を受け入れる宿泊施設, 道路, 下水道, まち並み整備が遅れている	65	41.4
(2)	火山観光化のために作った博物館, 土石流遺構などの維持管理費の負担が大きくなるおそれがある	60	38.2
(3)	火山観光化は景気とか社会状況によって支配されるため, リスクが大きい	42	26.8
(4)	火山観光化に対して地域住民と行政の間に意識のずれがあり, まだ定着していない	71	45.2
(5)	その他	17	10.8

4. 災害復興計画についてお伺いします。

問1 島原市の災害復興計画は、噴火活動の終息の見込みがない時期(平成7年3月)に策定されたものです。あなたは噴火活動の停止を受けて島原市の災害復興計画を見直すべきだと考えますか。

N=408人

項 目	人数(人)	(%)
(1)見直すべきである	193	47.3
(2)見直す必要はない	36	8.8
(3)どちらともいえない	105	25.7
(4)わからない	61	15.0
(5)N. A.	10	2.5
(6)D. K.	3	0.7

付問1.1 次に示す災害復興計画項目のうち、どの計画を見直すべきと考えますか。

N=193人(複数回答)

項 目	人数(人)	(%)
(1)安中三角地帯の嵩上げと住宅整備	66	34.2
(2)三会海岸埋立てと住宅団地建設	114	59.1
(3)島原第四小学校を核とした杉谷地区の新しいまちづくり	50	25.9
(4)火山博覧会の開催	53	27.5
(5)火山研究機関の誘致	34	17.6
(6)自主防災組織の育成・強化	53	27.5
(7)その他	5	2.6
(8)N. A.	5	2.6

付問1.2 見直す必要がない理由は何ですか。

N=36人(複数回答)

項 目	人数(人)	(%)
(1)あくまでも災害復興計画どおりに計画の推進を行うべき	8	22.2
(2)災害復興計画はすでに柔軟に見直されており、特に見直す必要はない	24	66.7
(3)がまだ計画が策定されたことにより、災害復興計画は見直されている	18	50.0
(4)その他	0	0.0

問2 あなたは平成8年度に建設省の雲仙普賢岳砂防指定地利活用構想が策定されたことを知っていますか。

N=408人

項 目	人数(人)	(%)
(1)よく知っている	21	5.1
(2)だいたい知っている	107	26.2
(3)あまり知らない	173	42.4
(4)全く知らない	84	20.6

(5)N. A.	22	5.4
(6)D. K.	1	0.2

問3 あなたは平成8年度に環境庁によって国立公園雲仙「緑のダイヤモンド計画」(ルネッサンス計画(仮称))が策定されたことを知っていますか。

N=408人

項 目	人数(人)	(%)
(1)よく知っている	14	3.4
(2)だいたい知っている	69	16.9
(3)あまり知らない	146	35.8
(4)全く知らない	166	40.7
(5)N. A.	12	2.9
(6)D. K.	1	0.2

問4 噴火災害によって次に示す島原市に関する事業は更に進んだと思いますか。それとも停滞したと思いますか。

N=408人

(1)地域高規格道路の整備

①進んだ		②無関係		③停滞した		④N. A.		⑤D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
242	59.3	61	15.0	63	15.4	42	10.3	0	0.0

(2)都市計画道路の整備

①進んだ		②無関係		③停滞した		④N. A.		⑤D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
167	40.9	93	22.8	102	25.0	46	11.3	0	0.0

(3)大手川の改修

①進んだ		②無関係		③停滞した		④N. A.		⑤D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
339	83.1	32	7.8	14	3.4	22	5.4	1	0.2

(4)眉山の治山対策

①進んだ		②無関係		③停滞した		④N. A.		⑤D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
252	61.8	72	17.6	37	9.1	47	11.5	0	0.0

(5)中心市街地の再開発

①進んだ		②無関係		③停滞した		④N. A.		⑤D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
43	10.5	122	29.9	191	46.8	52	12.7	0	0.0

(6)観光資源の開拓

①進んだ		②無関係		③停滞した		④N. A.		⑤D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
76	18.6	131	32.1	139	34.1	62	15.2	0	0.0

(7)公営住宅の整備

①進んだ		②無関係		③停滞した		④N. A.		⑤D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
244	59.8	78	19.1	38	9.3	47	11.5	1	0.2

(8) 自主防災組織

①進んだ		②無関係		③停滞した		④N. A.		⑤D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
205	50.2	94	23.0	51	12.5	58	14.2	0	0.0

(9) 近隣との人間関係

①進んだ		②無関係		③停滞した		④N. A.		⑤D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
96	23.5	207	50.7	50	12.3	54	13.2	1	0.2

(10) 農業の施設化

①進んだ		②無関係		③停滞した		④N. A.		⑤D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
133	32.6	161	39.5	56	13.7	58	14.2	0	0.0

(11) 水産業対策

①進んだ		②無関係		③停滞した		④N. A.		⑤D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
34	8.3	195	47.8	112	27.5	67	16.4	0	0.0

(12) 企業の誘致

①進んだ		②無関係		③停滞した		④N. A.		⑤D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
15	3.7	129	31.6	209	51.2	55	13.5	0	0.0

(13) 水資源の保全と水の有効利用

①進んだ		②無関係		③停滞した		④N. A.		⑤D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
52	12.7	168	41.2	120	29.4	68	16.7	0	0.0

(14) 公共下水道の整備

①進んだ		②無関係		③停滞した		④N. A.		⑤D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
31	7.6	162	39.7	152	37.3	61	15.0	2	0.5

(15) 農業の基盤整備

①進んだ		②無関係		③停滞した		④N. A.		⑤D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
118	28.9	158	38.7	67	16.4	65	15.9	0	0.0

(16) スポーツ、レクリエーションの施設

①進んだ		②無関係		③停滞した		④N. A.		⑤D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
85	20.8	152	37.3	118	28.9	53	13.0	0	0.0

(17) 高等教育機関の誘致

①進んだ		②無関係		③停滞した		④N. A.		⑤D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
6	1.5	179	43.9	167	40.9	56	13.7	0	0.0

(18) 高齢者対策

①進んだ		②無関係		③停滞した		④N. A.		⑤D. K.	
(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
55	13.5	178	43.6	123	30.1	51	12.5	1	0.2

問5 雲仙普賢岳の噴火災害を体験して、今後の災害対策としてどのようなことがらが必要と
 思いますか。

N=408人(複数回答)

項	目	人数(人)	(%)
(1)	応急仮設住宅の住環境改善(広さ, 防音, 温度)	152	37.3
(2)	火山保険制度(損害保険)	204	50.0
(3)	災害危険地の土地買い上げ制度	132	32.4
(4)	雲仙岳災害対策基金のような基金創設	116	28.4
(5)	災害対策基本法の改正(警戒区域設定権者, 損失補償など)	145	35.5
(6)	九州大学島原地震火山観測所の充実	200	49.0
(7)	無人化施工などによる危険地区における防災工事を行う技術開発	127	31.1
(8)	商工業などの間接被害に対する救済対策	146	35.8
(9)	道路・鉄道などの迂回路やネットワーク化による代替性の確保	193	47.3
(10)	海上輸送路の確保	127	31.1
(11)	積極的な応急・緊急対策(仮設導流堤, 矢板工など)の導入	100	24.5
(12)	災害ボランティアの活動	163	40.0
(13)	地域住民の復興・復旧に関する合意形成の行ない方	68	16.7
(14)	復興・復旧に対する情報提供システム	97	23.8
(15)	安中三角地帯などの復興まちづくりに対する支援体制	74	18.1
(16)	その他	5	1.2
(17)	N. A.	20	4.9

5. がまだす計画についてお聞きします。

問1 平成9年3月に長崎県が「がまだす計画」(島原地域再生行動計画)を策定したことをあなたは知っていますか。

N=408人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	はい	361	88.2
(2)	いいえ	34	8.6
(3)	N. A.	13	3.2

問2 あなたはがまだす計画の内容を知っていますか

N=361人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	よく知っている	20	5.5
(2)	だいたい知っている	136	37.7
(3)	少し知っている	136	37.7
(4)	ほとんど知らない	64	17.7
(5)	N. A.	5	1.4

問3 がまだす計画では 27 のプロジェクトが決定されましたが、重点プロジェクトのうち、あなたが重要と考えていることは何ですか。

N=292 人(5つ回答)

項 目	人数(人)	(%)
(1)道の駅の整備事業	47	16.1
(2)地域高規格道路(島原道路)の整備事業	145	49.7
(3)街なみ環境整備事業	60	20.5
(4)砂防指定地利活用推進事業	62	21.2
(5)水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業	135	46.2
(6)島原半島農林業立国宣言事業	14	4.8
(7)担い手育成畑地帯総合整備事業	23	7.9
(8)島原・深江地区農地区画整備事業	33	11.3
(9)あすを築く漁協合併総合対策事業	19	6.5
(10)雲仙岳災害復興種苗放流事業	22	7.5
(11)広域型増殖場造成事業	6	2.1
(12)漁村加工推進圏形成事業	3	1.0
(13)島原火山科学博物館(仮称)建設事業	76	26.0
(14)土石流災害遺構保存公園(仮称)整備事業	30	10.3
(15)島原半島広域観光ルート形成事業	87	29.8
(16)小浜温泉リフレッシュセンター建設事業	7	2.4
(17)国立緑のダイヤモンド計画「ルネッサンス計画(仮称)」事業	35	12.0
(18)島原半島商工業振興支援事業	58	19.9
(19)復興記念病院(仮称)建設事業(島原温泉病院の建て替え)	161	55.1
(20)地域・生活情報通信基盤の整備事業	43	14.7
(21)ボランティア団体のネットワーク化推進事業	32	11.0
(22)高等看護学校設置事業	43	14.7
(23)観光系学科(高等学校)の設置調査事業	11	3.8
(24)原城史料館整備事業	6	2.1
(25)島原復興アリーナ(仮称)建設事業	24	8.2
(26)島原半島市町村合併調査検討事業	45	15.4
(27)がまだす計画推進のための基金設置事業	28	9.6
(28)N. A.	6	2.1
(29)D. K.	35	8.6

問4 がまだす計画には、地域住民の意向が反映されていると思いますか。

N=292 人

項 目	人数(人)	(%)
(1)十分に反映されている	15	5.1
(2)かなり反映されている	69	23.6
(3)少し反映されている	98	33.6
(4)どちらでもない	54	18.5
(5)やや反映されていない	16	5.5
(6)かなり反映されていない	14	4.8
(7)全く反映されていない	15	5.1
(8)N. A.	10	3.4
(9)D. K.	1	0.3

問5 あなたは、がまだす計画が島原地域の振興・活性化に役立つと思いますか。

N=292人

項 目	人数(人)	(%)
(1)おおいに期待できる	25	8.6
(2)かなり期待できる	133	45.5
(3)あまり期待できない	113	38.7
(4)ほとんど期待できない	11	3.8
(5)N. A.	10	3.4

付問5.1 期待できる理由は何ですか。

N=158人(複数回答)

項 目	人数(人)	(%)
(1)地域と行政が一体となった取り組みで策定された計画で実現の可能性が高い	85	53.8
(2)島原の振興が地域と行政が一体となった取り組みを行なっていることから、民間が投資しやすい環境が整った	43	27.2
(3)地元の復興の意欲がまとめられているため、地域の協力が得られることが期待できる	72	45.6
(4)火山観光化について具体的な構想が固まったので、火山観光化の実現が期待できる	61	38.6
(5)その他	0	0.0
(6)N. A.	7	4.4

付問5.2 なぜ期待できないのですか。

N=124人(複数回答)

項 目	人数(人)	(%)
(1)地元の協力が期待できない	39	31.5
(2)財源の確保がされていない計画がある	51	41.1
(3)島原の活性化は無理である	29	23.4
(4)マスコミなどの島原に対する関心が少なくなったから	25	20.2
(5)複数の行政機関や市・町にまたがる計画があるから	20	16.1
(6)自主性に乏しく、他人任せの姿勢が行政にも住民にもあるから	81	65.3
(7)その他	11	8.9
(8)N. A.	8	6.5

6. 災害時の避難対策についてお伺いします。

問1 平成6年6月に島原市が作成した土石流、火砕流、眉山崩壊に対する避難方法などを示した防災マップや防災ガイドラインを配付しました。あなたはこれを見たことがありますか。

N=408人

項 目	人数(人)	(%)
(1)ある	344	84.3

(2)ない	53	13.0
(3)N. A.	11	2.7

付問 1. 1 防災マップは今どのようにしていますか.

N=344 人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	家の中のわかりやすい所に貼ってある	59	17.2
(2)	家の中に保管してあり, どこにあるかわかっている	89	25.8
(3)	家の中に保管してあるがどこにあるか探さないとわからない	86	25.0
(4)	家の中に貼っていた時期があったが, 今は保管してある	35	10.2
(5)	家の中に貼っていた時期があったが, 今はどこにあるかわからない	62	18.0
(6)	その他	3	0.9
(7)	N. A.	7	2.0
(8)	D. K.	3	0.9

問 2 あなたがお住いの町内会で避難訓練が行われたことがありますか.

N=408 人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	ある	127	31.1
(2)	ない	230	56.4
(3)	わからない	34	8.3
(4)	N. A.	17	4.2

付問 2. 1 あなたは避難訓練には参加したことがありますか.

N=127 人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	参加したことがある	65	51.2
(2)	参加したことがない	62	48.8

問 3 同居されているご家族についてお伺いします. ご家族の中に災害時に自力で避難できない方がいらっしゃいますか.

N=408 人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	4歳未満の乳幼児	27	6.6
(2)	65歳以上の高齢者	135	33.1
(3)	介護が必要な病気・障害を持つ方	24	5.9
(4)	その他	9	2.2
(5)	いない	208	51.0
(6)	N. A.	40	9.8

問4 あなたの地区は土石流が発生したときの避難対象地区に含まれていますか。

N=408人

項 目	人数(人)	(%)
(1)はい	93	22.8
(2)いいえ	244	59.8
(3)わからない	56	13.7
(4)N. A.	14	3.4
(5)D. K.	1	0.2

付問4.1 あなたの地区の避難所を知っていますか。

N=93人

項 目	人数(人)	(%)
(1)はい	91	97.8
(2)いいえ	2	2.2

問5 あなたの地区は眉山に異常が認められたときの避難対象地域に含まれていますか。

N=408人

項 目	人数(人)	(%)
(1)はい	175	42.9
(2)いいえ	121	29.7
(3)わからない	91	22.3
(4)N. A.	21	5.1

付問5.1 眉山の崩壊に備えた避難をする場合の1次避難所を知っていますか。

N=175人

項 目	人数(人)	(%)
(1)はい	158	90.3
(2)いいえ	16	9.1
(3)N. A.	1	0.6

問6 あなたはこれから土石流や眉山の崩壊に備えて避難することがあると思いますか。

N=408人

項 目	人数(人)	(%)
(1)確実にあるだろう	24	5.9
(2)十分考えられる	145	35.5
(3)多分ないだろう	208	51.0
(4)全くないだろう	16	3.9
(5)N. A.	15	3.7

7. 防災都市づくりについてお伺いします。

問1 雲仙普賢岳の噴火活動は、平成7年3月に停止状態にあることが確認され、平成7年5月には火山噴火予知連絡会によって追認されています。あなたは噴火活動は今後どのようなになるとおもいますか。

N=408人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	終息したと思う	107	26.2
(2)	終息したと思うが、もう1,2年様子を見ないとわからない	171	41.9
(3)	終息とは思わない	61	15.0
(4)	全く見当がつかない	58	14.2
(5)	N. A.	11	2.7

問2 島原市において、今後心配される災害は何ですか。

N=408人(複数回答)

項	目	人数(人)	(%)
(1)	雲仙普賢岳の火砕流	66	16.2
(2)	水無川・中尾川の土石流	172	42.2
(3)	眉山第六溪の土石流	191	46.8
(4)	雲仙普賢岳の溶岩ドームの崩壊	168	41.2
(5)	眉山の山体崩壊	218	53.4
(6)	地震による津波	65	15.9
(7)	地震による市街地火災	83	20.3
(8)	台風による風害	145	35.5
(9)	特に心配なことがらはない	17	4.2
(10)	その他	2	0.5
(11)	N. A.	9	2.2

問3 あなたは、雲仙普賢岳の火砕流はまだ発生すると思いますか。

N=408人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	確実に発生するだろう	6	1.5
(2)	十分考えられる	137	33.6
(3)	多分発生しないだろう	242	59.3
(4)	二度と発生しないだろう	5	1.2
(5)	N. A.	17	4.2
(6)	D. K.	1	0.2

問4 あなたは、水無川や中尾川流域の土石流は今後も発生すると思いますか。

N=408人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	確実に発生するだろう	70	17.2
(2)	十分考えられる	250	61.3
(3)	多分発生しないだろう	67	16.4

(4)二度と発生しないだろう	3	0.7
(5)N. A.	17	4.2
(6)D. K.	1	0.2

付問 4. 1 土石流の規模はどの程度になると思いますか。

N=320 人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	現在の導流堤，遊砂地，砂防ダムおよび水無川などの防災施設を越えるような土石流となるだろう	49	15.3
(2)	導流堤，遊砂地，砂防ダムおよび水無川などに納まる土石流となるだろう	214	66.9
(3)	上流域の遊砂地などに捕捉される程度の土石流となるだろう	41	12.8
(4)	その他	4	1.3
(5)	N. A.	9	2.8
(6)	D. K.	3	0.9

付問 4. 2 土石流の発生のおそれが少ない理由は何ですか。

N=70 人(複数回答)

項	目	人数(人)	(%)
(1)	遊砂地，導流堤，河川改修，砂防ダムの着工(水無川1号，2号砂防ダム)などの防災工事が進んで，安全が確保されたから	58	82.9
(2)	上流部に種子をまくことなどによって緑が回復して土砂の流出押さえられたから	21	30.0
(3)	火砕流が発生せず，火山灰が地表面に少なくなり，流出の割合が減ったから	37	52.9
(4)	砂防ダム群が完成するまで(10～15年)に，諫早水害や長崎豪雨並みの雨は降らないだろうから	4	5.7
(5)	その他	1	1.4
(6)	N. A.	4	5.7

問 5 水無川の砂防ダムは1号砂防ダムが平成10年3月に完成の予定で，2号砂防ダムが平成9年に着工しています。中尾川流域の砂防ダムをはじめ，本格的なダムの建設はこれからです。あなたは砂防ダム群の建設をどのように建設すべきとお考えですか。

N=408 人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	基本構想どおりに建設する	178	43.6
(2)	堆積土砂量が増えているので，規模をさらに大きくする	55	13.5
(3)	噴火が終息したので，測量や地質調査を行って基本構想を見直す	109	26.7
(4)	土石流が出なくなったので，規模を小さくする	14	3.4
(5)	その他	2	0.5
(6)	N. A.	38	9.3
(7)	D. K.	12	2.9

問6 島原市には災害時の近隣の協力を行うために、自主防災組織が全町内会に結成されていますが、自主防災組織があなたの町内会にも結成されていることを知っていますか。

N=408人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	はい	211	51.7
(2)	いいえ	175	42.9
(3)	N. A.	22	5.4

付問6.1 あなたの地区の自主防災組織は災害時に有効と思いますか。

N=211人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	かなり有効である	34	16.1
(2)	多少有効である	109	51.7
(3)	有効でない	23	10.9
(4)	わからない	44	20.9
(5)	N. A.	1	0.5

付問6.2 有効でないとする理由は何ですか。

N=23人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	自主防災組織の結成が形式的に結成されており、活動計画がないから	16	69.6
(2)	住民の参加が期待できないから	2	8.7
(3)	市役所、消防団、警察署との連携がなされていないから	0	0.0
(4)	災害時の情報が入手できないから	1	4.3
(5)	その他	0	0.0
(6)	N. A.	0	4.3
(7)	D. K.	3	13

8. 地震防災計画についてお伺いします。

問1 島原市で地震が生ずるとしたら、どの程度の地震が生ずると思いますか。

N=408人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	震度3(弱震)	42	10.3
(2)	震度4(中震)	100	24.5
(3)	震度5(強震)	113	27.7
(4)	震度6(烈震)	16	3.9
(5)	震度7(激震)	2	0.5
(6)	わからない	110	27.2
(7)	N. A.	21	5.2
(8)	D. K.	3	0.7

問2 島原市で地震が生じた場合、どのような被害が生じると思いますか。

N=408人(複数回答)

項	目	人数(人)	(%)
(1)	眉山の崩壊	290	71.1
(2)	普賢岳の溶岩ドームの崩壊	258	63.2
(3)	津波の発生	126	30.9
(4)	火災	191	46.8
(5)	地盤の液状化	54	13.2
(6)	斜面の崩壊, 石垣の崩壊	173	42.4
(7)	水道, ガス, 電力などの停止	249	61.0
(8)	道路の寸断	174	42.6
(9)	建物の崩壊	210	51.4
(10)	電話の不通	237	58.1
(11)	その他	2	0.5
(12)	N. A.	14	3.4

問3 あなたの住んでいる地区は地震に対して安全と感じていますか, それとも危険と感じていますか。

N=408人

項	目	人数(人)	(%)
(1)	安全	27	6.6
(2)	どちらかといえば安全	190	46.6
(3)	どちらかといえば危険	139	34.1
(4)	危険	37	9.1
(5)	N. A.	13	3.2
(6)	D. K.	2	0.5

付問3.1 どんな点が危険と考えますか。

N=176人(複数回答)

項	目	人数(人)	(%)
(1)	眉山が崩壊した場合に被害が及ぶ危険性があること	135	76.7
(2)	普賢岳の溶岩ドームが崩壊した場合に被害が及ぶ危険性があること	35	19.9
(3)	木造住宅が密集していること	51	29.0
(4)	ブロック塀が多いこと	16	9.1
(5)	道路が狭く複雑に入り組んでいること	50	28.4
(6)	道路際に通行の障害となるものが多いこと	16	9.1
(7)	窓ガラスや看板などの落下の危険性があること	20	11.4
(8)	近くに危険物を扱っている工場があること	5	2.8
(9)	地盤が弱いこと	35	19.9
(10)	河川の氾濫や高潮, 津波の危険性があること	32	18.2
(11)	火災の時延焼を防ぐのに緑地帯や広場が少ないこと	44	25.0
(12)	近くに消防用水として, 利用できる川やプールがないこと	38	21.6
(13)	人や車が多いこと	26	14.8
(14)	その他	7	4.0

(15)N. A.	2	1.1
-----------	---	-----

問4 島原市で地震が生じた場合、災害応急対策でどのようなことが大きな課題になると考えられますか。

N=408人(3つ回答)

項	目	人数(人)	(%)
(1)	人命救助	279	68.4
(2)	消火活動	183	44.9
(3)	給水車などによる応急給水	78	19.1
(4)	避難所の確保	186	45.6
(5)	交通網の確保	224	54.9
(6)	通信の確保	102	25.0
(7)	復旧資材の運搬	27	6.6
(8)	その他	1	0.2
(9)	N. A.	13	3.2
(10)	D. K.	35	8.6

問5 地震に備えて、お宅で用意しているものは何ですか。

N=408人(複数回答)

項	目	人数(人)	(%)
(1)	家具類の固定	54	13.2
(2)	棚の上の物が落ちないように整理	55	13.5
(3)	家屋やブロック塀などの補強・改築	19	4.7
(4)	非常食量や飲料水の用意	53	13.0
(5)	簡易ガスコンロの用意	51	12.5
(6)	貴重品などの非常持ち出し品の整理	181	44.4
(7)	消火器などの消防用品の用意	138	33.8
(8)	緊急医療品の用意	101	24.8
(9)	懐中電灯の用意	332	81.4
(10)	携帯ラジオの用意	243	59.6
(11)	非常の際の家族との連絡方法の確認	80	19.6
(12)	避難所の確認	137	33.6
(13)	地域で行われた消防訓練や防災講演会への参加	34	8.3
(14)	地震についての本やパンフレットの入手	7	1.7
(15)	地震保険への加入	118	28.9
(16)	梯子やロープの準備	31	7.6
(17)	その他	4	1.0
(18)	N. A.	26	6.4

問6 お宅では大地震が発生した場合、どのような点について家族内で話し合ったことがありますか。

N=408人(複数回答)

項	目	人数(人)	(%)
(1)	まっ先に何をしたらよいかについて	95	23.3
(2)	家族がばらばらになった場合の連絡方法や連絡場所について	86	21.1

(3)日頃どんな備えをしたらよいかについて	52	12.7
(4)いざというときの避難先や連絡先について	112	27.5
(5)特に話し合ったことはない	206	50.5
(6)その他	1	0.2
(7)N. A.	22	5.4
(8)D. N.	2	0.5

9. あなたご自身についてお伺いします.

問1 性別

N=408 人

項 目	人数(人)	(%)
(1)男性	189	46.3
(2)女性	212	52.0
(3)N. A.	6	1.5
(4)D. K.	1	0.2

問2 年齢をお教え下さい

N=408 人

項 目	人数(人)	(%)
(1)20 歳代	32	7.8
(2)30 歳代	42	10.3
(3)40 歳代	88	21.6
(4)50 歳代	77	18.9
(5)60 歳代	79	19.4
(6)70 歳代以上	87	21.3
(7)N. A.	3	0.7

問3 あなたの住んでいる地区をお教え下さい.

N=408 人

項 目	人数(人)	(%)
(1)三重地区	44	10.7
(2)杉谷地区	39	9.6
(3)森岳地区	96	23.5
(4)霊丘地区	86	21.1
(5)白山地区	81	19.9
(6)安中地区	56	13.7
(7)N. A.	6	1.5

問4 あなたの職業をお教え下さい.

N=408 人

項 目	人数(人)	(%)
(1)農林業	21	5.1

(2)漁業	6	1.5
(3)自営工業	6	1.5
(4)自営商業	46	11.3
(5)公務員	33	8.1
(6)会社員	101	24.8
(7)専門職・自由業	23	5.6
(8)家庭婦人	68	16.7
(9)学生	0	0.0
(10)無職	92	22.5
(11)その他	7	1.7
(12)N. A.	5	1.2

問5 あなたは島原市にお住いになって何年になりますか。

N=408人

項 目	人数(人)	(%)
(1)1年未満	0	0.0
(2)1年以上5年未満	25	6.1
(3)5年以上10年未満	6	1.5
(4)10年以上15年未満	19	4.6
(5)15年以上20年未満	28	6.9
(6)20年以上	325	79.7
(7)N. A.	5	1.2

B-2. クロス集計

問 あなたの住む町内会(自治会)では、どのような活動が行われていますか。

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| (1)盆踊り | (8)旅行 |
| (2)清掃 | (9)お茶, お花, 民謡などのお稽古ごと |
| (3)見学会 | (10)防犯パトロール |
| (4)スポーツ大会(野球, ソフトボール, テニスなど) | (11)カラオケ, ゲートボール大会 |
| (5)敬老会 | (12)公民館活動 |
| (6)お祭り | (13)子供会(児童会) |
| (7)資源物回収活動 | (14)その他 |
| | (15)無回答, 無効回答 |

・住宅別(複数回答)

	古くからの集落 (N=295)	新興住宅地 (N=85人)	噴火災害後の住宅地 (N=20人)	不明 (N=4)
(1)	25(8.5%)	8(9.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)
(2)	270(91.5%)	78(91.8%)	18(90.0%)	4(100.0%)
(3)	7(2.4%)	1(1.2%)	1(5.0%)	0(0.0%)
(4)	151(51.2%)	46(54.1%)	10(50.0%)	0(0.0%)
(5)	161(54.6%)	30(35.3%)	5(25.0%)	0(0.0%)
(6)	74(25.1%)	11(12.9%)	2(10.0%)	0(0.0%)
(7)	148(50.2%)	49(57.6%)	8(40.0%)	1(25.0%)
(8)	39(13.2%)	8(9.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)
(9)	22(7.5%)	4(4.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)
(10)	12(4.1%)	5(5.9%)	1(5.0%)	0(0.0%)
(11)	25(8.5%)	1(1.2%)	1(5.0%)	0(0.0%)
(12)	55(18.6%)	8(9.4%)	1(5.0%)	1(25.0%)
(13)	141(47.8%)	35(41.2%)	5(25.0%)	1(25.0%)
(14)	5(1.7%)	1(1.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)
(15)	3(1.0%)	1(1.2%)	1(5.0%)	0(0.0%)

問 あなたの地区では、雲仙普賢岳の火山災害前と比較して近隣とのつきあいはどう変化しましたか。

- | | |
|--------------------|------------------|
| (1)以前に比べて非常に親密になった | (5)以前と比べて非常に悪化した |
| (2)以前に比べて多少親密になった | (6)わからない |
| (3)以前とほとんど変わらない | (7)無回答, 無効回答 |
| (4)以前と比べて多少悪化した | |

・地区別

	三会地区 (N=44人)	杉谷地区 (N=39人)	森岳地区 (N=96人)	霊丘地区 (N=86人)	白山地区 (N=81人)	安中地区 (N=56人)
(1)	1(2.3%)	0(0.0%)	2(2.1%)	2(2.3%)	3(3.7%)	1(1.8%)
(2)	1(2.3%)	4(10.3%)	8(8.3%)	9(10.5%)	1(1.2%)	3(5.4%)
(3)	38(86.4%)	30(76.9%)	75(78.1%)	67(77.9%)	68(84.0%)	41(73.2%)

(4)	3 (6.8%)	0 (0.0%)	4 (4.2%)	2 (2.3%)	3 (3.7%)	6 (10.7%)
(5)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
(6)	1 (2.3%)	3 (7.7%)	4 (4.2%)	4 (4.7%)	2 (2.5%)	5 (8.9%)
(7)	0 (0.0%)	2 (5.1%)	2 (2.1%)	2 (2.3%)	4 (4.9%)	0 (0.0%)

問 あなたはこれからも島原に住み続けたいですか。

- (1)住み続けたい
- (2)他の都市に移りたい
- (3)無回答, 無効回答

A)男女別

	男性(N=189人)	女性(N=212人)
(1)	171 (90.5%)	184 (86.8%)
(2)	15 (7.9%)	19 (9.0%)
(3)	3 (1.6%)	9 (4.2%)

B)年齢別

	20歳代 (N=32人)	30歳代 (N=42人)	40歳代 (N=88人)	50歳代 (N=77人)	60歳代 (N=79人)	70歳代以上 (N=87人)
(1)	23 (71.9%)	34 (81.0%)	77 (87.5%)	70 (90.9%)	73 (92.4%)	82 (94.3%)
(2)	9 (28.1%)	7 (16.7%)	9 (10.2%)	6 (7.8%)	1 (1.3%)	2 (2.3%)
(3)	0 (0.0%)	1 (2.3%)	2 (2.3%)	1 (1.3%)	5 (6.3%)	3 (3.4%)

C)地区別

	三会地区 (N=44人)	杉谷地区 (N=39人)	森岳地区 (N=96人)	霊丘地区 (N=86人)	白山地区 (N=81人)	安中地区 (N=56人)
(1)	43 (97.7%)	33 (84.6%)	83 (86.5%)	78 (90.7%)	70 (86.4%)	50 (89.3%)
(2)	1 (2.3%)	4 (10.3%)	9 (9.4%)	7 (8.1%)	7 (8.6%)	5 (8.9%)
(3)	0 (0.0%)	2 (5.1%)	4 (4.1%)	1 (1.2%)	4 (5.0%)	1 (1.8%)

D)職業別

	農 林 業 (N=21)	漁 業 (N=6)	自 営 工 業 (N=6)	自 営 商 業 (N=46)	公 務 員 (N=33)	会 社 員 (N=101)	専 門 自 由 職 業 (N=23)	家 庭 婦 人 (N=68)	無 職 (N=92)	そ の 他 (N=7)
(1)	21 (100.0%)	6 (100.0%)	6 (100.0%)	39 (84.8%)	27 (81.8%)	87 (86.1%)	22 (95.7%)	58 (85.3%)	84 (91.4%)	7 (100.0%)
(2)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (10.9%)	6 (18.2%)	11 (10.9%)	1 (4.3%)	7 (10.3%)	4 (4.3%)	0 (0.0%)
(3)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.3%)	0 (0.0%)	3 (3.0%)	0 (0.0%)	3 (4.4%)	4 (4.3%)	0 (0.0%)

問 あなたのお宅では生活は災害前と比べて災害中はどう変わりましたか。

- (1) 楽になった (4) かなり苦しくなった
 (2) 変わらない (5) 非常に苦しくなった
 (3) 少し苦しくなった (6) 無回答, 無効回答

A) 地区別

	三会地区 (N=44 人)	杉谷地区 (N=39 人)	森岳地区 (N=96 人)	霊丘地区 (N=86 人)	白山地区 (N=81 人)	安中地区 (N=56 人)
(1)	1 (2.3%)	2 (5.1%)	1 (1.0%)	1 (1.2%)	1 (1.2%)	2 (3.6%)
(2)	30 (68.2%)	26 (66.7%)	62 (64.6%)	55 (64.0%)	49 (60.5%)	34 (60.7%)
(3)	8 (18.2%)	8 (20.5%)	14 (14.6%)	13 (15.1%)	18 (22.2%)	13 (23.2%)
(4)	5 (11.4%)	0 (0.0%)	6 (6.3%)	11 (12.7%)	4 (4.9%)	4 (7.1%)
(5)	0 (0.0%)	2 (5.1%)	4 (4.2%)	3 (3.5%)	2 (2.5%)	0 (0.0%)
(6)	0 (0.0%)	1 (2.6%)	9 (9.3%)	3 (3.5%)	7 (8.7%)	3 (5.4%)

B) 職業別

	農 林 業 (N=21)	漁 業 (N=6)	自 営 工 業 (N=6)	自 営 商 業 (N=46)	公 務 員 (N=33)	会 社 員 (N=101)	専 門 由 職 業 (N=23)	家 庭 婦 人 (N=68)	無 職 (N=92)	そ の 他 (N=7)
(1)	2 (9.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (2.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (4.3%)	0 (0.0%)
(2)	10 (47.6%)	2 (33.3%)	3 (50.0%)	15 (32.6%)	23 (69.7%)	74 (73.3%)	15 (65.2%)	44 (64.7%)	67 (72.8%)	5 (71.4%)
(3)	6 (28.6%)	3 (50.0%)	2 (33.3%)	13 (28.3%)	5 (15.2%)	15 (14.9%)	6 (26.1%)	11 (16.2%)	10 (10.9%)	2 (28.6%)
(4)	3 (14.3%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	14 (30.5%)	3 (9.1%)	2 (2.0%)	2 (8.7%)	2 (2.9%)	2 (2.2%)	0 (0.0%)
(5)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.3%)	0 (0.0%)	3 (3.0%)	0 (0.0%)	5 (7.4%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)
(6)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.3%)	2 (6.0%)	5 (4.8%)	0 (0.0%)	6 (8.8%)	8 (8.7%)	0 (0.0%)

問 現在の島原市における生活についてお伺いします。現在の生活で不便や不満に思っていることは何ですか。

- (1) 住宅 (10) 衛生
 (2) 仕事 (11) 騒音
 (3) 収入 (12) 生活学習
 (4) 子供の教育 (13) スポーツ・レクリエーション
 (5) 健康・医療 (14) 文化活動
 (6) 情報の入手 (15) プライバシー
 (7) 交通の便 (16) 買物
 (8) 都市の下水・廃水処理 (17) 駐車場
 (9) 人間関係 (18) 高齢者福祉

(19)交通安全

(21)その他

(20)災害(土石流、浸水、眉山など)

(22)無回答、無効回答

A)地区別(複数回答)

	三会地区 (N=44人)	杉谷地区 (N=39人)	森岳地区 (N=96人)	霊丘地区 (N=86人)	白山地区 (N=81人)	安中地区 (N=56人)
(1)	2(4.5%)	2(5.1%)	10(10.4%)	8(9.3%)	6(7.4%)	5(8.9%)
(2)	11(25.0%)	12(30.8%)	21(21.9%)	23(26.7%)	25(30.9%)	15(26.8%)
(3)	18(40.9%)	11(28.2%)	23(24.0%)	27(31.4%)	26(32.1%)	16(28.6%)
(4)	4(9.1%)	2(5.1%)	6(6.3%)	7(8.1%)	10(12.3%)	2(3.6%)
(5)	8(18.2%)	9(23.1%)	30(31.3%)	21(24.4%)	25(30.9%)	15(26.8%)
(6)	5(11.4%)	3(7.7%)	11(11.5%)	9(10.5%)	10(12.3%)	6(10.7%)
(7)	18(40.9%)	15(38.5%)	40(41.7%)	42(48.8%)	32(39.5%)	17(30.4%)
(8)	7(15.9%)	8(20.5%)	32(33.3%)	27(31.4%)	26(32.1%)	17(30.4%)
(9)	7(15.9%)	0(0.0%)	9(9.4%)	5(5.8%)	4(4.9%)	5(8.9%)
(10)	4(9.1%)	2(5.1%)	3(3.1%)	6(7.0%)	6(7.4%)	2(3.6%)
(11)	3(6.8%)	2(5.1%)	7(7.3%)	6(7.0%)	8(9.9%)	2(3.6%)
(12)	1(2.3%)	0(0.0%)	2(2.1%)	4(4.7%)	2(2.5%)	3(5.4%)
(13)	2(4.5%)	1(2.6%)	9(9.4%)	2(2.3%)	8(9.9%)	5(8.9%)
(14)	5(11.4%)	1(2.6%)	12(12.5%)	8(9.3%)	7(8.6%)	2(3.6%)
(15)	0(0.0%)	1(2.6%)	4(4.3%)	8(9.3%)	1(1.2%)	3(5.4%)
(16)	6(13.6%)	10(25.6%)	8(8.3%)	12(14.0%)	10(12.3%)	7(12.5%)
(17)	6(13.6%)	5(12.8%)	13(13.5%)	13(15.1%)	16(19.8%)	5(8.9%)
(18)	7(15.9%)	4(10.3%)	29(30.2%)	18(20.9%)	17(21.0%)	9(16.1%)
(19)	6(13.6%)	5(12.8%)	9(9.4%)	7(8.1%)	9(11.1%)	3(5.4%)
(20)	4(9.1%)	8(20.5%)	9(9.4%)	18(20.9%)	13(16.0%)	12(21.4%)
(21)	2(4.5%)	2(5.1%)	4(4.2%)	6(7.0%)	3(3.7%)	2(3.6%)
(22)	1(2.3%)	8(20.5%)	9(9.4%)	5(5.8%)	8(9.9%)	4(7.1%)

B)職業別(複数回答)

	農 林 業 (N=21)	漁 業 (N=6)	自 営 工 業 (N=6)	自 営 商 業 (N=46)	公 務 員 (N=33)	会 社 員 (N=101)	専 門 自 由 職 業 (N=23)	家 庭 婦 人 (N=68)	無 職 (N=92)	そ の 他 (N=7)
(1)	2 (9.5%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	3 (6.5%)	2 (6.1%)	10 (9.9%)	3 (13.0%)	10 (14.7%)	3 (3.3%)	0 (0.0%)
(2)	3 (14.3%)	2 (33.3%)	4 (66.7%)	15 (32.6%)	8 (24.2%)	33 (32.7%)	6 (26.1%)	15 (22.1%)	20 (21.7%)	3 (42.9%)
(3)	7 (33.3%)	4 (66.7%)	2 (33.3%)	18 (39.1%)	4 (12.1%)	42 (41.6%)	7 (30.4%)	16 (23.5%)	17 (18.5%)	3 (42.9%)
(4)	2 (9.5%)	0 (0.0%)	2 (33.3%)	5 (10.9%)	1 (3.0%)	9 (8.9%)	2 (8.7%)	5 (7.4%)	5 (5.4%)	0 (0.0%)
(5)	8 (38.1%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)	14 (30.4%)	8 (24.2%)	17 (16.8%)	3 (13.0%)	26 (38.2%)	27 (29.3%)	3 (42.9%)
(6)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	4 (8.7%)	8 (24.2%)	14 (13.9%)	3 (13.0%)	8 (11.8%)	5 (5.4%)	2 (28.6%)
(7)	8	2	0	25	19	43	10	31	25	2

	(38.1%)	(33.3%)	(0.0%)	(54.3%)	(57.6%)	(42.6%)	(43.5%)	(45.6%)	(27.2%)	(28.6%)
(8)	4 (19.0%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)	11 (23.9%)	10 (30.3%)	31 (30.7%)	4 (17.4%)	20 (29.4%)	32 (34.8%)	2 (28.6%)
(9)	1 (4.8%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	3 (6.5%)	3 (9.1%)	3 (3.0%)	2 (8.7%)	9 (13.2%)	8 (8.7%)	0 (0.0%)
(10)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.3%)	2 (6.1%)	4 (4.0%)	0 (0.0%)	7 (10.3%)	6 (6.5%)	1 (14.3%)
(11)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.3%)	0 (0.0%)	8 (7.9%)	3 (13.0%)	4 (5.9%)	11 (12.0%)	0 (0.0%)
(12)	2 (9.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (9.1%)	6 (5.9%)	0 (0.0%)	2 (2.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
(13)	2 (9.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (18.2%)	7 (6.9%)	3 (13.0%)	6 (8.8%)	2 (2.2%)	1 (14.3%)
(14)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (8.7%)	6 (18.2%)	12 (11.9%)	1 (4.3%)	5 (7.4%)	5 (5.4%)	0 (0.0%)
(15)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (10.9%)	2 (6.1%)	5 (5.0%)	0 (0.0%)	3 (4.4%)	2 (2.2%)	0 (0.0%)
(16)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	6 (13.0%)	7 (21.2%)	16 (15.8%)	1 (4.3%)	9 (13.2%)	12 (13.0%)	0 (0.0%)
(17)	3 (14.3%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	7 (15.2%)	6 (18.2%)	18 (17.8%)	3 (13.0%)	8 (11.8%)	12 (13.0%)	1 (14.3%)
(18)	3 (14.3%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	8 (17.4%)	5 (15.2%)	15 (14.9%)	4 (17.4%)	13 (19.1%)	36 (39.1%)	0 (0.0%)
(19)	1 (4.8%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	3 (6.5%)	2 (6.1%)	10 (9.9%)	3 (13.0%)	5 (7.4%)	13 (14.1%)	1 (14.3%)
(20)	5 (23.8%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	9 (19.6%)	7 (21.2%)	18 (17.8%)	3 (13.0%)	11 (16.2%)	10 (10.9%)	1 (14.3%)
(21)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	1 (2.2%)	2 (6.1%)	6 (5.9%)	2 (8.7%)	3 (4.4%)	2 (2.2%)	1 (14.3%)
(22)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	4 (8.7%)	1 (3.0%)	7 (6.9%)	1 (4.3%)	7 (10.3%)	15 (16.3%)	0 (0.0%)

問 島原市のシンボルとして何が最もふさわしいと思いますか。

- | | |
|----------------|-------------------|
| (1) 島原城 | (6) 武家屋敷 |
| (2) 普賢岳 (平成新山) | (7) 水無川下流域 (安中地区) |
| (3) 湧水 | (8) その他 |
| (4) 緑 | (9) 無回答、無効回答 |
| (5) 白土湖 | |

・地区別

	三会地区 (N=44 人)	杉谷地区 (N=39 人)	森岳地区 (N=96 人)	霊丘地区 (N=86 人)	白山地区 (N=81 人)	安中地区 (N=56 人)
(1)	30(68.2%)	18(46.2%)	62(64.6%)	45(52.3%)	41(50.7%)	24(42.9%)
(2)	4(9.1%)	9(23.0%)	15(15.6%)	15(17.4%)	15(18.5%)	12(21.4%)
(3)	6(13.6%)	9(23.0%)	12(12.5%)	19(22.1%)	18(22.3%)	11(19.6%)
(4)	0(0.0%)	1(2.6%)	2(2.1%)	2(2.3%)	1(1.2%)	0(0.0%)

(5)	1(2.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(1.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)
(6)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(2.1%)	1(1.2%)	1(1.2%)	1(1.8%)
(7)	1(2.3%)	1(2.6%)	1(1.0%)	0(0.0%)	1(1.2%)	7(12.5%)
(8)	0(0.0%)	1(2.6%)	0(0.0%)	1(1.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)
(9)	2(4.5%)	0(0.0%)	2(2.1%)	2(2.3%)	4(4.9%)	1(1.8%)

問 島原市の水源は地下水に依存しています。地下水源の将来の確保についてお伺いします。水源の確保についてあなたはどのように思いますか。

- (1)大丈夫である
- (2)心配である
- (3)無回答、無効回答

・地区別

	三会地区 (N=44人)	杉谷地区 (N=39人)	森岳地区 (N=96人)	霊丘地区 (N=86人)	白山地区 (N=81人)	安中地区 (N=56人)
(1)	12(27.3%)	5(12.8%)	26(27.1%)	29(33.7%)	34(42.0%)	14(25.0%)
(2)	31(70.5%)	34(87.2%)	65(67.7%)	54(62.8%)	44(54.3%)	41(73.2%)
(3)	1(2.2%)	0(0.0%)	5(5.2%)	3(3.5%)	3(3.7%)	1(1.8%)

問 心配な理由は何ですか

- (1)湧水が枯れた地点がある
- (2)平成6年の湧水の影響が出る
- (3)火山灰の堆積によって雨水の地下への浸透能が低下して、地下水源の供給が減少する
- (4)市街地化に伴いコンクリートやアスファルトが地表面を覆って、地下水の供給が減少している
- (5)ビニールハウスなどの農業の施設化が増えて、雨水の地下水への供給が減少している
- (6)地下水源の供給メカニズムが明確でないので、地下水に影響が出てても対策の取りようがない
- (7)その他
- (8)無回答、無効回答

・地区別

	三会地区 (N=31人)	杉谷地区 (N=34人)	森岳地区 (N=65人)	霊丘地区 (N=54人)	白山地区 (N=44人)	安中地区 (N=41人)
(1)	24(77.4%)	24(70.6%)	49(75.4%)	38(70.4%)	31(70.5%)	24(58.5%)
(2)	7(22.6%)	1(2.9%)	6(9.2%)	12(22.2%)	10(22.7%)	6(14.6%)
(3)	17(54.8%)	19(55.9%)	39(60.0%)	36(66.7%)	26(59.1%)	24(58.5%)
(4)	16(51.6%)	11(32.4%)	27(41.5%)	19(35.2%)	18(40.9%)	9(22.0%)
(5)	11(35.5%)	6(17.6%)	9(13.8%)	8(14.8%)	11(25.0%)	9(22.0%)
(6)	6(19.4%)	10(29.4%)	25(38.5%)	21(38.9%)	17(38.6%)	14(34.1%)
(7)	1(3.2%)	3(8.8%)	4(6.2%)	1(1.9%)	2(4.5%)	4(9.8%)
(8)	1(3.2%)	0(0.0%)	1(1.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

問 島原市の人口は、昭和 60 年の 46,061 人から平成 2 年の 44,828 人とゆるやかに減少していたが、平成 7 年には 40,778 と噴火災害の影響を受けて大幅に減少しました。島原市の人口は今後どうなと思いますか。

- (1)平成 2 年の人口に戻る (4)人口はこのまま減少し続ける
 (2)昭和 60 年の人口に戻る (5)無回答、無効回答
 (3)平成 7 年の人口が当分続く

・職業別

	農 林 業 (N=21)	漁 業 (N=6)	自 営 工 業 (N=6)	自 営 商 業 (N=46)	公 務 員 (N=33)	会 社 員 (N=101)	専 門 職 業 (N=23)	家 庭 婦 人 (N=68)	無 職 (N=92)	そ の 他 (N=7)
(1)	3 (14.3%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	3 (6.5%)	2 (6.1%)	5 (5.0%)	0 (0.0%)	2 (2.9%)	4 (4.3%)	0 (0.0%)
(2)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	1 (2.2%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	2 (8.7%)	2 (2.9%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)
(3)	8 (38.1%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)	21 (45.7%)	12 (36.4%)	47 (46.5%)	14 (60.9%)	29 (42.7%)	34 (37.0%)	3 (42.9%)
(4)	6 (28.5%)	4 (66.7%)	2 (33.2%)	19 (41.3%)	19 (57.6%)	41 (40.6%)	7 (30.4%)	33 (48.6%)	43 (46.7%)	4 (57.1%)
(5)	3 (14.3%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	2 (4.3%)	0 (0.0%)	7 (6.9%)	0 (0.0%)	2 (2.9%)	10 (10.9%)	0 (0.0%)

問 島原市の全域の将来のイメージとしてどのようなものが最もふさわしいと思いますか。

- (1)商業都市 (5)観光保養都市
 (2)工業都市 (6)国民公園都市 (市勢振興計画の目指す都市像)
 (3)住宅都市 (7)その他
 (4)田園都市 (8)無回答、無効回答

・地区別

	三会地区 (N=44 人)	杉谷地区 (N=39 人)	森岳地区 (N=96 人)	霊丘地区 (N=86 人)	白山地区 (N=81 人)	安中地区 (N=56 人)
(1)	2(4.5%)	2(5.1%)	3(3.1%)	2(2.3%)	2(2.5%)	5(8.9%)
(2)	4(9.1%)	3(7.7%)	1(1.0%)	3(3.5%)	2(2.5%)	3(5.4%)
(3)	2(4.5%)	3(7.7%)	6(6.3%)	4(4.7%)	4(4.9%)	1(1.8%)
(4)	8(18.2%)	5(12.8%)	5(5.2%)	3(3.5%)	8(9.9%)	3(5.4%)
(5)	18(40.9%)	16(41.0%)	56(58.4%)	45(52.3%)	46(56.8%)	25(44.6%)
(6)	7(15.9%)	9(23.1%)	12(12.5%)	24(27.9%)	13(16.0%)	13(23.2%)
(7)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(1.0%)	0(0.0%)	1(1.2%)	1(1.8%)
(8)	3(6.9%)	1(2.6%)	12(12.5%)	5(5.8%)	5(6.2%)	5(8.9%)

問 島原市は地域の活性化の大きな柱として火山観光の推進を目指しておりがまだず計画でも各種の計画(道の駅、土石流災害遺構保存公園、島原火山科学博物館、国立公園の整備)が進められようとしています。火山観光化をどう思いますか。

- (1)大いに期待できる (4)あまり期待できない
 (2)かなり期待できる (5)ほとんど期待できない
 (3)やや期待できる (6)無回答、無効回答

・職業別

	農 林 業 (N=21)	漁 業 (N=6)	自 営 工 業 (N=6)	自 営 商 業 (N=46)	公 務 員 (N=33)	会 社 員 (N=101)	専 門 由 職 業 (N=23)	家 庭 婦 人 (N=68)	無 職 (N=92)	そ の 他 (N=7)
(1)	4 (19.0%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	3 (6.5%)	4 (12.1%)	4 (4.0%)	1 (4.3%)	7 (10.3%)	11 (12.0%)	1 (14.3%)
(2)	7 (33.3%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)	11 (23.9%)	7 (21.2%)	15 (14.9%)	2 (8.7%)	11 (16.2%)	14 (15.2%)	1 (14.3%)
(3)	4 (19.0%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)	13 (28.3%)	10 (30.3%)	42 (41.6%)	5 (21.7%)	19 (27.9%)	28 (30.4%)	4 (57.1%)
(4)	5 (23.8%)	1 (16.7%)	2 (33.2%)	16 (34.8%)	11 (33.3%)	30 (29.7%)	14 (60.9%)	22 (32.4%)	29 (31.5%)	1 (14.3%)
(5)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	3 (6.5%)	1 (3.0%)	8 (7.9%)	1 (4.3%)	7 (10.3%)	3 (3.3%)	0 (0.0%)
(6)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	2 (2.9%)	7 (7.6%)	0 (0.0%)

問 島原市の災害復興計画は、噴火活動の終息の見込みがない時期(平成7年3月)に策定されたものです。あなたは噴火活動の停止を受けて島原市の災害復興計画を見直すべきと考えますか。

- (1)見直すべきである (4)わからない
 (2)見直す必要はない (5)無回答、無効回答
 (3)どちらともいえない

・地区別

	三会地区 (N=44人)	杉谷地区 (N=39人)	森岳地区 (N=96人)	霊丘地区 (N=86人)	白山地区 (N=81人)	安中地区 (N=56人)
(1)	20(45.5%)	21(53.8%)	47(49.0%)	41(47.7%)	39(48.1%)	22(39.3%)
(2)	1(2.3%)	1(2.6%)	11(11.5%)	9(10.5%)	10(12.3%)	4(7.1%)
(3)	16(36.4%)	9(23.1%)	20(20.8%)	25(29.1%)	17(21.0%)	16(28.6%)
(4)	6(13.6%)	6(15.4%)	16(16.7%)	9(10.5%)	12(14.8%)	12(21.4%)
(5)	1(2.3%)	2(5.1%)	2(2.1%)	2(2.3%)	3(3.7%)	2(3.6%)

問 次に示す災害復興計画項目のうち、どの計画を見直すべきと考えますか。

- (1) 安中三角地帯の嵩上げと住宅地整備
- (2) 三会海岸埋立てと住宅団地建設
- (3) 島原第四小学校を核とした杉谷地区の新しいまちづくり
- (4) 火山博覧会の開催
- (5) 火山研究機関の誘致
- (6) 自主防災組織の育成・強化
- (7) その他
- (8) 無回答, 無効回答

・地区別 (複数回答)

	三会地区 (N=20 人)	杉谷地区 (N=21 人)	森岳地区 (N=47 人)	霊丘地区 (N=41 人)	白山地区 (N=39 人)	安中地区 (N=22 人)
(1)	3(15.0%)	5(23.8%)	20(42.6%)	13(31.7%)	17(43.6%)	8(36.4%)
(2)	17(85.0%)	15(71.4%)	26(55.3%)	22(53.7%)	21(53.8%)	13(59.1%)
(3)	3(15.0%)	14(66.7%)	11(23.4%)	8(19.5%)	11(28.2%)	2(9.1%)
(4)	3(15.0%)	4(19.0%)	14(29.8%)	11(26.8%)	15(38.5%)	4(18.2%)
(5)	1(5.0%)	2(9.5%)	8(17.0%)	9(22.0%)	9(23.1%)	4(18.2%)
(6)	4(20.0%)	3(14.3%)	13(27.7%)	15(36.6%)	12(30.8%)	6(27.3%)
(7)	0(0.0%)	2(9.5%)	0(0.0%)	2(4.9%)	0(0.0%)	1(4.5%)
(8)	0(0.0%)	1(4.8%)	3(6.4%)	1(2.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)

問 あなたは平成8年度に建設省の雲仙普賢岳砂防指定地利活用構想が策定されたことを知っていますか。

- (1) よく知っている
- (2) だいたい知っている
- (3) あまり知らない
- (4) 全く知らない
- (5) 無回答, 無効回答

・地区別

	三会地区 (N=44 人)	杉谷地区 (N=39 人)	森岳地区 (N=96 人)	霊丘地区 (N=86 人)	白山地区 (N=81 人)	安中地区 (N=56 人)
(1)	5(11.4%)	3(7.7%)	4(4.2%)	1(1.2%)	3(3.7%)	4(7.1%)
(2)	9(20.5%)	8(20.5%)	26(27.1%)	28(32.6%)	21(25.9%)	12(21.5%)
(3)	14(31.8%)	14(35.9%)	35(36.5%)	36(41.9%)	44(54.3%)	25(44.7%)
(4)	13(29.5%)	11(28.2%)	22(22.9%)	16(18.6%)	11(13.6%)	11(19.6%)
(5)	3(6.8%)	3(7.7%)	9(9.3%)	5(5.7%)	2(2.5%)	4(7.1%)

問 雲仙普賢岳の噴火災害を体験して、今後の災害対策としてどのようなことがらが必要と思いますか。

- (1) 応急仮設住宅の住環境改善 (広さ, 防音, 温度)
- (2) 火山保険制度 (損害保険)
- (3) 災害危険地の土地の買い上げ制度
- (4) 雲仙岳災害復興基金のような基金創設
- (5) 災害対策基本法の改正 (警戒区域設定権者, 損失補償など)

- (6)九州大学島原地震火山観測所の充実
- (7)無人化施工などによる危険地区における防災工事を行う技術開発
- (8)商工業などの間接被害に対する救済対策
- (9)道路・鉄道などの迂回路やネットワーク化による代替性の確保
- (10)海上輸送路の確保
- (11)積極的な応急・緊急対策（仮設導流堤、矢板工など）の導入
- (12)災害ボランティアの活動
- (13)地域住民の復興・復旧に関する合意形成の行い方
- (14)復興・復旧に対する情報提供システム
- (15)安中三角地帯などの復興まちづくりに対する支援体制
- (16)その他
- (17)無回答、無効回答

A)地区別（複数回答）

	三会地区 (N=44 人)	杉谷地区 (N=39 人)	森岳地区 (N=96 人)	霊丘地区 (N=86 人)	白山地区 (N=81 人)	安中地区 (N=56 人)
(1)	12 (27.3%)	13 (33.3%)	29 (30.2%)	33 (38.4%)	36 (44.4%)	28 (50.0%)
(2)	23 (52.3%)	17 (43.6%)	49 (51.0%)	42 (48.8%)	38 (46.9%)	33 (58.9%)
(3)	13 (29.5%)	14 (35.9%)	24 (25.0%)	31 (36.0%)	28 (34.6%)	18 (32.1%)
(4)	18 (40.9%)	7 (17.9%)	22 (22.9%)	22 (25.6%)	26 (32.1%)	19 (33.9%)
(5)	12 (27.3%)	14 (35.9%)	35 (36.5%)	28 (32.6%)	26 (32.1%)	28 (50.0%)
(6)	21 (47.7%)	16 (41.0%)	51 (53.1%)	43 (50.0%)	41 (50.6%)	26 (46.4%)
(7)	12 (27.3%)	7 (17.9%)	33 (34.4%)	28 (32.6%)	27 (33.3%)	19 (33.9%)
(8)	14 (31.8%)	12 (30.8%)	37 (38.5%)	37 (43.0%)	27 (33.3%)	16 (28.6%)
(9)	21 (47.7%)	20 (51.3%)	42 (43.8%)	38 (44.2%)	42 (51.9%)	28 (50.0%)
(10)	8 (18.2%)	8 (20.5%)	29 (30.2%)	32 (37.2%)	33 (40.7%)	14 (25.0%)
(11)	9 (20.5%)	11 (28.2%)	18 (18.8%)	28 (32.6%)	21 (25.9%)	13 (23.2%)
(12)	20 (45.5%)	10 (25.6%)	35 (36.5%)	34 (39.5%)	37 (45.7%)	24 (42.9%)
(13)	8 (18.2%)	7 (17.9%)	12 (12.5%)	19 (22.1%)	10 (12.3%)	11 (19.6%)
(14)	10 (22.7%)	9 (23.1%)	22 (22.9%)	22 (25.6%)	18 (22.2%)	14 (25.0%)
(15)	6 (13.6%)	2 (5.1%)	12 (12.5%)	15 (17.4%)	19 (23.5%)	18 (32.1%)
(16)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.2%)	3 (3.7%)	1 (1.8%)
(17)	2 (4.5%)	1 (2.6%)	7 (7.3%)	3 (3.5%)	6 (7.4%)	1 (1.8%)

B)職業別（複数回答）

	農 林 業 (N=21)	漁 業 (N=6)	自 営 工 業 (N=6)	自 営 商 業 (N=46)	公 務 員 (N=33)	会 社 員 (N=101)	専 門 自 由 職 業 (N=23)	家 庭 婦 人 (N=68)	無 職 (N=92)	そ の 他 (N=7)
(1)	4 (19.0%)	4 (66.7%)	2 (33.3%)	13 (28.3%)	12 (36.4%)	47 (46.5%)	12 (52.2%)	28 (41.2%)	27 (29.3%)	1 (14.3%)
(2)	12 (57.1%)	2 (33.3%)	4 (66.7%)	23 (50.0%)	14 (42.4%)	50 (49.5%)	16 (69.6%)	31 (45.6%)	49 (53.3%)	2 (28.6%)
(3)	6 (28.6%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	11 (23.9%)	9 (27.3%)	36 (35.6%)	11 (47.8%)	23 (33.8%)	29 (31.5%)	2 (28.6%)

(4)	5 (23.8%)	1 (16.7%)	3 (50.0%)	11 (23.9%)	10 (30.3%)	31 (30.7%)	4 (17.4%)	19 (27.9%)	29 (31.5%)	1 (14.3%)
(5)	6 (28.6%)	0 (0.0%)	2 (33.3%)	19 (41.3%)	14 (42.4%)	41 (40.6%)	10 (43.5%)	23 (33.8%)	29 (31.5%)	1 (14.3%)
(6)	9 (42.9%)	4 (66.7%)	4 (66.7%)	17 (37.0%)	15 (45.5%)	40 (39.6%)	10 (43.5%)	36 (52.9%)	61 (66.3%)	2 (28.6%)
(7)	3 (14.3%)	3 (50.5%)	1 (16.7%)	8 (17.4%)	11 (33.3%)	34 (33.7%)	12 (52.2%)	20 (29.4%)	33 (35.9%)	1 (14.3%)
(8)	4 (19.0%)	1 (16.7%)	4 (66.7%)	34 (73.9%)	11 (33.3%)	37 (36.6%)	8 (34.8%)	23 (33.8%)	20 (21.7%)	2 (28.6%)
(9)	8 (38.1%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)	23 (50.0%)	16 (48.5%)	50 (49.5%)	12 (52.2%)	31 (45.6%)	46 (50.0%)	3 (42.9%)
(10)	3 (14.3%)	3 (50.0%)	1 (16.7%)	16 (34.8%)	8 (24.2%)	38 (37.6%)	8 (34.8%)	16 (23.5%)	30 (32.6%)	3 (42.9%)
(11)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	10 (21.7%)	3 (9.1%)	31 (30.7%)	10 (43.5%)	19 (27.9%)	20 (21.7%)	5 (71.4%)
(12)	5 (23.8%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	17 (37.0%)	13 (39.4%)	35 (34.7%)	11 (47.8%)	29 (42.6%)	46 (50.0%)	2 (28.6%)
(13)	3 (14.3%)	1 (16.7%)	2 (33.3%)	8 (17.4%)	9 (27.3%)	16 (15.8%)	4 (17.4%)	8 (11.8%)	16 (17.4%)	1 (14.3%)
(14)	2 (9.5%)	0 (0.0%)	2 (33.3%)	6 (13.0%)	8 (24.2%)	34 (33.7%)	6 (26.1%)	14 (20.6%)	21 (22.8%)	2 (28.6%)
(15)	4 (19.0%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	10 (21.7%)	7 (21.2%)	19 (18.8%)	7 (30.4%)	6 (8.8%)	19 (20.7%)	0 (0.0%)
(16)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	1 (4.3%)	3 (4.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
(17)	2 (9.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.2%)	0 (0.0%)	5 (5.0%)	0 (0.0%)	5 (7.4%)	7 (7.6%)	0 (0.0%)

問 がまだす計画では 27 のプロジェクトが決定されましたが、重点プロジェクトのうちあなたが重要と考えることがらは何ですか。

- | | |
|--------------------------|--------------------------------------|
| (1) 道の駅の整備事業 | (13) 島原火山科学博物館(仮称)建設事業 |
| (2) 地域高規格道路(島原鉄道)の整備事業 | (14) 土石流災害遺構保存公園(仮称)整備事業 |
| (3) 街なみ環境整備事業 | (15) 島原半島広域観光ルート形成事業 |
| (4) 砂防指定地利活用推進事業 | (16) 小浜温泉リフレッシュセンター建設事業 |
| (5) 水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業 | (17) 国立公園緑のダイヤモンド計画「ルネッサンス計画(仮称)」事業 |
| (6) 島原半島農林業立国宣言事業 | (18) 島原半島商工業振興支援事業 |
| (7) 担い手育成畑地帯総合整備事業 | (19) 復興記念病院(仮称)建設事業
(島原温泉病院の建て替え) |
| (8) 島原・深江地区農地区画整備事業 | (20) 地域・生活情報通信基盤の整備事業 |
| (9) 明日を築く漁協合併総合対策事業 | (21) ボランティア団体のネットワーク化推進事業 |
| (10) 雲仙岳災害復興種苗放流事業 | (22) 高等看護学校の設置事業 |
| (11) 広域型増殖場造成事業 | (23) 観光系学科(高等学校)の設置調査事業 |
| (12) 漁村加工推進圏形成事業 | |

(24) 原城史料館整備事業

(27) がまだ計画推進のための基金設置事業

(25) 島原復興アリーナ(仮称)建設事業

(28) 無回答, 無効回答

(26) 島原半島市町村合併調査検討事業

A) 地区別 (5つ回答)

	三会地区 (N=28人)	杉谷地区 (N=23人)	森岳地区 (N=71人)	霊丘地区 (N=66人)	白山地区 (N=58人)	安中地区 (N=42人)
(1)	5(17.9%)	3(13.0%)	8(11.3%)	15(22.7%)	9(15.5%)	7(16.7%)
(2)	11(39.3%)	17(73.9%)	26(36.6%)	39(59.1%)	26(44.8%)	23(54.8%)
(3)	5(17.9%)	3(13.0%)	17(23.9%)	19(28.8%)	7(12.1%)	9(21.4%)
(4)	2(7.1%)	4(17.4%)	16(22.5%)	13(19.7%)	11(19.0%)	12(28.6%)
(5)	17(60.7%)	13(56.5%)	28(39.4%)	27(40.9%)	23(39.7%)	25(59.5%)
(6)	1(3.6%)	2(8.7%)	4(5.6%)	3(4.5%)	2(3.4%)	2(4.8%)
(7)	6(21.4%)	3(13.0%)	2(2.8%)	2(3.0%)	6(10.3%)	3(7.1%)
(8)	4(14.3%)	4(17.4%)	6(8.5%)	4(6.1%)	4(6.9%)	9(21.4%)
(9)	2(7.1%)	0(0.0%)	10(14.1%)	2(3.0%)	4(6.9%)	0(0.0%)
(10)	1(3.6%)	3(13.0%)	4(5.6%)	4(6.1%)	8(13.8%)	2(4.8%)
(11)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(1.4%)	2(3.0%)	2(3.4%)	0(0.0%)
(12)	1(3.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(3.4%)	0(0.0%)
(13)	4(14.3%)	5(21.7%)	19(26.8%)	17(25.8%)	16(27.6%)	13(31.0%)
(14)	2(7.1%)	2(8.7%)	6(8.5%)	6(9.1%)	5(8.6%)	9(21.4%)
(15)	5(17.9%)	6(26.1%)	19(26.8%)	28(42.4%)	19(32.8%)	7(16.7%)
(16)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(2.8%)	0(0.0%)	3(5.2%)	2(4.8%)
(17)	1(3.6%)	0(0.0%)	10(14.1%)	19(28.8%)	9(15.5%)	6(14.3%)
(18)	6(21.4%)	4(17.4%)	15(21.1%)	16(24.2%)	10(17.2%)	5(11.9%)
(19)	19(67.9%)	15(65.2%)	36(50.7%)	32(48.5%)	38(65.5%)	20(47.6%)
(20)	4(14.3%)	4(17.4%)	7(9.9%)	15(22.7%)	7(12.1%)	6(14.3%)
(21)	4(14.3%)	2(8.7%)	12(16.9%)	4(6.1%)	6(10.3%)	4(9.5%)
(22)	4(14.3%)	3(13.0%)	12(16.9%)	10(15.2%)	8(13.8%)	5(11.9%)
(23)	2(7.1%)	0(0.0%)	2(2.8%)	3(4.5%)	3(5.2%)	1(2.4%)
(24)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(1.4%)	2(3.0%)	3(5.2%)	0(0.0%)
(25)	1(3.6%)	1(4.3%)	4(5.6%)	7(10.6%)	6(10.3%)	4(9.5%)
(26)	4(14.3%)	6(26.1%)	12(16.9%)	11(16.7%)	4(6.9%)	7(16.7%)
(27)	4(14.3%)	5(21.7%)	1(1.4%)	8(12.1%)	4(6.9%)	4(9.5%)
(28)	5(17.9%)	2(8.7%)	15(21.1%)	6(9.1%)	8(13.8%)	5(11.9%)

B) 職業別 (5つ回答)

	農 林 業 (N=15)	漁 業 (N=3)	自 営 工 業 (N=4)	自 営 商 業 (N=37)	公 務 員 (N=26)	会 社 員 (N=67)	専 門 自 由 職 業 (N=15)	家 庭 婦 人 (N=45)	無 職 (N=70)	そ の 他 (N=5)
(1)	4 (26.7%)	0 (0.0%)	2 (50.0%)	7 (18.9%)	2 (7.7%)	11 (16.4%)	3 (20.0%)	5 (11.0%)	13 (18.6%)	0 (0.0%)
(2)	9 (60.0%)	1 (33.3%)	2 (50.0%)	22 (59.5%)	16 (61.5%)	33 (49.3%)	8 (53.3%)	23 (51.1%)	26 (37.1%)	3 (60.0%)
(3)	2	0	1	8	8	18	2	9	11	1

	(13.3%)	(0.0%)	(25.0%)	(21.6%)	(30.8%)	(26.9%)	(13.3%)	(20.0%)	(15.7%)	(20.0%)
(4)	2 (13.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (16.2%)	12 (46.2%)	16 (23.9%)	3 (20.0%)	9 (20.0%)	11 (15.7%)	0 (0.0%)
(5)	8 (53.3%)	0 (0.0%)	2 (50.0%)	14 (37.8%)	18 (69.2%)	25 (37.3%)	9 (60.0%)	18 (20.0%)	37 (52.9%)	3 (60.0%)
(6)	4 (26.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.7%)	1 (3.8%)	3 (4.5%)	0 (0.0%)	1 (2.2%)	4 (5.7%)	0 (0.0%)
(7)	5 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (4.5%)	1 (6.7%)	5 (11.1%)	7 (10.0%)	1 (20.0%)
(8)	6 (40.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (5.4%)	5 (19.2%)	8 (11.9%)	1 (6.7%)	1 (2.2%)	10 (14.3%)	0 (0.0%)
(9)	0 (0.0%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	1 (2.7%)	2 (7.7%)	3 (4.5%)	1 (6.7%)	3 (6.7%)	6 (8.6%)	0 (0.0%)
(10)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (5.4%)	2 (7.7%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	5 (11.1%)	9 (12.9%)	2 (40.0%)
(11)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	1 (2.2%)	3 (4.3%)	0 (0.0%)
(12)	0 (0.0%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
(13)	3 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13 (35.1%)	11 (42.3%)	18 (26.9%)	3 (20.0%)	9 (20.0%)	17 (24.3%)	0 (0.0%)
(14)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (5.4%)	1 (3.8%)	11 (16.4%)	2 (13.3%)	6 (13.3%)	7 (10.0%)	0 (0.0%)
(15)	2 (13.3%)	0 (0.0%)	2 (50.0%)	12 (32.4%)	7 (26.9%)	22 (32.8%)	4 (26.7%)	5 (11.1%)	19 (27.1%)	1 (20.0%)
(16)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.7%)	0 (0.0%)	2 (3.0%)	1 (6.7%)	1 (2.2%)	2 (2.9%)	0 (0.0%)
(17)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (18.9%)	7 (26.9%)	10 (14.9%)	1 (6.7%)	4 (8.9%)	5 (7.1%)	0 (0.0%)
(18)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (50.0%)	9 (24.3%)	5 (19.2%)	13 (19.4%)	2 (13.3%)	7 (15.6%)	17 (24.3%)	2 (40.0%)
(19)	8 (53.3%)	1 (33.3%)	2 (50.0%)	23 (62.2%)	11 (42.3%)	35 (52.2%)	6 (40.0%)	21 (46.7%)	50 (71.4%)	3 (60.0%)
(20)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (8.1%)	3 (11.5%)	16 (23.9%)	4 (26.7%)	6 (13.3%)	10 (14.3%)	1 (20.0%)
(21)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (16.2%)	2 (7.7%)	8 (11.9%)	4 (26.7%)	5 (11.1%)	6 (8.6%)	0 (0.0%)
(22)	1 (6.7%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	6 (16.2%)	1 (3.8%)	7 (10.4%)	5 (33.3%)	6 (13.3%)	15 (21.4%)	0 (0.0%)
(23)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	3 (8.1%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	2 (13.3%)	2 (4.4%)	2 (2.9%)	0 (0.0%)
(24)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	1 (6.7%)	1 (2.2%)	3 (4.3%)	0 (0.0%)
(25)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	5 (13.5%)	3 (11.5%)	8 (11.9%)	0 (0.0%)	5 (11.1%)	1 (1.4%)	1 (20.0%)
(26)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	2 (5.4%)	5 (19.2%)	9 (13.4%)	2 (13.3%)	5 (11.1%)	18 (25.7%)	2 (40.0%)
(27)	2	0	2	5	3	6	0	2	6	0

	(13.3%)	(0.0%)	(50.0%)	(13.5%)	(11.5%)	(9.0%)	(0.0%)	(4.4%)	(8.6%)	(0.0%)
(28)	3 (20.0%)	1 (33.3%)	1 (25.0%)	5 (13.5%)	1 (3.8%)	9 (13.4%)	2 (13.3%)	10 (22.2%)	7 (10.0%)	1 (20.0%)

問 あなたは、がまだす計画が島原地域の振興・活性化に役立つと思いますか。

- (1)大いに期待できる (4)ほとんど期待できない
(2)かなり期待できる (5)無回答, 無効回答
(3)あまり期待できない

・職業別

	農 林 業 (N=15)	漁 業 (N=3)	自 営 工 業 (N=4)	自 営 商 業 (N=37)	公 務 員 (N=26)	会 社 員 (N=67)	専 自 門 由 職 業 (N=15)	家 庭 婦 人 (N=45)	無 職 (N=70)	そ の 他 (N=5)
(1)	3 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.7%)	2 (7.7%)	7 (10.4%)	1 (6.7%)	4 (8.9%)	6 (8.6%)	0 (0.0%)
(2)	5 (33.3%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	14 (37.8%)	16 (61.6%)	25 (37.3%)	4 (26.6%)	20 (44.4%)	40 (57.1%)	5 (100.0%)
(3)	6 (40.0%)	1 (33.3%)	4 (100.0%)	19 (51.4%)	6 (23.1%)	31 (46.3%)	9 (60.0%)	19 (42.2%)	17 (24.3%)	0 (0.0%)
(4)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (5.4%)	1 (3.8%)	3 (4.5%)	0 (0.0%)	2 (4.4%)	2 (2.9%)	0 (0.0%)
(5)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.7%)	1 (3.8%)	1 (1.5%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	5 (7.1%)	0 (0.0%)

問 平成6年6月に島原市が作成した土石流、火砕流、眉山崩壊に対する避難方法などを示した防災マップや防災ガイドブックを配付しました。あなたはこれを見たことがありますか。

- (1)ある
(2)ない
(3)無回答, 無効回答

・地区別

	三会地区 (N=44人)	杉谷地区 (N=39人)	森岳地区 (N=96人)	霊丘地区 (N=86人)	白山地区 (N=81人)	安中地区 (N=56人)
(1)	37(84.1%)	31(79.5%)	82(85.4%)	72(83.7%)	74(91.4%)	44(78.6%)
(2)	6(13.6%)	6(15.4%)	11(11.5%)	11(12.8%)	7(8.6%)	11(19.6%)
(3)	1(2.3%)	2(5.1%)	3(3.1%)	3(3.5%)	0(0.0%)	1(1.8%)

問 あなたがお住いの町内会で避難訓練が行なわれたことがありますか。

- (1)ある
(2)ない
(3)わからない

(4)無回答, 無効回答

・地区別

	三会地区 (N=44 人)	杉谷地区 (N=39 人)	森岳地区 (N=96 人)	霊丘地区 (N=86 人)	白山地区 (N=81 人)	安中地区 (N=56 人)
(1)	4(9.1%)	25(64.1%)	54(56.3%)	21(24.4%)	17(21.0%)	4(7.1%)
(2)	37(84.1%)	6(15.3%)	29(30.2%)	58(67.4%)	56(69.1%)	41(73.2%)
(3)	1(2.3%)	4(10.3%)	10(10.4%)	3(3.5%)	6(7.4%)	9(16.1%)
(4)	2(4.5%)	4(10.3%)	3(3.1%)	4(4.7%)	2(2.5%)	2(3.6%)

問 あなたの地区は土石流が発生した時の避難対象地区に含まれていますか。

- (1)はい
- (2)いいえ
- (3)わからない
- (4)無回答, 無効回答

・地区別

	三会地区 (N=44 人)	杉谷地区 (N=39 人)	森岳地区 (N=96 人)	霊丘地区 (N=86 人)	白山地区 (N=81 人)	安中地区 (N=56 人)
(1)	3(6.8%)	17(43.6%)	16(16.7%)	16(18.6%)	14(17.3%)	25(44.6%)
(2)	36(81.8%)	14(35.9%)	62(64.6%)	53(61.6%)	60(74.1%)	17(30.4%)
(3)	4(9.1%)	5(12.8%)	15(15.6%)	12(14.0%)	7(8.6%)	12(21.4%)
(4)	1(2.3%)	3(7.7%)	3(3.1%)	5(5.8%)	0(0.0%)	2(3.6%)

問 あなたの地区は眉山に異常が認められたときの避難対象地域に含まれていますか。

- (1)はい
- (2)いいえ
- (3)わからない
- (4)無回答, 無効回答

・地区別

	三会地区 (N=44 人)	杉谷地区 (N=39 人)	森岳地区 (N=96 人)	霊丘地区 (N=86 人)	白山地区 (N=81 人)	安中地区 (N=56 人)
(1)	0(0.0%)	11(28.2%)	44(45.8%)	54(62.8%)	40(49.4%)	23(41.1%)
(2)	34(77.3%)	13(33.3%)	27(28.1%)	12(14.0%)	22(27.2%)	12(21.4%)
(3)	6(13.6%)	10(25.6%)	21(21.9%)	15(17.4%)	18(22.2%)	20(35.7%)
(4)	4(9.1%)	5(12.9%)	4(4.2%)	5(5.8%)	1(1.2%)	1(1.8%)

問 あなたはこれから土石流や眉山の崩壊に備えて避難することがあると思いますか。

- (1)確実にあるだろう
- (2)十分考えられる
- (3)多分ないだろう
- (4)全くないだろう
- (5)無回答, 無効回答

・地区別

	三会地区 (N=44人)	杉谷地区 (N=39人)	森岳地区 (N=96人)	霊丘地区 (N=86人)	白山地区 (N=81人)	安中地区 (N=56人)
(1)	2(4.5%)	0(0.0%)	5(5.2%)	7(8.1%)	5(6.2%)	4(7.1%)
(2)	11(25.1%)	13(33.3%)	31(32.3%)	36(41.9%)	23(28.4%)	29(51.8%)
(3)	24(54.5%)	23(59.0%)	52(54.2%)	38(44.2%)	47(58.0%)	22(39.3%)
(4)	6(13.6%)	0(0.0%)	5(5.2%)	1(1.2%)	4(4.9%)	0(0.0%)
(5)	1(2.3%)	3(7.7%)	3(3.1%)	4(4.6%)	2(2.5%)	1(1.8%)

問 島原市において、今後心配される災害は何ですか。

- | | |
|--------------------|------------------|
| (1) 雲仙普賢岳の火砕流 | (7) 地震による市街地火災 |
| (2) 水無川・中尾川の土石流 | (8) 台風による風害 |
| (3) 眉山第六溪の土石流 | (9) 特に心配なことがらはない |
| (4) 雲仙普賢岳の溶岩ドームの崩壊 | (10) その他 |
| (5) 眉山の山体崩壊 | (11) 無回答、無効回答 |
| (6) 地震による津波 | |

・地区別 (複数回答)

	三会地区 (N=44人)	杉谷地区 (N=39人)	森岳地区 (N=96人)	霊丘地区 (N=86人)	白山地区 (N=81人)	安中地区 (N=56人)
(1)	9(20.5%)	5(12.8%)	15(15.6%)	13(15.1%)	10(12.3%)	11(19.6%)
(2)	25(56.8%)	23(59.0%)	36(37.5%)	27(31.4%)	32(39.5%)	26(46.4%)
(3)	14(31.8%)	11(28.2%)	42(43.8%)	62(72.1%)	33(40.7%)	27(48.2%)
(4)	26(59.1%)	23(59.0%)	29(30.2%)	24(27.9%)	38(46.9%)	25(44.6%)
(5)	14(31.8%)	16(41.0%)	62(64.6%)	55(64.0%)	42(51.9%)	28(50.0%)
(6)	8(18.2%)	1(2.6%)	17(17.7%)	17(19.8%)	14(17.3%)	7(12.5%)
(7)	10(22.7%)	3(7.7%)	19(19.8%)	23(26.7%)	16(19.8%)	11(19.6%)
(8)	14(31.8%)	9(23.1%)	39(40.6%)	24(27.9%)	35(43.2%)	23(39.3%)
(9)	0(0.0%)	3(7.7%)	2(2.1%)	2(2.3%)	7(8.6%)	3(5.4%)
(10)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(2.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)
(11)	1(2.3%)	0(0.0%)	1(1.0%)	3(3.5%)	1(1.2%)	1(1.8%)

問 あなたは、雲仙普賢岳の火砕流はまだ発生すると思いますか。

- | | |
|----------------|-----------------|
| (1) 確実に発生するだろう | (4) 二度と発生しないだろう |
| (2) 十分に考えられる | (5) 無回答、無効回答 |
| (3) 多分発生しないだろう | |

・地区別

	三会地区 (N=44人)	杉谷地区 (N=39人)	森岳地区 (N=96人)	霊丘地区 (N=86人)	白山地区 (N=81人)	安中地区 (N=56人)
(1)	2(4.5%)	1(2.6%)	2(2.1%)	0(0.0%)	1(1.2%)	0(0.0%)
(2)	15(34.1%)	15(38.5%)	26(27.1%)	30(34.9%)	29(35.8%)	19(33.9%)
(3)	24(54.5%)	18(46.2%)	61(63.5%)	53(61.6%)	48(59.3%)	36(64.3%)
(4)	0(0.0%)	2(5.1%)	1(1.0%)	1(1.2%)	1(1.2%)	0(0.0%)
(5)	3(6.8%)	3(7.7%)	6(6.3%)	2(2.3%)	2(2.5%)	1(1.8%)

問 あなたは水無川や中尾川流域の土石流は今後も発生すると思いますか。

- (1) 確実に発生するだろう (4) 二度と発生しないだろう
 (2) 十分に考えられる (5) 無回答, 無効回答
 (3) 多分発生しないだろう

・地区別

	三会地区 (N=44 人)	杉谷地区 (N=39 人)	森岳地区 (N=96 人)	霊丘地区 (N=86 人)	白山地区 (N=81 人)	安中地区 (N=56 人)
(1)	8(18.2%)	6(15.4%)	10(10.4%)	19(22.1%)	9(11.1%)	16(28.6%)
(2)	22(50.0%)	25(64.1%)	61(63.5%)	55(64.0%)	53(65.4%)	31(55.4%)
(3)	10(22.7%)	5(12.8%)	19(19.8%)	10(11.6%)	14(17.3%)	9(16.1%)
(4)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(1.0%)	0(0.0%)	2(2.5%)	0(0.0%)
(5)	4(9.1%)	3(7.7%)	5(5.3%)	2(2.3%)	3(3.7%)	0(0.0%)

問 水無川の砂防ダムは1号砂防ダムが平成10年3月に完成の予定で、2号砂防ダムが平成9年に着工しています。中尾川流域の砂防ダムを始め、本格的なダムの建設はこれからです。あなたは砂防ダム群の建設をどのようにすべきとお考えですか。

- (1) 基本構想どおりに建設する
 (2) 堆積土砂量が増えているので、規模をさらに大きくする。
 (3) 噴火が終息したので、測量や地質調査を行なって基本構想を見直す
 (4) 土石流が出なくなったので、規模を小さくする
 (5) その他
 (6) 無回答, 無効回答

A) 男女別

	男性(N=189 人)	女性(N=212 人)
(1)	86(45.5%)	90(42.5%)
(2)	24(12.7%)	31(14.6%)
(3)	51(27.0%)	57(26.9%)
(4)	10(5.3%)	4(1.9%)
(5)	0(0.0%)	2(0.9%)
(6)	18(9.5%)	28(13.2%)

B) 年齢別

	20 歳代 (N=32 人)	30 歳代 (N=42 人)	40 歳代 (N=88 人)	50 歳代 (N=77 人)	60 歳代 (N=79 人)	70 歳代以上 (N=87 人)
(1)	12(37.5%)	18(42.9%)	38(43.2%)	31(40.3%)	34(43.0%)	44(50.6%)
(2)	2(6.3%)	10(23.8%)	14(15.9%)	8(10.4%)	14(17.7%)	7(8.0%)
(3)	15(46.9%)	11(26.2%)	21(23.9%)	31(40.3%)	14(17.7%)	16(18.4%)
(4)	1(3.1%)	1(2.4%)	3(3.4%)	1(1.3%)	6(7.6%)	2(2.3%)
(5)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(1.1%)	1(1.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)
(6)	2(6.2%)	2(4.7%)	11(12.5%)	5(6.4%)	11(14.0%)	18(20.7%)

C) 地区別

	三会地区 (N=44 人)	杉谷地区 (N=39 人)	森岳地区 (N=96 人)	霊丘地区 (N=86 人)	白山地区 (N=81 人)	安中地区 (N=56 人)
(1)	18(40.9%)	15(38.5%)	41(42.7%)	35(40.7%)	40(49.4%)	26(46.4%)
(2)	4(9.1%)	3(7.7%)	9(9.4%)	16(18.6%)	11(13.6%)	12(21.4%)
(3)	11(25.0%)	11(28.2%)	30(31.3%)	25(29.1%)	19(23.5%)	11(19.6%)
(4)	4(9.1%)	2(5.1%)	4(4.2%)	1(1.2%)	2(2.5%)	1(1.8%)
(5)	1(2.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(1.2%)	0(0.0%)
(6)	6(13.6%)	8(20.5%)	12(12.4%)	9(10.4%)	8(9.8%)	6(10.8%)

D) 住い年数別

	1年以上5年未満 (N=25 人)	5年以上10年未満 (N=6 人)	10年以上15年未満 (N=19 人)	15年以上20年未満 (N=28 人)	20年以上 (N=325 人)
(1)	15(60.0%)	3(50.0%)	5(26.3%)	13(46.4%)	140(43.1%)
(2)	3(12.0%)	0(0.0%)	2(10.5%)	6(21.4%)	43(13.2%)
(3)	6(24.0%)	1(16.7%)	7(36.8%)	5(17.9%)	89(27.4%)
(4)	1(4.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	13(4.0%)
(5)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(5.3%)	1(3.6%)	0(0.0%)
(6)	0(0.0%)	2(33.3%)	4(21.1%)	3(10.7%)	40(12.3%)

問 島原市には災害時に近隣の協力を行なうために、自主防災組織が全町内会に結成されていますが、自主防災組織があなたの町内会にも結成されていることを知っていますか。

- (1) はい
- (2) いいえ
- (3) 無回答、無効回答

A) 男女別

	男性(N=189 人)	女性(N=212 人)
(1)	101(53.4%)	109(51.4%)
(2)	83(43.9%)	88(41.5%)
(3)	5(2.7%)	15(7.1%)

B) 地区別

	三会地区 (N=44 人)	杉谷地区 (N=39 人)	森岳地区 (N=96 人)	霊丘地区 (N=86 人)	白山地区 (N=81 人)	安中地区 (N=56 人)
(1)	18(40.9%)	20(51.3%)	54(56.3%)	43(50.0%)	46(56.8%)	27(48.2%)
(2)	22(50.0%)	15(38.5%)	37(38.5%)	41(47.7%)	30(37.0%)	28(50.0%)
(3)	4(9.1%)	4(10.3%)	5(5.2%)	2(2.3%)	5(6.2%)	1(1.8%)

問 島原市で地震が生じた場合、どのような被害が生じると思いますか。

- (1) 眉山の崩壊
- (2) 普賢岳の溶岩ドームの崩壊
- (3) 津波の発生
- (4) 火災
- (5) 地盤の液状化
- (6) 斜面の崩壊、石垣の崩壊
- (7) 水道、ガス、電力などの停止
- (8) 道路の寸断

(9)建物の倒壊

(11)その他

(10)電話の不通

(12)無回答, 無効回答

・地区別 (複数回答)

	三会地区 (N=44 人)	杉谷地区 (N=39 人)	森岳地区 (N=96 人)	霊丘地区 (N=86 人)	白山地区 (N=81 人)	安中地区 (N=56 人)
(1)	23(52.3%)	26(66.7%)	71(74.0%)	66(76.7%)	57(70.4%)	43(76.8%)
(2)	32(72.2%)	24(61.5%)	59(61.5%)	45(52.3%)	51(63.0%)	42(75.0%)
(3)	17(38.6%)	10(25.6%)	26(27.1%)	28(32.6%)	28(34.6%)	17(30.4%)
(4)	24(54.5%)	11(28.2%)	48(50.0%)	45(52.3%)	38(46.9%)	25(44.6%)
(5)	7(15.9%)	3(7.7%)	9(9.4%)	14(16.3%)	15(18.5%)	8(14.3%)
(6)	18(40.9%)	10(25.6%)	36(37.5%)	39(45.3%)	34(42.0%)	34(60.7%)
(7)	23(52.3%)	25(64.1%)	59(61.5%)	62(72.1%)	48(59.3%)	30(53.6%)
(8)	22(50.0%)	10(25.6%)	34(35.4%)	41(47.7%)	39(48.1%)	26(46.4%)
(9)	17(38.6%)	19(48.7%)	47(49.0%)	48(55.8%)	45(55.6%)	32(57.1%)
(10)	28(63.6%)	23(59.0%)	54(56.3%)	50(58.1%)	46(56.8%)	34(60.7%)
(11)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(2.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
(12)	4(9.1%)	2(5.1%)	3(3.1%)	2(2.3%)	1(1.2%)	1(1.8%)

問 あなたの住んでいる地区は地震に対して安全と感じていますか. それとも危険と感じていますか.

(1)安全

(4)危険

(2)どちらかといえば安全

(5)無回答, 無効回答

(3)どちらかといえば危険

・地区別

	三会地区 (N=44 人)	杉谷地区 (N=39 人)	森岳地区 (N=96 人)	霊丘地区 (N=86 人)	白山地区 (N=81 人)	安中地区 (N=56 人)
(1)	2(4.5%)	3(7.7%)	9(9.4%)	4(4.7%)	7(8.6%)	1(1.8%)
(2)	30(68.2%)	21(53.8%)	53(55.2%)	33(38.4%)	25(30.9%)	26(46.4%)
(3)	6(13.6%)	9(23.1%)	25(26.0%)	38(44.2%)	36(44.4%)	23(41.1%)
(4)	2(4.5%)	2(5.1%)	6(6.3%)	10(11.6%)	12(14.8%)	5(8.9%)
(5)	4(9.2%)	4(10.3%)	3(3.1%)	1(1.1%)	1(1.3%)	1(1.8%)

問 どんな点が危険と感じますか.

(1)眉山が崩壊した場合に被害が及ぶ危険性があること

(2)普賢岳の溶岩ドームが崩壊した場合に被害が及ぶ危険性があること

(3)木造住宅が密集していること

(4)ブロック塀が多いこと

(5)道路が狭く複雑に入り組んでいること

(6)道路際に通行の障害となるものが多いこと

(7)窓ガラスや看板などの落下の危険性があること

(8)近くに危険物を扱っている工場があること

(9)地盤が弱いこと

- (10) 河川の氾濫や高潮, 津波の危険性があること
- (11) 火災の時延焼を防ぐのに緑地帯や広場が少ないこと
- (12) 近くに消防用水として利用できる川やプールがないこと
- (13) 人や車が多いこと
- (14) その他
- (15) 無回答, 無効回答

・地区別 (複数回答)

	三会地区 (N=8 人)	杉谷地区 (N=11 人)	森岳地区 (N=31 人)	霊丘地区 (N=48 人)	白山地区 (N=48 人)	安中地区 (N=28 人)
(1)	2(25.0%)	6(54.5%)	23(74.2%)	44(91.7%)	35(72.9%)	23(82.1%)
(2)	2(25.0%)	4(36.4%)	9(29.0%)	7(14.6%)	3(6.3%)	10(35.7%)
(3)	2(25.0%)	0(0.0%)	11(35.5%)	15(31.3%)	16(33.3%)	6(21.4%)
(4)	1(12.5%)	0(0.0%)	3(9.7%)	4(8.3%)	5(10.4%)	3(10.7%)
(5)	2(25.0%)	3(27.3%)	9(29.0%)	12(25.0%)	17(35.4%)	6(21.4%)
(6)	1(12.5%)	0(0.0%)	2(6.5%)	3(6.3%)	5(10.4%)	5(17.9%)
(7)	2(25.0%)	0(0.0%)	2(6.5%)	6(12.5%)	8(16.7%)	2(7.1%)
(8)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(3.2%)	2(4.2%)	1(2.1%)	1(3.6%)
(9)	4(50.0%)	1(9.1%)	3(9.7%)	13(27.1%)	10(20.8%)	4(14.3%)
(10)	1(12.5%)	1(9.1%)	5(16.1%)	7(14.6%)	13(27.1%)	5(17.9%)
(11)	1(12.5%)	1(9.1%)	5(16.1%)	15(31.3%)	18(37.5%)	4(14.3%)
(12)	2(25.0%)	1(9.1%)	8(25.8%)	8(16.7%)	12(25.0%)	7(25.0%)
(13)	1(12.5%)	0(0.0%)	7(22.6%)	10(20.8%)	6(12.5%)	2(7.1%)
(14)	1(12.5%)	1(9.1%)	1(3.2%)	0(0.0%)	2(4.2%)	2(7.1%)
(15)	1(12.5%)	0(0.0%)	1(3.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

問 島原市で地震が生じた場合, 災害応急対策でどのようなことが大きな課題になると考えますか。

- (1) 人命救助
- (2) 消火活動
- (3) 給水車などによる応急給水
- (4) 避難所の確保
- (5) 交通路の確保
- (6) 通信の確保
- (7) 復旧資材の運搬
- (8) その他
- (9) 無回答, 無効回答

・地区別 (3つ回答)

	三会地区 (N=44 人)	杉谷地区 (N=39 人)	森岳地区 (N=96 人)	霊丘地区 (N=86 人)	白山地区 (N=81 人)	安中地区 (N=56 人)
(1)	33(75.0%)	24(61.5%)	65(67.7%)	57(66.3%)	60(74.1%)	37(66.1%)
(2)	21(47.7%)	14(35.9%)	40(41.7%)	37(43.0%)	39(48.1%)	30(53.6%)
(3)	8(18.2%)	11(28.2%)	24(25.0%)	18(20.9%)	6(7.4%)	11(19.6%)
(4)	16(36.4%)	15(38.5%)	43(44.8%)	44(51.2%)	38(46.9%)	26(46.4%)
(5)	19(43.2%)	25(64.1%)	47(49.0%)	54(62.8%)	41(50.6%)	35(62.5%)
(6)	12(27.3%)	7(17.9%)	28(29.2%)	21(24.4%)	22(27.2%)	9(16.1%)
(7)	2(4.5%)	3(7.7%)	8(8.3%)	3(3.5%)	4(4.9%)	7(12.5%)
(8)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(1.8%)
(9)	7(15.9%)	6(15.4%)	11(11.5%)	8(9.3%)	11(13.6%)	4(7.1%)

問 地震に備えてお家で今地震保険に加入していますか.

(1)加入している

(2)加入していない

(3)無回答, 無効回答

・地区別

	三会地区 (N=44 人)	杉谷地区 (N=39 人)	森岳地区 (N=96 人)	霊丘地区 (N=86 人)	白山地区 (N=81 人)	安中地区 (N=56 人)
(1)	11 (25. 0%)	9 (23. 1%)	25 (26. 0%)	29 (33. 7%)	21 (25. 9%)	21 (37. 5%)
(2)	28 (63. 6%)	25 (64. 1%)	68 (70. 8%)	52 (60. 5%)	57 (70. 4%)	31 (55. 4%)
(3)	5 (11. 4%)	5 (12. 8%)	3 (3. 1%)	5 (5. 8%)	3 (3. 7%)	4 (4. 7%)

島原市全域の復興・振興
に関するアンケート調査報告書

1996年2月4日 発行

発行者
長崎大学工学部社会開発工学科
高橋 和雄
〒852-8521
長崎市文教町1-14
長崎大学工学部社会開発工学科
Tel:095-847-1111 (内)2710
Tel&Fax:095-848-9639
E-mail:takahasi@civil.nagasaki-u.ac.jp
